

建築教育ニュース

2021

東日本建築教育研究会

もくじ

1. 会長あいさつ	会 長	岡谷 典幸	・ ・ ・ ・ ・	1
2. 2020年度 事業報告	事務局	小林 勝広	・ ・ ・ ・ ・	2
3. 2021年度 事業計画	事務局	小林 勝広	・ ・ ・ ・ ・	3
4. 2020年度 会計報告	事務局	小林 勝広	・ ・ ・ ・ ・	4
5. 2021年度 会計予算	事務局	小林 勝広	・ ・ ・ ・ ・	5
6. 総会・研究協議会報告				来年度に再延期となりましたので、報告なし
7. 夏期研究協議会報告				来年度に再延期となりましたので、報告なし
8. 製図分科会 活動報告	主 査	吉城 守	・ ・ ・ ・ ・	6
9. 計画分科会 活動報告	主 査	江原 聖直	・ ・ ・ ・ ・	7
10. 法規分科会 活動報告	主 査	大木 英生	・ ・ ・ ・ ・	10
11. 構造分科会 活動報告	主 査	小澤 誠志	・ ・ ・ ・ ・	11
12. 施工分科会 活動報告	主 査	林 祐介	・ ・ ・ ・ ・	12
13. 製図コンクール運営委員会 第38回審査結果報告	委員長	森嶋 真一	・ ・ ・ ・ ・	13
14. 製図コンクール運営委員会 第39回審査結果報告	委員長	森嶋 真一	・ ・ ・ ・ ・	17
15. 資格取得推進委員会 活動報告	委員長	石井 直樹	・ ・ ・ ・ ・	23
16. 山形県 建築教育の現状	理 事	中村 裕	・ ・ ・ ・ ・	24
17. 栃木県 建築教育の現状	理 事	黒崎 利之	・ ・ ・ ・ ・	26
18. 石川県 建築教育の現状	理 事	久保 芳男	・ ・ ・ ・ ・	28
19. 静岡県 建築教育の現状	理 事	青木 誠	・ ・ ・ ・ ・	29
20. 事務局報告	事務局	小林 勝広	・ ・ ・ ・ ・	30

2 1.	東日本建築教育研究会 会則	事務局	小林 勝広	・ ・ ・ ・ ・	3 1
2 2.	役員名簿	編集委員会	根岸 俊行	・ ・ ・ ・	3 3
2 3.	関係諸官庁	編集委員会	根岸 俊行	・ ・ ・ ・	3 5
2 4.	会員校一覧	編集委員会	根岸 俊行	・ ・ ・ ・	3 6
2 5.	歴代理事長・会長	編集委員会	根岸 俊行	・ ・ ・ ・	3 9
2 6.	加盟校以外の建築系設置校	編集委員会	根岸 俊行	・ ・ ・ ・	4 0
2 7.	賛助会員一覧	編集委員会	根岸 俊行	・ ・ ・ ・	4 2
2 8.	編集後記	編集委員会	根岸 俊行	・ ・ ・ ・	6 3

1. 会長あいさつ

東京都立田無工業高等学校長
岡谷 典幸

東日本建築教育研究会関係者の皆様、私はこの度令和3年度の東日本建築教育研究会総会において、会長職という大役を仰せつかることとなりました東京都立田無工業高等学校長の岡谷典幸と申します。役員の皆様とともに力を合わせて、本研究会の充実、発展に取り組ませていただきますのでよろしくお願い申し上げます。



昨年から地球規模でパンデミックとなった新型コロナウイルス感染症ですが、わが国でもこれまでに3回の緊急事態宣言が政府から出され、感染拡大防止に取り組んできましたが、いまだ終息へのシナリオが描けていないばかりか、変異株流行への警戒感を強めているような状況です。令和3年6月の時点で新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方の累計が国内では1万3千人を超えました。亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、1日も早く安心して暮らせる日々が来ることをお祈り申し上げます。

さて、我々教育業界においても新型コロナウイルス感染症対策により日々の授業に大きな変化が生じました。都立高等学校において昨年度は年度当初から2か月間におよぶ臨時休校となり、現在も時差登校や分散登校が行われています。またギガスクール構想によりICTを活用したオンライン化への取り組みは急遽導入され、各校ではオンライン学習支援システムの活用を模索しているところです。特に実技系の科目においては対面授業とオンライン授業の組み合わせにより、如何に生徒の学習への取組や理解度を上げるか、また学習意欲向上や達成感をどのように実現できるかが課題になっているのではないのでしょうか？

戦後最大の教育改革といわれる令和4年度新学習指導要領の実施も目前に迫ってきました。多くの学校では、これからの10年間を見据えた新しい教育課程が編成され、それに基づき教科書選定が行われているものと思われます。多くの要因が重なり激動の時代となりましたが、先生方におかれましては工業高校で建築教育を学ぶ生徒たちが、ものづくりを通じて地域や社会に貢献し持続的に発展を担うことのできる人材となれるよう、各校で日々の教育実践をされていると思います。

本研究会においても、より良い教育実践のために研究会としての活動を充実させ工業教育の振興に努めていくためにも、引き続き会員の皆様方のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2. 2020年度 事業報告

東京都立田無工業高等学校
小林 勝広

1. 総会・研究協議会

第70回 秋田大会 新型コロナウイルス感染拡大防止のために次年度に延期し、臨時総会を行う

2. 夏期研究協議会（施工分科会主催）

新型コロナウイルス感染拡大防止のために次年度に延期

3. 都道府県理事会・常任理事会・主査会・委員会等の開催

- 1) 都道府県理事会 役員・都道府県理事で総会開催日に年1回開催
- 2) 常任理事会 役員・常任理事で年2回開催
- 3) 主査会 役員のうち会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計、参与等で年6回開催
- 4) 各種協議会 分科会・委員会の長の召集により開催
- 5) 刊行物
 - (ア) 70周年記念誌（新建築教育ニュース含む 400部、11月発行）
 - (イ) 参考書（構造図集[実教出版発行]）

4. コンクール・作品展示等

第39回 全国高校生建築製図コンクール
募集期間 2020年11月 9日（月）～11月13日（金）

5. 2020年度生徒表彰

（申込み）2021年1月末日、要項は本研究会HPに掲載（115校申請）

6. その他

関係諸団体との連絡調整

3. 2021年度 事業計画

東京都立田無工業高等学校
小林 勝広

1. 総会・研究協議会

第71回 秋田大会 新型コロナウイルス感染拡大防止のために次年度に「再延期」し、臨時総会をおこなう

2. 夏期研究協議会（施工分科会主催）

新型コロナウイルス感染拡大防止のために次年度に「再延期」

3. 都道府県理事会・常任理事会・主査会・委員会等の開催

- 1) 都道府県理事会 役員・都道府県理事で臨時都道府県理事会
- 2) 常任理事会 役員・常任理事で年2回開催予定
- 3) 主査会 役員のうち会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計、参与等で年6回開催予定
- 4) 各種協議会 分科会・委員会の長の召集により開催
- 5) 刊行物
 - (ア) 新建築教育ニュース（9月発行予定）
 - (イ) 参考書（構造図集[実教出版発行]）

4. コンクール・作品展示等

第40回 全国高校生建築製図コンクール
募集期間 2021年10月25日（月）～10月29日（金）

5. 2021年度生徒表彰

（申込み）2022年1月末日、要項は本研究会HPに掲載

6. その他

関係諸団体との連絡調整

4. 2020年度 会計報告

2020年3月31日

会長 早川 忠憲

会計 富田 真理子

1. [収入額]

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
会費	832,000	832,000	0	128校×6500円
賛助金等	659,000	641,000	-18,000	6万円×1団体 3万円×11団体 2万円×2団体 1万円×21団体 個人会員1名
雑収入	50,000	50,000	0	全工協5万円
印税	12,000	9,803	-2,197	実教出版
事業積立金	609,007	609,007	0	一般会計費に100,000補填
繰越金	197,975	197,975	0	
利息	5	10	5	(一般会計3円、賛助会1円、事業積立金6円)
一般会計費	100,000	100,000	0	
合計	2,459,987	2,439,795	-20,192	

2. [支出額]

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
1) 事業費	710,000	676,995	-33,005	
70年記念誌発行費	300,000	396,000	96,000	
講習会補助費	0	0	0	
研究協議会補助	0	0	0	
講演費	0	0	0	
ブロック奨励費	0	0	0	
製図コンクール運営費	100,000	99,274	-726	
分科会活動費(計画)	45,000	43,678	-1,322	
分科会活動費(構造)	45,000	45,000	0	
分科会活動費(製図)	45,000	14,136	-30,864	
分科会活動費(施工)	45,000	10,291	-34,709	
分科会活動費(法規)	45,000	40,678	-4,322	
委員会活動費(広報)	20,000	19,602	-398	
委員会活動費(資格)	45,000	8,336	-36,664	
委員会活動費(編集)	20,000	0	-20,000	
2) 運営費	1,140,980	533,866	-709,774	
会議費	60,000	13,340	-46,660	参与交通費
通信費	520,000	215,721	-304,279	総会通知、各種書類送付
全高建協会費	64,000	64,000	0	128校×500円
印刷費	90,000	69,850	-20,150	生徒表彰印刷、封筒印刷、名刺
事務費	60,000	26,855	-33,145	事務局運営費 振込料 時間外手数料 PC代
ホームページ維持費	150,000	132,000	-18,000	
予備費	196,980	12,100	-184,880	賞状箱 発送用梱包材
支出合計	1,850,980	1,210,861		
3) 事業積立金	609,007	609,013	6	利息代 6円増
合計	2,459,987	1,819,874	-640,113	

3. [差引残高および次年度繰越金]

差引残高	619,921
------	---------

会計監査の結果、収支・記帳等相違ないことを認めます

2020年3月31日

会計監査

米川 誠次

会計監査

高橋 亮

5. 2021年度 会計予算

2021年8月18日

会長 岡谷 典幸

会計 富田 真理子

1. [収入額]

項 目	予 算 額	摘 要
会費	825,500	127校×6,500円
賛助金	659,000	3万円×14団体 2万円×1団体 1万円×21団体 個人会員9名
雑収入	50,000	全工協
印税	12,000	実教出版(構造図集ほか)
事業積立金	609,013	
繰越金	619,921	参考 2019年度 197,975円
利息	5	
合計	2,775,439	

2. [支出額]

項 目	予 算 額	摘 要
1)事業費	790,000	
発行費	350,000	新建築ニュース(旧会員名簿と旧建築ニュース合冊版として)
旅費交通費	0	秋田大会出張補助(2021年度 総会再延期のため 0円)
総会補助費	0	秋田大会開催再延期のため 2023年度開催補助(栃木)54,000円
研究協議会補助	0	夏季研究協議会 秋田大会再延期のため
講演費	0	秋田大会再延期のため
ブロック奨励費	0	ブロック活動運営補助(東北ブロック) 秋田大会再延期のため
分科会活動費(計画)	45,000	
分科会活動費(構造)	45,000	
分科会活動費(製図)	45,000	
分科会活動費(施工)	45,000	
分科会活動費(法規)	45,000	
委員会活動費(編集)	20,000	
製図コンクール運営費	100,000	製図コンクール運営(ポスター作成費含む)
委員会活動費(資格)	45,000	
委員会活動費(広報)	50,000	オフィシャルリモート会議アプリ試行対策活動費30,000円を含む
2)運営費	1,376,426	
会議費	30,000	主査会 常任理事会
通信費	100,000	総会通知、各書類発送 等
全高建協会費	63,500	127校×500円
印刷費	100,000	封筒代・生徒表彰印刷
事務費	60,000	事務局運営、事務消耗品、振込料
事務通信費	81,240	リモート対応(4,270/月×12)およびインク代(30,000):
ホームページ維持費	150,000	
予備費	791,686	賞状箱・発送用梱包材費
3)事業積立金	609,013	事業積立金609,013円から支出なし (年度当初における一般会計費が充分であるため)
4)合計	2,775,439	

3. [差引残高]

0

8. 製図分科会 活動報告

埼玉県立大宮工業高等学校
吉城 守

1. はじめに

製図分科会では「教材の提案」と「研修の場の設定」を大きな目標として活動しています。教科書だけでは指導しにくい部分を補う教材の提案や教員対象の研修会、生徒対象の講習会を実施してきました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、委員会を開催することができず、メール等で情報交換をしてきました。

以下に今後の活動予定や過去に活動してきた内容を報告いたします。

2. 次期総会（秋田大会）研究協議に向けて

令和1年度北海道大会において「製図課題の指導法2」～教科書「建築設計製図」活用から～というテーマで実施したグループ討議が好評だったため、令和2年度秋田大会では、本研究会が主催している製図コンクール課題の指導ポイントについて、グループ討議を実施する方向で検討をしてきましたが、秋田大会が延期となり、更に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からも、接触や密の多いグループ討議は今後も実施が難しいと判断し、別のテーマを再検討しました。

昨年、予期していなかった休校を体験し、今後はリモートによる授業も重要な指導になると考え、「オンラインで学ぶ建築製図」をテーマに設定し、リモートで実施できる製図指導とその教材についての研究を昨年度より進めることにしました。次回の総会（秋田大会）研究協議では、その事例報告や教材の提案が出来ればと思っています。

なお、会員、賛助会員の方で、製図指導の動画等を作成、活用されている方がいらっしゃいましたら、情報提供をお願いしたいと思います。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

3. 建築設計製図資料「平面図・立面図・断面図の描き方」

平成27年、28年に教科書の活用状況調査を実施させていただきました。その結果、多くの学校で教科書以外の教材を活用していることが分かりました。そこで、教材作成の参考資料になればと思い、製図分科会が研究を続けてきました初期製図の指導方法を冊子（建築設計製図資料「平面図・立面図・断面図の描き方」）にまとめ、教材の提供をしてきました。

内容は、1/50の平面図を1/100の表現で描くことにより、描き方の基本を学ぶ方法や、平面図と関連付けて立面図や断面図を描く方法。また、屋根伏図を学びながら立面図や断面図に表現する資料など、初期製図指導の参考にしていただけるような内容を編集いたしました。

総会の研究協議（製図分科会）等で配布を行ってまいりましたが、興味を持った方がいらっしゃいましたら、担当者へメールでご連絡ください。データ（PDF）をお送りいたします。指導の一助としていただければ幸いです。



連絡先：seizu@hnkkk.org

製図分科会主査 吉城 守

埼玉県立大宮工業高等学校全日制 建築科 TEL 048-651-0445

4. 製図分科会担当 教員対象研修会・生徒対象講習会

製図分科会では、製図指導に関する教員向けの研修会や生徒向けの講習会を実施してまいりました。多くの学校の先生方や生徒に参加していただき、大変有意義な講習会・研修会になったと感じています。現在は、新型コロナウイルス感染症防止から実施が難しいところではありますが、この状況が落ち着きましたら、また実施をしたいと思っています。

製図分科会担当の各種研修会の様子は、報告書として本研究会のホームページ及び昨年度発行された70年記念誌に掲載してありますので、参考にしていただければと思います。



5. おわりに

今後も製図の指導方法について研究を重ね、会員の皆様に情報提供と研修の場の提案をしていきたいと考えています。製図指導に関するご意見やご要望をお待ちしております。

現在、製図分科会委員を募集しています。製図指導に興味のある方がいらっしゃいましたら、是非一緒に研究をしていただければと思います。

最後になりますが、今後も製図分科会の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

9. 計画分科会 活動報告

埼玉県立春日部工業高等学校
江原 聖直

1. はじめに

計画分科会では、現在「都市計画」について研究と情報収集を進めております。以下は再延期となっている秋田大会での研究協議内容と、当分科会で購入した研究書籍の紹介を中心に報告させていただきます。

2. 分科会研究テーマについて

「社会を取り巻く環境やコミュニティに関する研究(都市計画)」

①本テーマ採択の経緯

＜テーマ決定の経緯と研究成果の可能性について(仮説)＞

- ・身近な地域を題材とすることが可能であり、各校の事例を集めて情報提供できると期待できる。また、実践例を持ち寄りディスカッションすることも可能である。
- ・リノベーションや地域資源(ストック)を活かす実例が増えてきているが、教科書では一部の事例紹介に留まっているため、本研究が課題研究等の参考となる可能性がある。

②アンケート調査

北海道大会(令和元年度)の研究協議Ⅰで参加者にアンケート調査を行い研究の需要や要望を読み取った。参加校の8割以上で都市計画を授業で扱っている。また、地域のストックを活かし、課題研究などに応用させていることが分かった。

(※結果は建築教育ニュース2019をご参照ください。)

③取組内容について

- ・手始めに都市計画(まちづくり)に関する学校での取組事例を取り挙げ、実際にどのような方法で生徒が関わり研究を進めたのかを調査する。

3. 令和4年度 秋田大会(予定)

総会・研究協議会 分科会研究協議について

テーマ

「宮城県女川町竹浦北地区高台移転まちづくり(事例紹介)」

発表者: 宮城県石巻工業高等学校 建築科教諭 畠山弘幸先生

1) はじめに

女川町竹浦地区は小さな漁村だったが、東日本大震災の津波により、死者・行方不明者は20人を超え、震災前に63戸あった住宅のほとんどが流失し、そして多くの住民は他の地区に移転した。そんな中、竹浦北地区の区長をはじめとする住民らは、「てんでばらばら」にならずに「もう一度、この地で仲間と暮らしたい」と、もとの地区の後背地の高台へ「集団移転」を計画。住民は女川町、宮城県建築士会などと連携して、震災後、まもなくワークショップを開き、景観ルールづくりや建築工事の共同発注などの仕組みづくりを進め、高台移転造成プランについて検討を重ねていた。また、石巻工業高等学校建築部の生徒たちもまちづくりに関わりたい、復興に貢献したいという意向を持っており、また、「全国建築甲子園」に県代表で出場するなど意欲的に活動していた。そのような実績を評価され、平成

27年10月に県建築士会と竹浦北地区住民から「高台移転まちづくり」参加への打診があった。



【震災後の地区の様子】



【移転後の地区の様子】

2) 取組の内容

現地の高台造成工事が土地の掘削などに時間が掛かり、予定より大幅な遅れが生じていた。住民にも不安や焦りが出てきていた。そこで安心感を持ってもらうことと、図面だけでは宅地や住宅の具体的な姿がイメージしにくいことから、高台移転後の敷地模型と竹浦北地区の住民の完成予想住宅模型を作ることになり石巻工業高校建築部に計画地の模型づくりの依頼があった。さらに、模型製作活動中に、地区の集会所の基本設計も高校生にとの依頼があり、このような活動は地域社会の拠点としての役割を学べる絶好の機会と捉え、引き受けることになった。

3) 全体の流れ

(竹浦北地区模型製作と集会所の基本設計から実施設計まで)

- 平成26年 4月 第1回ワークショップ(県建築士会・竹浦北地区・女川町)
平成27年10月 高台移転まちづくり参加(模型製作)の依頼がある。
11月 模型製作スケジュール設定、模型製作開始
平成28年 2月 意見交換会(県建築士会、竹浦北地区住民、石巻工業高校)
生徒が製作中の完成予想模型を前に配置計画などを話し合う。
4月 集会所の基本設計の依頼を正式に受ける
5月 集会所の基本設計案の作成に着手(～7月まで)
10月 竹浦北地区敷地模型と自立再建住宅模型完成
12月 集会所契約、工事着工(建築面積144.61㎡)
平成29年 1月 災害復興公営住宅模型製作、集会所模型製作
3月 竹浦北地区まちづくり模型完成
4月 集会所完成、引き渡し
8月 全国総合文化祭「みやぎ総文2017」出場
12月 竹浦北地区の全住民の移転完了

4) まとめ

この取組を通して、社会人として求められる“考える力”や“現場力”“課題解決能力”の育成を図ることが出来ました。特に、集会所の基本設計は地域社会のまちづくりという身近な課題を学校に提供していただき、地域と学校を結ぶという点から非常に効果のある取組であったと考えられる。



※本研究文書は宮城県内で行われた研究協議の発表資料を一部抜粋しております。

4. 研究書籍の紹介

本分科会のテーマ「社会を取り巻く環境やコミュニティに関する研究（都市計画）」に沿った内容や各校の教育活動の一助となる研究書籍について計画分科会委員がレビューを書きました。

≪ 宮城県石巻工業高等学校 畠山 弘幸 ≫

○「建築プレゼン15の流儀」～人を動かす見せ方、伝え方～

守山 久子著・日経アーキテクチュア編、日経BP、2016年

本書は日経アーキテクチュアの連載企画「人を動かすプレゼン」を再構成したものでアトリエ事務所を率いる設計者から、大手設計事務所や建設会社設計部に所属する設計者まで第一線で活躍する15組の取組を紹介しているもので、設計者の過程からプレゼンまでの流儀をわかりやすくまとめているものである。限研吾氏をはじめとする著名な建築家の基本設計案のプレゼンなどが事細かに書かれており、生徒たちがコンペに臨むにあたって大変参考となる書籍であるため、授業に還元できる。

○「都市計画の基本と仕組み」新しい「都市計画とまちづくり」の教科書

五十畑 弘著、秀和システム、2020年

本書は地域における市民の視点を重視し、ハードを主体とする都市計画から、より広範な領域を対象に、市民による地域主体のまちづくりの活動について、取り上げられており、都市計画やまちづくりを学ぶ生徒たちの入門書として大変有効である。

また、防災まちづくりの分野も地震、台風などに対するハードの防災施設、あるいはソフトの仕組み、制度などについて細かく説明されていて、大変参考になるものである。



≪ 埼玉県立春日部工業高等学校 江原 聖直 ≫

○世界のコンパクトシティ：都市を賢く縮退するしくみと効果

谷口 守編著、学芸出版社、2019年

都市の肥大化や人口減少、低炭素化社会、持続可能な都市開発、健康・安全な社会形成、都市交通対策など、今後の日本の都市が抱える問題はコンパクトな都市形成によって解決されるとある。また、他国の都市がそれぞれの課題に対していかに対応したかのかが詳細に記載されている。諸外国と日本との政策の違いは、諸外国都市は自治体単位の政策ではなく、都市圏として広域的な計画を立て実施している点にある。本書は学生向けとしては、少々込み入った内容ではあるが、課題研究などで参考になると思われる。

○図解 パブリックスペースのつくり方

忽那 裕樹・平賀 達也・熊谷 玄・長濱 伸貴・篠沢 健太編著、学芸出版社、2021年

本書は日本のランドスケープアーキテクトによる、近年完成した14の事例を紹介したものである。写真内に断面図や寸法を合成し、ディテールが実際の空間にどのように影響しているかがよく分かる。また、設計プロセスは行政と建築家だけではなく、地域住民や地権者、商店関係者を巻き込みコンセンサスを得るまで、様々な状況や各方面の要望、地域の歴史や自然を上手く融合させた結果がまとめられている。地域の状況を具体的に読み込み、設計に落とし込む過程はコンペやまちづくりの研究事例として活かされる一冊となっている。



≪ 東京都立田無工業高等学校 田中 和夫 ≫

○「まちづくり・地域づくり」の書籍について

高等学校学習指導要領では、「建築計画」の内容として都市計画が示され、さらに同解説では、都市計画の概要及び都市計画と地域計画について取り扱い、都市計画に関する知識と技術を習得させることをねらいとしている。

「建築計画」の教科書(実教出版)第4章『都市と地域の計画』では、建築と地域の計画や地域の計画とまちづくりにあたっての基本的な事項について概説されている。

同章の4節では「地域の計画とまちづくり」にも触れられているが、建築計画、建築設計製図、課題研究等の授業で、「地域資源を生かしたまちづくり」というテーマで発展的な学習に取り組んでいる学校も多いと思う。筆者も課題研究等で、「地域とまちづくり」をテーマに、フィールドワークに取り組んだ一人である。

今回、改めて「まちづくり」を研究テーマとして、以下の研究書籍を取り上げた。

①「まちづくり学—アイデアから実現までのプロセス」

西村 幸夫編、朝倉書店、2007 年

②「まちの見方・調べ方—地域づくりのための調査法入門」

西村 幸夫・野澤 康編、朝倉書店、2010 年

③「まちを読み解く—景観・歴史・地域づくり—」

西村 幸夫・野澤 康編、朝倉書店、2017 年

④「わが国の近代建築の保存と再生 vol.1」

武庫川女子大学建築学科・建築学専攻監修、
武庫川女子大学出版部、2014 年

①～③は、まちづくり3部作ともいべき書籍で、いずれも朝倉書店から刊行されている。

①は、まちづくりを「構想」「きっかけづくり」「考え方」「マネジメント」の4つのステージで考え、留意すべきポイントや情報が示されている。全国のまちづくりの例も紹介しつつ、共通して認識すべき「まちづくりのスタンス」の在り方をまとめた書である。

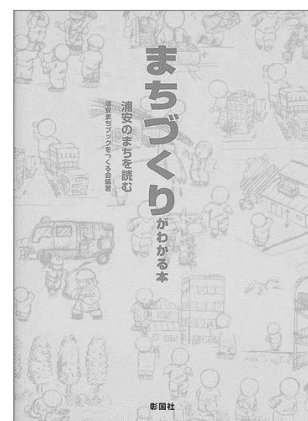
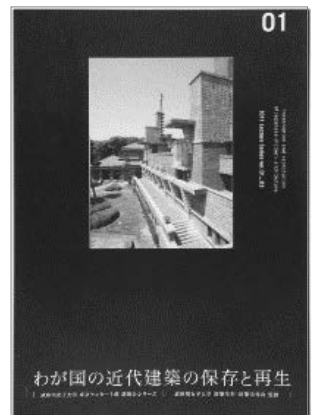
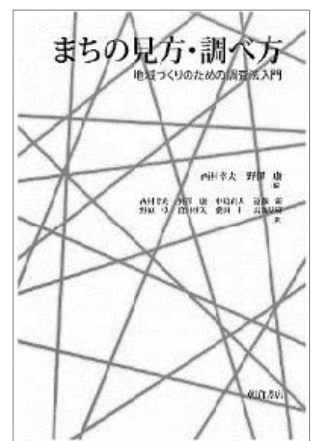
②は、①の姉妹編的な性格をもった書で、「自分たちのすむまちやむらをどのようにとらえたいのか」に関して、その方法を解説した地域調査法の入門書である。現場主義の上に立って、調査の方法を「事実を知る」「現場に立つ・考える」「現象を解釈する」の3つの部に分けて解説している。

そして③は、②と対をなす、続編にあたる書と位置付けられ、具体的なまちの「見方」や「調べ方」を実践に即して紹介している。全国各地で、どのような地域づくりをめざして、どのような調査を企画・実施し、その成果を実践に結びつけたのかを知ることが出来る。こうした調査はどここのまちでも可能であり、また歴史のない地域はどこにもない。このことが調査そのものの普遍的な意味をあらわしている、と述べられている。

④は、近代建築の保存と再生をテーマにして行われた講演会の記録である。都市における保存問題、歴史資源とまちづくりという視点で、上記①～③の書籍とも関連する実践例として大いに参考になる。

近年、全国各地の学校で「持続可能な開発のための教育(ESD)」の取組が進められている。ESD の取組を、「持続可能な開発目標(SDGs)」の17の目標に関係づける実践例も見られる。上記の「まちづくり・地域づくり」の書籍を踏まえた実践は、SDGs の目標11「住み続けられるまちづくりを」にもつながってくる。

2022 年より実施される新高等学校学習指導要領の前文及び総則には、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられている。資質・能力の育成を目指す主体的・対話的で深い学びの実現と、カリキュラム・マネジメントの充実、そして保護者・地域に開かれた教育の実現に結びつけるうえでも、「まちづくり・地域づくり」は様々な視点からアプローチが出来る題材であるといえる。



【関連文献】

- 「まちづくりがわかる本—浦安のまちを読む」浦安まちブックをつくる会編著、彰国社、1999 年
- 「超入門！ニッポンのまちのしくみ」福川 裕一監修・青山 邦彦イラスト、淡交社、2019 年

5. おわりに

当分科会は、昨年度に引き続きコロナ禍の影響により主だった活動ができておりません。会員校、賛助会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしております。今後におきましては、本建築教育ニュースや東日本建築教育研究会ホームページ等を通じ、研究の経過や結果などをお知らせして参る所存です。

これまでの活動にご協力頂きました、賛助会員、分科会委員を初め会員校の先生方に深く感謝いたします。今後とも宜しくお願い申し上げます。

10. 法規分科会 活動報告

神奈川県立藤沢工科高等学校
大木 英生

1. はじめに

令和2度は前年度末の2月27日に政府の新型コロナウイルス感染症対策本部から子どもたちの健康・安全を第一に考え、多くの子どもたちや教職員が日常的に長時間集まることによる感染リスクにあらかじめ備える観点から、全国全ての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に、3月2日から春休みまで、臨時休校をおこなう要請から始まりました。この臨時休校は春休みが明けても続き、4月7日から5月6日まで7都府県に緊急事態宣言が発出されました。その後、緊急事態措置は5月31日まで延長されました。本校の場合、臨時休校は、オンライン授業なども試みながら6月に分散登校が再開されるまで続けました。そして感染拡大を防ぎながら充実した生活を送るための新しい生活様式がはじまり、学校生活においても「学校の新しい生活様式」が始まりました。今年度はこのような状況での活動報告をさせていただきます。

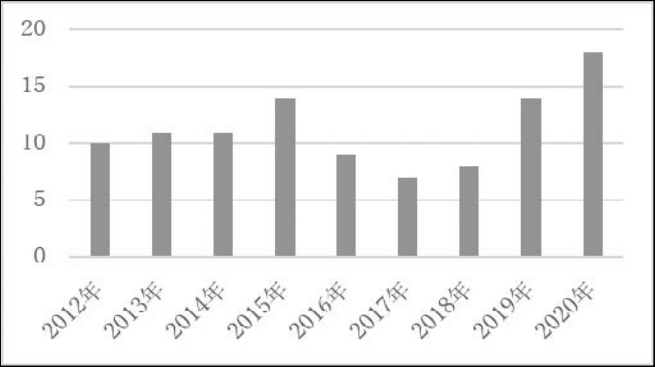
2. 活動報告

I. 分科会議事

例年は年間3回の会議を開催し、総会における分科会研究協議と教材（過去問題集及びワークノート）編集について会議を行っていますが、今年度は一度も開催できませんでした。

II. 建築法規教材（ワークノート及び過去問題集）

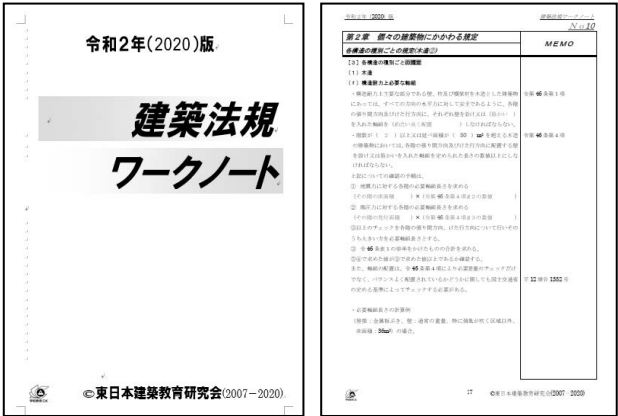
法規分科会では平成16（2004）年から教科書だけでは指導しづらい部分を補う補助教材であるワークノート及び建築法規の過去問題集の編集を行ってきました。授業等で活用してもらえるように編集したデジタルデータを東日本建築教育研究会のホームページ（<https://hnkkk.org/>）に掲載しています。例年、簡単なアンケートに答えていただき印刷許可申請書を送っていただければ印刷可能データをお送りしています。今年度は上記で述べたように一斉に臨時休校が行われたため、本教材を自宅学習課題として利用して頂いた学校が多く、印刷許可申請は昨年より増加しました。



印刷許可申請件数の推移

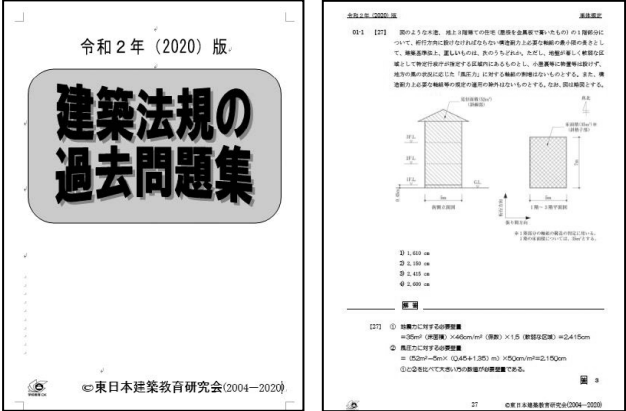
なお、非常事態に鑑み7月より12月まで印刷可能データをホームページ上に掲載し、ホームページより自由に印刷できるようにしました。

「建築法規 ワークノート」は研究調査による研鑽として、生徒自らがノート代わりに手元に置きながら必須事項を整理できるようにしています。



【建築法規ワークノート】

「建築法規 過去問題集」は二級建築士及び2級建築施工管理技術技士の過去問題を中心に編集しています。



【建築法規の過去問題集】

ワークノート及び過去問題集は分科会の会員が分野ごとに分担して編集しています。今年度は1. 建築士制度規定を大木英生（神奈川県立藤沢工科高等学校）、2. 建築士単体規定を谷康博（福井県立武生工業高等学校）、3. 建築士集団規定を大森慎一（岩手県立水沢工業高等学校）、4. 建築士その他を荻沼俊一（宮城県白石工業高等学校）5. 2級建築施工管理技士を米原良慈（東京都立蔵前工業高等学校）が担当しました。

3. 今後の活動予定

- ・「建築法規 ワークノート」、「建築法規 過去問題集」の編集
- ・研究テーマ「まちの中の建築法規」

今後も「学校の新しい生活様式」を踏まえて活動していく予定です。会員の皆様のご指導ご協力の程、よろしくお願いいたします。

1 1. 構造分科会 活動報告

東京都立総合工科高等学校

小澤 誠志

1. はじめに

構造分科会では、「授業で活用できる教材の研究」と「教員の研修の機会を作る」ことを目的として活動しています。今年度も数名の委員が交代しましたが14名と本研究会の分科会では一番の大所帯となっています。活動としては年5～6回程度、東京周辺で建築構造・建築構造設計の内容に関わる研究・協議を行っています。しかしながら、各委員の所属校の行事予定がそれぞれ異なるため、なかなか全員の参加ができない状況ですが、工夫をしながら活動をしていきたいと思っております。

さて、構造分科会報告としては令和元年度の北海道大会以降の活動についてご報告いたします。

昨年度（令和2年度）は、新型コロナウイルス感染症により、全国的に高等学校の生徒は登校禁止の期間が設けられたり、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置による影響で様々な活動が中止されたり、厳しい制約の中での活動を強いられました。秋田大会も2年連続で延期ということになり、非常に残念に思います。

2. 分科会活動報告

(1) 令和元年度 第3回分科会

日時：令和元年10月11日（金）

会場：東京都立蔵前工業高等学校

内容：夏期研究協議会の反省（高強度コンクリートの破壊試験）と次期大会の研究協議のテーマについて検討を行いました。

① 夏期研究協議会の反省

- ・参加していただいた先生方には、鉄筋の配筋、高強度コンクリートの練り混ぜ、スランプフロー試験等の体験活動では特に、意欲的に取り組んでもらえました。
- ・高強度コンクリートの圧縮試験では、その場では供試体の破壊の瞬間の爆裂の様子を爆音とともに体験することができました。
- ・高強度コンクリートの圧縮試験において、供試体の爆裂の状況をハイスピードカメラで撮影しました。この動画を編集し、研究会のHPへアップすることにしました。
- ・現場見学会は事務所と工事現場まで、徒歩で15分ほどかけて移動したので、真夏の時期では暑さが厳しかった。

② 次期大会の研究協議のテーマ

- ・今回の夏期研究協議会はコンクリートの材料実験を扱ったので、今後は木構造に関する内容で検討を進めることを確認しました。
- ・2級建築施工管理技術検定試験の内容等が変更されることから、それに関する研修も検討したいという意見もでました。
- ・木構造に関して、「プレカットの継手、仕口の引張試験」、

「ツーバイフォー構造に関する研修」、「木造高層建築物」、「木構造の耐震」、「新教育課程に基づいた内容検討」等の意見をいただきました。

各自、テーマ候補に関して次回の構造分科会までに情報収集を行い、検討を続けることを確認しました。

(2) 令和元年度 第4回分科会

日時：令和元年12月6日（金）

会場：東京都立蔵前工業高等学校

内容：夏期研究協議会の反省と次期大会の研究協議のテーマと内容集約。

- ・夏期研究協議会の高強度コンクリートの圧縮試験の供試体の爆裂状況動画を確認しました。3種類の動画を編集し、研究会のHPへアップすることを確認しました。
- ・構造分科会へ、「実習等、動画など東日本のHPにあげて共有できる環境ができるとありがたい。」とのご意見を頂きました。
- ・以下、各委員からの次期大会の研究協議のテーマの情報収集結果をまとめます。

今後は意見を集約し、次期大会の研究協議の際にどのような構成で研修内容を組み立てられるか詳細を検討する。

①基本的にはツーバイフォー構造とプレカット工法に関して、現実の建築現場で行われている内容を教員の研修として紹介したい。ツーバイフォー構造と在来工法のシェアバランスも考慮しながら検討したい。

②在来工法の水平荷重に対する粘りの実験でプレカットとの比較検討をしても面白いのではないかな。

③実習の動画の研究会HPへのアップや、資格取得に絡めた内容も検討したい。

(3) 令和元年度 第5回分科会

日時：令和2年2月4日（火）

会場：東京都立蔵前工業高等学校

内容：令和3年度以降の研究協議のテーマと内容集約。

- ・春日部工業高校建築科のツーバイフォー工法の施工体験実習について情報提供がありました。
- ・プレカットに関する協会や企業の情報も持ち寄られ、まず、構造分科会として各施設への見学会を実施する方向で検討することになりました。

3. おわりに

令和元年度第6回分科会を令和2年3月25日（水）に開催予定でしたが、コロナ渦により、これ以降対面による分科会が開催できておりません。

現在は各分科会委員でこれまでの活動内容について情報収集や教材研究をしつつ必要に応じてメールで意見交換をしております。この状況が長引くようならオンライン会議の検討もしたいと思っております。一日も早く以前の日常に戻ることを祈っております。

12. 施工分科会 活動報告

千葉県立市川工業高等学校

林 祐介

1. はじめに

施工分科会では、「建築施工」と関連付けた「実習」指導について研究主題を設定し活動してきました。

令和2年度は夏期研究協議会担当分科会として、前年度より準備をすすめておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともない、本研究会においても秋田大会が延期となり、夏期研究協議会も延期となってしまいました。本来であれば、「鉄筋コンクリート構造の躯体施工実習の指導」と題して技能検定「鉄筋施工（鉄筋組立て作業）3級」及び「型枠施工（型枠工事作業）」の課題を通して、鉄筋コンクリート構造の施工実習の指導法について研究協議を開催する予定でした。

緊急事態宣言が発出され、会員校においても、臨時休校や分散登校、時差登校などの対応に追われたことと推察いたします。学校の教育活動もリモート授業など様々な形態を試みる必要がでてきて、マスクの常時着用、3密を避けた生活、毎日の健康観察等、「新しい生活様式」とまで唱われるようになりました。

新型コロナウイルス感染防止対策を考慮し、分科会活動も思うように進められず、今後の活動内容や活動方法についても考えさせられる1年となりました。

これまでのような活動できない1年でありましたが、以下に活動報告をさせていただきます。

2. 活動報告

（1）無料動画サイトを利用した教材の研究

かつては建設会社での実務経験がある教職員などから、建築現場の写真や動画などの資料を提供していただき、教材等にすることもありました。しかし、近年では無料動画サイトに建築分野における専門的な施工実績や施工方法を解説する動画などが多数存在しており、教材収集の方法も変化してきています。

動画の内容など、精査する必要がありますが、本当にわかり易くまとめた動画などもあります。建築分野では、資材や機械など、大がかりになってしまうこともあり、教材研究として動画作成をすることは難しい内容も多数あります。そのような時に、建築工事現場だからこそ撮影できる動画などが、誰でも閲覧できるようになっているので、教材として活用することにより、効果的に授業を展開できます。

コロナ禍において、集まって研究協議を行うことが難しいこともあり、各委員で科目「建築施工」の重要用語を中心に、教科書の单元ごとに授業に適した動画を探し、情報共有をはかっています。リモート授業を実施した学校もあるかと思いますが、スライドや自作プリントだけでなく、インターネットを活用した、動画の教材を活用することも今後の授業の在り方ではないかと考え活動しています。

（2）研究視察

期 日：令和2年8月28日（金）

会 場：清水匠技塾

千葉県船橋市潮見町 37-2

コロナ禍において、委員が集まって視察を行うことが難しいこともあり、主査のみで視察を行った。

清水匠技塾は、技能労働者向けの教育訓練施設として、清水建設株式会社が令和2年7月より新設・運営を始めた施設である。協力会組織「兼喜会」と共同で運営し、新規入職者教育のほか、多能工養成訓練や建設用ロボットのオペレーター育成訓練なども実施している施設である。

会議室や受講者のためのシャワールームなどの設備も完備されている。実習棟も空調設備が整っており、季節選ばず快適に研修を受けることができる。

見学させていただいた日も、新規入職者の講習会が実施されており、複数の協力会社の同期入職者同士、横のつながりができることも、この研修施設の良い点であるとの説明を受けた。

研修施設は、事前に予約をすれば、高校生の見学だけでなく、技能体験研修等の実施も可能であるとのことである。

現在、富士教育訓練センターでの研修も実施しているが、実習を体験できるような施設はあまりないので、今後、本研究会との共同企画で研修会等の実施の可能性を感じる研究視察となった。

3. おわりに

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、緊急事態宣言が発出され、学校現場のみならず、日本中が混乱し、その対応に追われることになりました。学校行事においては、with コロナの時代を踏まえた学校の新しい生活様式を工夫し、その教育的意義や必要性を再度吟味するなど思い切った見直しを行い、感染防止対策を徹底したうえで、実施方法や内容、日程短縮や中止をするなど、臨時休校があっても、授業時間が不足することがないように、臨機応変に対応する必要がありました。

施工分科会でも会議の在り方や、活動方法について考えさせられる一年でした。

現在、施工分科会は委員8名で活動しております。しかし、年数回の分科会活動も、公務等で出張が困難な委員も多く、限られた委員で活動しているのが現状です。分科会活動を通して、他県の先生方との情報交換等、委員としての活動自体が有意義な研修の場となっております。建築施工や実習指導に関心の高い先生におかれましては、施工分科会にお力添えいただきますようお願いいたします。

13. 2019 年度 第 38 回全国高校生建築製図コンクール結果報告

製図コンクール運営委員会
委員長 森嶋 真一

第38回全国高校生建築製図コンクールには、東日本建築教育研究会の加盟校および加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂きました事を厚くお礼申し上げます。

1. 応募校数

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外			
						全日制		定時制		全日制		定時制	
2019	H30	2019	H30	2019	H30	2019	H30	2019	H30	2019	H30	2019	H30
48 校	49 校	44 校	44 校	4 校	5 校	38 校	39 校	4 校	5 校	6 校	5 校	0 校	0 校

2. 応募作品数

課題名	加盟校別	回数	学校数・作品数		全日制・作品数		定時制・作品数	
課題 1	加 盟 校	2019	36 校	88 点	32 校	81 点	4 校	7 点
		H30	41 校	107 点	36 校	97 点	5 校	10 点
	加盟校以外	2019	6 校	15 点	6 校	15 点	0 校	0 点
		H30	5 校	13 点	5 校	13 点	0 校	0 点
課題 2	加 盟 校	2019	14 校	35 点	13 校	33 点	1 校	2 点
		H30	11 校	25 点	11 校	25 点	0 校	0 点
	加盟校以外	2019	1 校	3 点	1 校	3 点	0 校	0 点
		H30	1 校	3 点	1 校	3 点	0 校	0 点
課題 3	加 盟 校	2019	19 校	44 点	19 校	44 点	0 校	0 点
		H30	17 校	36 点	17 校	36 点	0 校	0 点
	加盟校以外	2019	1 校	2 点	1 校	2 点	0 校	0 点
		H30	1 校	3 点	1 校	3 点	0 校	0 点
課題 4	加 盟 校	2019	7 校	15 点	7 校	15 点	0 校	0 点
		H30	8 校	14 点	8 校	14 点	0 校	0 点
	加盟校以外	2019	1 校	3 点	1 校	3 点	0 校	0 点
		H30	1 校	3 点	1 校	3 点	0 校	0 点
課題 5	加 盟 校	2019	5 校	9 点	5 校	9 点	0 校	0 点
		H30	5 校	6 点	5 校	6 点	0 校	0 点
	加盟校以外	2019	1 校	3 点	1 校	3 点	0 校	0 点
		H30	1 校	3 点	1 校	3 点	0 校	0 点
応 募 校 計		2019	217 点		(加盟校： 191 点・加盟校以外 26 点)			
		H30	213 点		(加盟校： 188 点・加盟校以外 25 点)			

3. 校内作品審査数の総計

加盟校別	回数	課題 1	課題 2	課題 3	課題 4	課題 5
加盟校	2020	1,262 点	393 点	514 点	38 点	43 点
	2019	1,411 点	320 点	422 点	23 点	7 点
加盟校以外	2020	209 点	5 点	2 点	3 点	3 点
	2019	91 点	3 点	3 点	4 点	3 点
審査数計	2020	1,471 点	398 点	516 点	41 点	46 点
	2019	1,502 点	323 点	425 点	27 点	10 点

4. 審査について

(1) 賞の選出

- ①各課題最高作品を金賞とし、順次銀賞銅賞入賞とする。
- ②各課題定時制課程参加作品から入賞以上を選出する。

(2) 審査方法

①一次審査

- ア. 審査は委員全員で行う。
- イ. 原図を使用する。
- ウ. 各課題参加数の1/5程度（最大20点程度）を目安に絞り、入賞作品の対象とする。
- エ. 審査基準は、各課題の観点に従う。
- オ. 作品を相対的に比較する。

②二次審査

- ア. 審査は委員全員で行う。
- イ. 表題欄をカットする。
- ウ. 複写図面を使用し、チェックを書き込む。
- エ. 入賞作品以外の作品で再度入賞以上に該当するものがないか確認する。

③最終決定

- ア. 最終決定を投票で行う。

(3) 課題別審査の観点

①課題1「軒先マワリ詳細図」

- ア. 図が正確に描かれているか。(部材の大きさや厚み・金物等の形状・部材相互の距離等)
- イ. 明瞭な図であるか。(線の使い分け・線の始端から終端までが均一な太さ、濃さであるか)
- ウ. 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)
- エ. その他
 - 松丸太に関して
 - ・太鼓落しを表現する曲線はフリーハンドより定規使用の方が良い。
 - ※ただし曲線がフリーハンドで描かれていても失格ではない。
 - 野縁に関して
 - ・位置は軒桁中心から測られているか。
 - 天井に関して
 - ・位置が製図例2-6に基づいているか。
 - 線の使い方に関して
 - ・下書き線が濃すぎないか。
 - ・仕上げ線（断面線）が極端に太すぎないか。

②課題2「木造平家建専用住宅」

- ア. 敷地の配置、外構計画に工夫があるか。
- イ. 平面図は正確に描かれているか。(教科書3章に準じているか)
- ウ. 立面図に工夫があるか。(窓の形状や種類、位置等が平面図と異なっていないか)
- エ. 断面図に工夫があるか。(屋根形状を生かした内部空間であるか)

- オ. 屋根の形状に工夫があるか。(機能を充たす屋根の形状であるか)
- カ. 図面相互に違いがないか。
- キ. 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)
- ク. 製図規約を重視しているか。
- ケ. その他

配置図兼平面図に関して

- ・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
- ・隣地境界線を実線で描く等、線の使い方を間違えていないか。
- ・床の仕上げを表現していないか。
- ・ロフトを計画した場合はそれを描いているか。

立面図に関して

- ・全体的なバランスが良いか。

断面図に関して

- ・平面図に記された切断線の位置との違いがないか。
- ・ロフトを計画した場合はそれを描いているか。
- ・ロフトの天井が極端に高くないか。

屋根伏図に関して

- ・水勾配や寸法が記入されているか。
- ・屋根仕上に用いた材料名称が描かれているか。
- ・断面線の表示がされているか。

③課題3「木造2階建専用住宅」

- ア. 計画性を重視する。
- イ. 配置・平面・立面・断面・外構の計画に工夫があり機能的であるか。
- ウ. 構造的に無理がないか。
- エ. 製図規約に配慮しているか。
- オ. その他

設計主旨に関して

- ・主旨と計画に違いがないか。

配置図兼平面図に関して

- ・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
- ・家族構成に対して、所要室や各室の面積に配慮しているか。
- ・将来的に高齢者に配慮した計画であるか。
- ・外構計画において高低差に配慮しているか。
- ・車と駐車スペースの大きさや表記方法に間違いがないか。
- ・平面図に家具が記入されているか。
- ・平面図に柱や通し柱が抜けていないか。
- ・平面図に記された階段の段数は正確か。
- ・平面図に記された階段には、手すりを設けているか。

立面図に関して

- ・平面図との違いがないか。
- ・全体的なバランスが良いか。

断面図に関して

- ・切断位置が開口部を含む位置であるか。
- ・形状が不適切でないか。(異常に高すぎる、低すぎる)
- ・高さに関する寸法の記入があるか。

④課題4「木造平家建専用住宅」(CAD製図)

注意：2枚提出されているか。(1枚しか提出されていない場合は失格とする)

ア.敷地の形状や配置・外構計画に工夫があるか。

イ.平面図は正確に描かれているか。(教科書第3章に準じているか)

ウ.立面図に工夫があるか。(窓の形状や種類、位置等が平面図と異なっていないか)

エ.断面図に工夫があるか。(屋根形状を生かした内部空間であるか)

オ.屋根の形状に工夫があるか。(機能を充たす屋根の形状であるか)

カ.図面相互にくい違いがないか。

キ.明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)

ク.製図規約を重視しているか。

ケ.その他

- ・ロフトを計画した場合は、それを平面図や断面図等に描いているか。
- ・手書き表現で描かれているか。(CAD特有の表現のままでないか)

⑤課題5「木造2階建専用住宅」(プレゼンテーション作品)

注意：2枚提出されているか。(1枚しか提出されていない場合は失格とする)

ア.プレゼンテーション・表現を重視する。

(プレゼンテーションとつくりだされている作品が一致しているか)

- ・パース、模型、説明、着色等で判断する。

イ.製図規約については重視しない。

ウ.その他

- ・計画や表現はオリジナリティがあるか。
- ・各図面間での整合性はあるか。
- ・縮尺については重視しない。
- ・表面に氏名等を記入しない。

5. 審査講評

(1) 課題1 軒先マワリ詳細図

金賞図面は、線の使い分けや強弱がしっかりとしており、文字のバランスや作図の正確性のどれもが優れていて素晴らしい作品でした。特に、文字が美しく揃って書けており、大変見栄えのある図面でした。

金賞以外の図面についても、丁寧かつ、美しく描かれている作品が見受けられたが、単純な1/50の目盛の読み間違えなのか、寸法がとれておらず、惜しい作品がありました。

【アドバイス】

次年度は、基本的なスケールの目盛の読み方などに注意し、正確性のある図面を期待します。

(2) 課題2 木造平家建専用住宅

金賞図面は、ありませんでした。

金賞以外の図面についても、複雑な屋根を組み合わせで工夫した作品や線のメリハリがはっきりしたよい作品が見受けられました。

しかし、漢字(文字)の間違いや寸法値の記載漏れ、真壁併用壁の線の使い分けなど、明らかなミスが多く作図は優れていても金賞や入賞にはならない作品があり大変残念でした。

【アドバイス】

次年度は、基礎基本に立ち戻り、作図力や正確性を求めます。独自課題ではないため、取り組みやすいのではないのでしょうか。

(3) 課題3 木造2階建専用住宅

金賞図面は、ありませんでした。

金賞以外の図面についても、和の空間を工夫したり、趣味を生かしたつくりや細かい表現がきれいに描けていたり大変考えられている図面がありました。その一方で、立面図や断面図が乏しく、整合性のない図面があり、もう少し再考すれば、もっとよい作品になっていたと思う作品が多く見受けられました。

【アドバイス】

次年度は、平面図だけでなく立面図や断面図まで、全てにこだわりのある作品を期待します。

(4) 課題4 木造平家建専用住宅(CAD製図)

金賞図面は、沖縄風という素材を考えて作図され、CADの特性を活かして細かく作図している作品でした。

金賞以外の図面についても、立面図や屋根伏図を工夫し、努力した後が見受けられました。また、屋根形状だけでなく、庭園計画を考えられた作品もありました。

【アドバイス】

次年度は、課題2の平面図が教科書の製図例になるため、工夫を凝らした作品を期待します。

(5) 課題5 木造2階建専用住宅(プレゼンテーション作品)

金賞図面は、全体のレイアウトがよく、鳥瞰図を取り入れ工夫し、より一層想像できるプレゼンテーション作品でした。また、日本の四季を意識した構成になっており、色彩への配慮もよく、わかりやすく見応えのある作品でした。

金賞以外の図面についても、レイアウトを工夫したりしているが、着色にももう少し力を入れればもっとクオリティがあがるような図面もありました。

【アドバイス】

次年度は、自分のテーマに沿ったこだわりの強い、見ごたえのある、色彩豊かなプレゼンテーション作品を期待します。

6. 入賞者

(1) 課題1 軒先マワリ詳細図

金賞

神奈川県立神奈川工業高等学校(定時制)

建設科2年 八木 恒星

銀賞

山梨県立甲府工業高等学校

建築科1年 平原 小紘

銀賞

山梨県立富士北稜高等学校

建築デザイン系列2年次

渡邊 蒼生

銀賞

群馬県立前橋工業高等学校

建築科1年 齋藤 萌伽

銅賞
長野県池田工業高等学校 建築科2年 後藤 彪雅
山梨県立富士北稜高等学校 建築デザイン系列2年次
鈴木 秀岳

入賞
愛知県立豊橋工業高等学校 建築・土木科1年
西村 捷英
愛知県立半田工業高等学校 建築・土木科1年
荒木 啓克
愛知県立佐織工業高等学校 建築科1年 水野 絢心
群馬県立前橋工業高等学校（定時制）
建築科1年 関口 由奈
神奈川県立神奈川工業高等学校（定時制）
建設科2年 渡辺 佳夏

（2）課題2 木造平家建専用住宅

金賞
該当なし
銀賞
神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科2年 永久保 温貴
銅賞
神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科2年 白木 つぐみ
銅賞
名古屋市立工芸高等学校 建築システム科2年
大原 仙雅
岐阜県立中津川工業高等学校 建設工学科2年
松尾 まりん
入賞
愛知県立碧南工業高等学校 建築科2年 山崎 正裕
神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科2年 見田 祐希
群馬県立前橋工業高等学校（定時制）
建築科2年 柳原 竜馬

（3）課題3 木造2階建専用住宅

金賞
該当なし
銀賞
神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科3年 田澤 杏子
銅賞
宮城県石巻工業高等学校 建築科2年 保原 愛奈
銅賞
愛知県立豊橋工業高等学校 建築科3年 林 茉莉那
岐阜県立岐南工業高等学校 建築科3年 長屋 百美
入賞
宮城県石巻工業高等学校 建築科2年 阿部 拓実
新潟県立新潟県央工業高等学校 建築工学科3年
小菅 悠斗
新潟県立新潟県央工業高等学校 建築工学科3年
田崎 健太
神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科3年 蛇澤 舞友
宮城県石巻工業高等学校 建築科2年 高橋 依吹
山梨県立甲府工業高等学校 建築科3年 名取 あかり

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科3年 服部 真央
松山聖陵高等学校 建築科3年 濱邊 麻帆

（4）課題4 木造平家建専用住宅（CAD製図）

金賞
松山聖陵高等学校 建築科3年 菅原 瑠希
銀賞
神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科3年 颯田 堅斗
銅賞
愛知県立半田工業高等学校 建築科3年 大橋 卓真
岐阜県立岐南工業高等学校 建築科2年 松尾 真也
愛知県立半田工業高等学校 建築科3年 五十嵐 建
入賞
埼玉県立春日部工業高等学校 建築科2年 松尾 洸輝
愛知県立半田工業高等学校 建築科3年 岩原 龍夜
松山聖陵高等学校 建築科2年 高橋 陸
栃木県立真岡工業高等学校 建設科2年 小崎 沙月

（5）課題5 木造2階建専用住宅（プレゼンテーション作品）

金賞
松山聖陵高等学校 建築科3年 宇都宮 紗帆
銀賞
松山聖陵高等学校 建築科3年 黒田 竣平
銅賞
愛知県立一宮工業高等学校 建築科3年 伊藤 勇輝
入賞
宮城県石巻工業高等学校 建築科3年 今野 楓雅
愛知県立佐織工業高等学校 建築科3年 清水 大揮
埼玉県立春日部工業高等学校 建築科3年 水野 聖巴
宮城県石巻工業高等学校 建築科3年 山内 悠一斗

7. 製図コンクール運営委員（審査員）

佐藤 康雄（神奈川工定）	高野 史晃（真岡工）
ト部 寿々子（市川工）	村井 和幸（新潟県央工）
笹崎 ひろみ（墨田工）	中曾根 康（高崎工）
荒木 宏道（館林商工）	畠山 弘幸（石巻工）
田村 雄志（川崎総合科学）	佐藤 裕二（葛西工）
萱沼 俊一（白石工）	菅谷 太郎（川越工）
松原 昌忠（田無工）	吉村 公利（大宮工）
首代 昌紀（東総工）	森嶋 真一（甲府工）

（敬称略・順不同）

14. 2020年度 第39回全国高校生建築製図コンクール結果報告

製図コンクール運営委員会
委員長 森嶋 真一

第39回全国高校生建築製図コンクールには、東日本建築教育研究会の加盟校および加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂きました事を厚くお礼申し上げます。

1. 応募校数

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外			
						全日制		定時制		全日制		定時制	
2020	2019	2020	2019	2020	2019	2020	2019	2020	2019	2020	2019	2020	2019
44校	48校	40校	44校	4校	4校	35校	38校	4校	4校	5校	6校	0校	0校

2. 応募作品数

課題名	加盟校別	回数	学校数・作品数		全日制・作品数		定時制・作品数	
課題 1	加 盟 校	2020	32 校	83 点	29 校	76 点	3 校	7 点
		2019	36 校	88 点	32 校	81 点	4 校	7 点
	加盟校以外	2020	5 校	13 点	5 校	13 点	0 校	0 点
		2019	6 校	15 点	6 校	15 点	0 校	0 点
課題 2	加 盟 校	2020	14 校	34 点	12 校	31 点	2 校	3 点
		2019	14 校	35 点	13 校	33 点	1 校	2 点
	加盟校以外	2020	1 校	3 点	1 校	3 点	0 校	0 点
		2019	1 校	3 点	1 校	3 点	0 校	0 点
課題 3	加 盟 校	2020	19 校	45 点	18 校	43 点	1 校	2 点
		2019	19 校	44 点	19 校	44 点	0 校	0 点
	加盟校以外	2020	1 校	2 点	1 校	2 点	0 校	0 点
		2019	1 校	2 点	1 校	2 点	0 校	0 点
課題 4	加 盟 校	2020	5 校	13 点	5 校	13 点	0 校	0 点
		2019	7 校	15 点	7 校	15 点	0 校	0 点
	加盟校以外	2020	1 校	3 点	1 校	3 点	0 校	0 点
		2019	1 校	3 点	1 校	3 点	0 校	0 点
課題 5	加 盟 校	2020	8 校	19 点	8 校	19 点	0 校	0 点
		2019	5 校	9 点	5 校	9 点	0 校	0 点
	加盟校以外	2020	1 校	2 点	1 校	2 点	0 校	0 点
		2019	1 校	3 点	1 校	3 点	0 校	0 点
応 募 校 計		2020	217 点		(加盟校： 194 点・加盟校以外 23 点)			
		2019	217 点		(加盟校： 191 点・加盟校以外 26 点)			

3. 校内作品審査数の総計

加盟校別	回数	課題1	課題2	課題3	課題4	課題5
加盟校	2020	1,031点	394点	421点	27点	55点
	2019	1,262点	393点	514点	38点	43点
加盟校以外	2020	136点	4点	2点	5点	2点
	2019	209点	5点	2点	3点	3点
審査数計	2020	1,167点	398点	423点	32点	57点
	2019	1,471点	398点	516点	41点	46点

4. 審査について

(1) 実施要項の変更について

「第39回全国高校生建築製図コンクール」については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点を考慮しつつ、作品審査実施の可能性を探ったが、以下の問題点が挙げられた。

<問題点>

- ①審査に参加される先生方の安全確保を最優先することを考慮し、対面を伴う作品審査の開催は困難であること。
- ②県外出張の制限を設けている教育委員会もあること。
- ③休校による授業時間数の確保のため、学校行事などを中止する学校が多い中、本コンクール審査の出張により、最優先されるべき「授業」に支障を来すことはあってはならないこと。
- ④授業時間数の削減や授業内容の精選により、本課題に取り組む時間確保が難しいことから応募数の減少が見込まれること。
- ⑤作品募集をした場合、審査が今まで通りの厳正な審査の実施が困難であること。(リモートでの審査や応募作品を全てデータ化し、審査委員に配布・審査することも検討したが実施は難しいと判断)

これらのことを審議した結果、今年度の作品募集は「中止」やむなしとの結果に至った。ただし、既に課題に取り組んでいる学校への配慮も必要で、成果を評価しないことは今後の教育活動並びに本コンクールの存在意義が問われる。したがって、要項を変更することで、作品審査・表彰の代替実施を行うこととした。

(2) 変更後の実施要項について

当初の要項から以下の点を変更し、郵送並びにホームページにて周知を行った。

①課題

令和2年4月提示済で変更なし

②提出方法

作品送り状、賞状返信用封筒 のみを期限内に郵送する。

③受付期間

令和2年11月23日(月)～11月27日(金) 必着
(受付期間を2週間ほど延長)

④審査方法など

課題ごとに各学校で審査した作品の中から、優秀作品を全・定課程別で3点以内の作品全てに「特別賞」を授与する。
(作品送り状の提出をもって授与)

(3) 実施要項の変更で生じる諸対応について

要項の変更で生じる諸対応については、製図コンクール運営委員会内で検討を行った。その対応については次の通りとし、このような事情をご理解のうえご協力をお願いした。(以下の内容は、周知した原文である)

①校内審査表彰の賞状について

特別賞ではなく校内審査の結果を表彰してはどうか?

<対応>

予算の関係上、様々なタイプの賞状を作成することが難しい。そのうえで、

- ・本コンクールの表彰はすべて「特別賞」とし、印刷したものを送付する。
- ・校内審査をして3点を応募しているのが前提ですので、校内で賞を決めることは可である。
- ・校内で賞を決めた場合は、賞状の書き方見本を参考に「(校内審査 ○賞)」を入れることは可とする。(書き方見本は、賞状郵送時に同封します)

②全国工業高等学校長協会主催

「ジュニアマイスター顕彰制度」への点数反映について

今回の「特別賞」はジュニアマイスターの点数にどのように反映されるか?

<対応>

ジュニアマイスターの点数へ反映させたいという熱い気持ちは、皆さん同じ意見だと思えます。当初は、コンクールそのものを中止ということも検討しました。しかし、既に課題に取り組んでいる学校への配慮も必要であること、また成果を評価しないことは今後の教育活動並びに本コンクールの存在意義が問われることを考慮し、「奨励賞」を授与する考えでした。しかし議論を進める中で、「奨励賞」は今まで参加賞的な意味合いで授与されていることから、今回は特別措置として「特別賞」としました。また、授業時間数の削減や授業内容の精選により、本課題に取り組む時間確保が難しいことから応募数の減少が見込まれること、従来通りの審査が適正に行われないことを鑑み、マイスター制度への反映は行わない(できない) こととします。

③各都道府県独自の表彰制度への対応について

本県では「県高校生専門資格等取得表彰」というものがあり、製図コンクールにおいては金賞銀賞を授与されると6点、銅賞入選では3点を取得することができます。高校3年間で取得した資格や表彰等の点数が合計で9点以上になると県知事から表彰されるというものです。もし、本県の高校生が応募して「特別賞」を授与された場合は、県内での判断で点数を決めることになると思います。各都道府県でも同じような表彰制度があった時、足並みを揃えることは難しいと思いますが、東日本建築教育研究会の具体的な方策があれば、回答をお願いします。

<対応>

貴県の表彰規定では「製図コンクールにおいては金賞銀賞を授与されると6点、銅賞入選では3点を取得」とありますが、この基準は県下の高校(もしくは教育委員会)などで決

めていただいていると思います。今回の「特別賞」の取り扱いについても各都道府県で判断していただくことが良いと思います。(製図コンクール運営委員会では、すべての都道府県の状況を把握していないのが現状です)

(4) 賞の選出

- ①課題ごとに各学校で審査した作品の中から、優秀作品を全・定課程別で3点以内の作品全てに「特別賞」を授与する。
(作品送り状の提出をもって授与)
※本年度は、コロナ感染防止対策の関係上、作品集約および審査が困難であるため、課題毎の金・銀・銅賞・入賞・奨励賞の表彰は行えない。

(5) 課題別審査の観点(参考)

- ①課題2「木造平家建専用住宅」
ア. 平面図・立面図・断面図が正確に描かれているか。
(教科書3章に準じているか)
イ. 外構計画に工夫があるか。
ウ. 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)
エ. 図面相互に違いがないか。
オ. 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)
カ. 製図規約を重視しているか。
キ. その他
配置図兼平面図に関して
・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
・隣地境界線を実線で描く等、線の使い方を間違えていないか。
・床の仕上げを表現していないか。
立面図に関して
・全体的なバランスが良いか。
断面図に関して
・平面図に記された切断線の位置との違いがないか。

課題2については、今回から内容の変更をしたことから、審査の観点を以上の内容で定めた上で、審査を行う予定であった。(他の課題は、第38回と同じ審査観点で行う予定であった。)

(6) 令和3年度に向けて

- ①課題1「軒先マワリ詳細図」
2019年 新課程版教科書発刊に伴う、製図例の変更。
令和2年度 例年通りとする。
令和3年度 製図の基本であり、例年通り。

- ②課題2「木造平家建専用住宅」
2019年 新課程版教科書発刊に伴う、製図例の変更。
令和2年度 製図例の変更。
令和3年度 変更なし

- ③課題3「木造2階建専用住宅」
2019年 法規・構造に配慮した、個性的な作品を期待する。

令和2年度 例年通りとする。
令和3年度 変更なし。

- ④課題4「木造平家建専用住宅(CAD製図)」
2019年 課題2を手書きの表現で作図するCAD製図。
令和2年度 課題2に変更に伴い、製図例の変更。
令和3年度 変更なし。

- ⑤課題5「木造2階建専用住宅(プレゼンテーション作品)」
2019年 プレゼンテーションを重視した作品。家族構成は各自で設定する。
令和2年度 例年通りとするが、失格図面防止の為、変更。
学校名等を記載する用紙を右下裏側に貼付。
令和3年度 変更なし。

- ⑥共通事項 課題1～課題4の表題欄に課題番号を記入する。

(7) 「製図コンクールの在り方」のアンケートの実施

- ①実施の趣旨
ア. 令和4年度実施の学習指導要領を踏まえ、「資質・能力の三つの柱」、「主体的・対話的で深い学び」などを重視した、授業を改善することが求められることを踏まえ、本コンクール課題についても改善が必要であること。
イ. 会員校の多くの先生(加盟校以外の応募実績のある学校の先生)から幅広く、本コンクールに対する意見などを集め、課題の作成に反映させること。
ウ. 結果をもとに、本委員会において今後の「製図コンクールの在り方」を検討すること。

- ②実施方法
Webアンケート形式 (Microsoft FORMSを使用)

- ③実施対象
会員校及び加盟校以外の応募実績のある学校の先生方

- ④回答期間
令和2年12月21日(月)～令和3年2月19日(金)

- ⑤質問項目と結果
※以下の記述式回答は原文である。(ただし、学校名など個人が特定できる記述には削除修正を加えた。)

- ア. 学校名(省略)
イ. 課程の種別(回答数)

①全日制	…	42名
②定時制	…	10名
計52名回答あり		

- ウ. 回答者の氏名(省略)

- エ. 本製図コンクールの課題の取り組みについて

①取り組んでいる	…	19名(36.5%)
②取り組んでいない	…	33名(63.5%)

- オ. エで「①取り組んでいる」に回答された方
指導する上で留意されていること、工夫されていること

など教えてください。

- ・1年の基礎製図以降初めての模写なので、手順や線の意味などを説明しながらなるべく丁寧に書かせている。
- ・授業のカリキュラムの中の1課題として取り組んでいる。
- ・線の太さの使い分け、特に細線と太線はそれだけを何本も書かせています。
- ・教科書の製図例を参考にすると、線の太さの違いがうまく生徒に伝わらないので、過去のコンクール入賞作品を示し、自分の目で違いを確認できるようにしています。
- ・線の太さの区別を徹底させる。
- ・実施要項の内容をよく確認し、確認不足による減点・失格を減らすようにしている。
- ・CAD製図については、課題研究でCAD班の生徒に全員実施しているのでこのままで良いと思う。全員、金賞を目指して取り組ませている。また、手書き製図については希望者に取り組ませている。
- ・線の違いについて理解させる。線の違いがわかるようにそれぞれはつきり濃く描く。
- ・線を一定に美しく引けるように指導している。
- ・建築設計製図（実教出版株式会社）に忠実に図面が描かれているか。
- ・屋根伏図、断面図、立面図、配置図の計画を夏休みの課題にしている。
- ・複数の教員によってコンクールに出す課題を見てもらうようにしています。
- ・2年生を対象に「課題1」のみ取り組ませている。軒先まわりの構造・仕組みを解説しながら線一本一本の意味や、寸法の取り方・見つけ方を考えながら作図を進め、その後コンクール用に清書させている。
- ・線と文字を正確に美しく速くかくこと平面に描く図面を立体的に理解すること架構と意匠を一体的にとらえて合理的な空間を構成すること。
- ・1年生の軒先マワリ詳細図については、授業の進み方によるが、希望者、興味関心の高い生徒、運動部に所属していない生徒などに声をかけ、製図技術の向上という目的で実施している。自由設計の課題に関しては、授業の進度との兼ね合いがありなかなか実施できない。
- ・複数人で取り組むことで、お互いが競い合い、支え合うことで諦めず最後までやり遂げられるようにしている。芯の濃さや太さなど、生徒の能力に応じて使い分けをさせている。図面1枚を仕上げるときは、短期間で集中して描かせて、図面の汚れを防止したりする。

カ. エで「②取り組んでいない」に回答された方

その理由を教えてください。（その他の場合は理由を記載してください）

①授業・課外での取り組む時間確保が難しい	…	15名 (45%)
②課題が取り組みにくい	…	0名 (0%)
③別の設計課題に取り組んでいる	…	8名 (24%)
④くくり募集、総合学科であり「製図」 単位数が少なく余裕がない	…	3名 (9%)
⑤その他	…	7名 (21%)

(⑤その他の記述回答)

- ・「製図」の単位数が少なく余裕がない。
- ・異動年度なので、これから導入させようと意識改革に取り組ませています。
- ・回答者が個人会員となっているだけで、学校としては会員になっていないため、取り組む体制がない。約3年ごとに回答者が1年生の製図を担当したときのみ個人的に取り組ませている。
- ・学科がものづくりなので、建築の科目が少ない。
- ・限られた時間制約の中で、2級建築士受験に向けた受験課題に取り組んでいるため。
- ・今回は例外的に授業時数確保が難しく提出できなかった。
- ・専攻科を担当しているため。

キ. 課題について（課題1～5の内容・課題設定に関して、ご意見を聞かせてください）

- ・一定の教育的効果はあると思うが、コンクールのために授業中に再度作図させるなどの話を聞くこともあり、学習指導要領の改訂に伴い時間不足が心配される。
- ・2年生の課題が、現在の授業内容との兼ね合いを考えると難しく思います。
- ・コンクールのための時間ではなく建築を楽しむ時間も大切だと思うので、減らすべきだと思います。
- ・現在の課題1は建築の登竜門として、課題3は建築を学んだ集大成として取り組む方が良いと思います。
- ・意匠性よりも必修製図で取り組めるような基礎・基本に沿った課題の原点に立ち返って見直しをした方が良いと思います。（大学等の設計コンペとは異なるので）
- ・何十年の前の課題を対象としていること自体、現況にあっていない。例として木造床仕様も、根太レス仕様も100%くらいです。
- ・課題1～3は、綺麗に丁寧に書くと時間が無制限にかかる。たとえば、テーマを別荘や複合施設に変えて指導者も楽しめる募集にはいかがなものか。
- ・課題3について、卒業設計の作品を課題3に提出できると、生徒の励みになるし、コンクール作品の水準向上につながると思います。現課題においても、卒業設計課題としての位置づけを期待されているのであろうが、敷地条件・家族構成・設計テーマなどの条件指定がすでに指定されており、これからの住宅を考える上で条件設定から考えさせている本校の卒業設計の作品は規定から逸脱してしまうものが多く、残念ながら提出することができていないのが現状である（一方でJ I Aの卒業設計コンクールは住宅であればOKなので、エントリーしています）。例えば、課題は18m角の敷地だけの提示として、周囲の環境や家族構成、設計の枠組みは生徒の主体性や発達の自由度を生かせる方向に再検討してはいかがか？
- ・建築製図の教科書にCADが盛り込まれるようになって今日において、手書きしか認めないというのもどうでしょうか？むしろ課題4・5と合わせて、手書き・CADなど多様な手法を用いて表現させるのも検討に値すると考えます。

- ・課題3を希望者に取り組みさせたいと思っている。
- ・課題4（CAD製図）は、大体この程度の課題内容で良いと思う。
- ・課題の設定に対してはよいと思いますが、図面自体の詳細が現在に合う形、また、都道府県の気候など住環境で違う所があるので、図面の中身の一部変更が必要ではないかと思っています。
- ・本校では、進路に伴う設計競技への取り組みを行っており、その関係もあり参加しておりません。申し訳ございません。ただ、製図課題としては実施しております。
- ・各校が実情に応じて課題を選択して取り組ませることができると設定であると思います。
- ・基礎的な課題は取り組みたいが、1年間は都市工学（土木系）コースとの合同なので、取り組めないでいる。
- ・今年度は課題3に取り組みましたが、延べ床面積の制限が厳しく、設計の幅が狭まっているように感じました。生徒の力不足は当然ありますが、せつかくの自由設計なのでもう少し広くても良いように感じました。
- ・製図の導入として、課題1は模写として良いと思います。課題2として、二階建て専用住宅の設計。課題3として、CADによる自由設計とし、建物の種類や規模を毎年変更していく。課題数が多いと指導教員も審査も大変だと思えます。
- ・総合学科のため製図の授業では始めに製図例2-1の平面図をトレースさせています。コンクールの課題1が製図例2-1に近い形だと取り組み易くなると思います。
- ・提出期限が、11月ということもあり、運動部で頑張っている生徒の参加を募りにくく感じている。
- ・令和2年3月より2級建築士の受験が高校卒業後すぐに受験できるようになりました。
- ・2級建築士の製図試験に準ずるレベルの課題があってもいいのではないかと思います。
- ・特になし、現状のままでよい。（同7件）
- ・時代に合った内容で、コンクール委員会に一任。（同1件）

- ク. 本委員会では、課題4・5（CAD製図部門）の実施の可否を含めて、検討する時期に来ているという意見があります。これについてご意見をお聞かせください。
- ・架構に無理がなく、法規的にも問題が少ないうえ、優れたデザインであるか、という点について考えなければならぬので、提出期間に間に合わないことがありました。
 - ・CADは一度やめて、また復活した経緯があると思います。課題の実施については、場当たりのにならないよう設定すべきだと思います。
 - ・CAD課題に向けて取り組んでもらいたいと思います！
 - ・CAD検定もいくつかの団体で実施しているため、どちらも参加するには時間が足りない。
 - ・CAD製図は描けて当然のところがあるので廃止しても良いと思います、ただ課題5のプレゼンテーションは社会に出て必要な部分ですので、課題5だけは作成した生徒自身のアピールの場を設定して審査が行えるのであれば残すべきだと思います。

- ・自分の言葉で審査員を前にしてのプレゼンができなければ廃止しても良いと思います。
- ・CAD部門は1課題に減らす、
- ・さまざまなソフトが廉価で入手できるようになってきているので、現在の形態で実施することの意義は薄れてきていると思います。（自由設計とその作図であれば課題2・3で十分であると思います。）翻って考えると、どのようなソフトを使用してもよいので自由設計に力点を置き、手描きの作図は無くし（課題2・3は無くし）てはどうでしょうか。
- ・ぜひ検討していただきたい。
- ・課題4・5（CAD製図部門）に関しては、3年生に対して各大学のコンペへの参加をカリキュラムスケジュールに組み込むことが多いので、参加したことがない。
- ・課題4・5に関しては、一つにまとめて実施する方がよいのではないかと思います。応用設計をしながらCAD図面の基本も審査した方が効率もよいのではないかと思います。
- ・課題4については、これからもぜひ実施してほしい。（手書き製図だけではなくCAD製図の取り組みとしてあったほうが良い）
- ・課題のテーマを特色あるものにする。現状の設計テーマは幅がありすぎて、プランニングの軸となるコンセプトを見つけないまでに時間がかかる。
- ・既存プランをリノベーションするとか、インテリアを提案するなどのテーマがあってもよいかもしれません。
- ・現況に合わせたものでなければ、無駄です。
- ・手書きとCAD、それぞれを分けて評価することがナンセンスだと思います。ひっくり返ってプレゼンテーション技術として評価できないものなのでしょうか？個別スキルの質的担保だけを求めるのであれば、授業＋各種検定で十分なような印象を持っています。
- ・手書きより参加しやすいが、評価の仕方が難しそう。
- ・審査項目や目的について丁寧な説明があれば有効であると思います。
- ・製図や実習などの授業内で、課題に取り組めるくらいCAD演習ができるのであれば有意義だと思います。
- ・授業ではできないので放課後毎日残って…となると高負荷な気がします。
- ・総合学科高校でCADへそこまで時間を割くことができない実態から、課題4は努力すれば取り組める、ちょうど良い内容だったと思います。個人的には実施していただきたいと思います。どちらかといえば、課題5は他設計競技で代用できるようにも感じます。
- ・誰もが取り組める課題内容としてのコンクール（コンペ）があっても良いと考える。
- ・提出作品の中で、同一品質のものが増えると予想されるが、どのようにジャッジメントするのかを明確にしておかないと混乱を招くおそれがあると思います。CADとCGを組み合わせることはと思います。
- ・本校での取り組み実績は今のところないが、実務や進学後のプレゼンテーションに対応する課題としてCAD製図

は取り組みたいと考えている。オリジナル資料を作成するなど、むしろもっと力を入れて活性化させて欲しい。

(CAD製図やプレゼンテーションのテクニック集の製作、全国建築CAD連盟と連携し建築CAD検定準1級のHOW TO本製作など)

- ・本校では、CADは建築CAD検定の課題や課題の手書き製図をCADで描き直すなどしています。
- ・良い方向だと思います。
- ・現状維持、特にありませんが製図コンクール運営委員会に一任。(同9件)

ケ. 今後、本コンクールの審査運営に多くの先生に関わっていただき、自己研鑽の場としていただきたいと思います。ご協力の可否をご回答ください。

①参加してみたい	…	5名
②現在協力は難しいが、 機会があれば参加したい	…	17名
③参加は難しい	…	30名

コ. その他(どんなことも結構です、ご意見を聞かせてください)

- ・お疲れ様です。長きに渡り先達の先生方が苦慮しながら運営方法を模索してきた代表格である委員会でもあります。研究会そのものにも言えることで、今後も継続運営させるためには、時勢に沿って「変えるべきは変えて、残すべきは残す」と心得ております。
- ・本校は、コンペで最優秀賞になると実際に建設される北海道主催の高校生建築デザインコンクールに取り組んでいますので、時間的に難しいです。
- ・以前参加いたしましたが、本コンクールの締切りと学校祭や他のコンペの締切りが近く参加できていません。また、加盟しておらず、入賞の基準も分かっておらず、結果を求める生徒に案内するには指導者側の勉強不足もあり、生徒に募集することすらできておりません。
- ・製図コンクール運営委員会の皆様には大変ご苦勞されていることと思います。各校の実情は委員の先生方が把握され、十分、話合われていると思いますので、今後の流れは製図コンクール運営委員会に一任します。
- ・毎年ご苦勞様です。次年度もよろしくお願いいたします。
- ・模写の課題だけでも、手描きの参考図を用意していただければより良い作品が仕上がるかもしれません。
- ・各県の方々も条件は同じですが、いろいろな仕事を抱えており、審査運営には参加できません。申し訳ございません。
- ・例年製図コンクールの実施誠にありがとうございます。課題・検討事項も多く委員の先生方にはご苦勞をおかけしていると思います。生徒たちは例年熱心に取り組んでおり、非常に励みになっております。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・東日本建築教育研究会の製図コンクールは高等学校の製図コンクールとしては、唯一無二の存在であると思うので、これからもあまり形を変えず実施してほしい。
- ・コンクール課題に取り組んでいると回答しましたが、く

り募集のため知識量や授業時間が追いつかず厳しい状況が続いております。令和3年度募集より普通科専一(工学系募集停止)となるため、提出させていただくとしても残り2年という状況です。

- ・令和4年度入学生徒から製図が3年生からの実施となります。課題1の参加が定時制は2年生までとなっているので、3年生の参加も許可していただけるようお願い申し上げます。
- ・例年たくさんの図面をご審査いただき、ありがとうございます。お役に立てることが全くなく申し訳ないと思っております。本年度も困難な状況の中でしたが、すばらしいご判断をいただき感謝しております。ありがとうございます。
- ・提出締め切りは必着日付ではなく、消印有効にしていたければありがたいです。
- ・大変お疲れ様です。難しいことと思いますが、多くの学校が参加するコンクールとなるように色々と工夫し、盛り上げてほしいと思います。
- ・多くの大学や専門学校でもコンペを実施しており、興味深いものがあるため、新たに他で実施していないタイプの課題を発掘していただきたい。
- ・プランニングの基本はフリーハンドだと思います。計画力・表現力の基礎力向上を目的とした、卒業設計にむけたプランニングの腕試し的な課題として、フリーハンドによる住宅設計部門があると、各先生方の製図・計画指導の幅が広がると思いますし、ひいては課題4の水準も向上するのではないのでしょうか？
- ・コロナ渦の中、様々な対応をしていただきありがとうございます。次年度もよろしくお願いいたします。
- ・今までに貴会の課題研究に取り組んだことがないため、新しくコンクールなどに取り組む余裕がないのが現状です。本校では、大学コンペ建築士事務所協会主催のコンペなどに出席しています。
- ・実施・運営いつもご苦勞様です。あまり参加も協力もできていませんが、応援しております。

回答にご協力いただいた先生方、ありがとうございました。今回は、回答結果の公表のみとします。令和3年度の運営委員会内で結果を分析し、協議を重ね、以降のコンクールに反映させる計画です。今後ともご支援よろしくお願いいたします。

5. 製図コンクール運営委員(令和2年度)

佐藤 康雄	(神奈川工定)	高野 史晃	(真岡工)
中曽根 康	(前橋工定)	村井 和幸	(新潟県央工)
笹崎 ひろみ	(墨田工)	荒木 宏道	(館林商工)
畠山 弘幸	(石巻工)	門馬 紀介	(葛西工)
萱沼 俊一	(白石工)	菅谷 太郎	(川越工)
松原 昌忠	(田無工)	吉村 公利	(大宮工)
首代 昌紀	(東総工)	森嶋 真一	(甲府工)

(敬称略・順不同)

15. 資格取得推進委員会 活動報告

群馬県立高崎工業高等学校

石井 直樹

1. 「施工管理技術検定試験」新試験制度の実施について

「施工管理技術検定試験」の試験制度が、令和3年度（2021年度）より建設業法が改正され「学科試験・実地試験」から「第1次検定と第2次検定の実施」に変わりました。

第1次検定合格者には「技士補」の称号が与えられ現場での役割の一部を担う事が可能になります。そして、第1次検定合格は生涯有効となりました。

第2次検定合格者には「技士」の称号が与えられ、今まで専任の監理技術者の現場も「技士補」が各現場にいる事により監理技術者（技士）は2現場を監理する事ができる様になりました。

受検年齢は旧試験制度同様、17歳以上の者は受検可能となっています。

在校中に2級の第1次検定試験に合格して、高校卒業後（指定学科修了）3年間の実務経験後に第2次検定試験が受検でき、合格者は合格後5年間の実務経験で1級の受検が可能になりました。専任の主任技術者としての実務経験が1年以上ある場合には更に2年間短縮可能となり、大卒後の3年間の実務経験後に1級試験の受検と同じ年に受検が可能となりました。

また、2級の第2次検定合格者は、翌年に1級の第1次検定を受検する事が可能になりました。

「技士補」として権限が与えられる事から、第1次検定では施工管理法の能力を問う出題として四肢二択の問題が課されています。

2. 「2級建築施工管理技術検定試験」新試験の出題内容について

新試験問題も、50問の出題で40問の選択になっています。

検定基準内容は、建築学等では、知識を問う四肢一択の問題で1, 建築一式の施行の管理を適格に行うために必要な建築学、土木工学、電気工学、電気通信工学及び機械工学に関する概略の知識を有すること。2, 建築一式工事の施工の管理を適確に行うために必要な設計図書を正確に読みとるための知識を有すること。

施工管理法では、知識を問う四肢一択の問題で1, 建築一式工事の施工の管理を適確に行うために必要な施工計画の作成方法及び工程管理、品質管理、安全管理等工事の施工の管理方法に関する基礎的な知識を有すること。

施工管理法の能力を問う四肢二択では、2, 建築一式工事の施工の管理を適確に行うために必要な基礎的な能力を有すること。

法規では、知識を問う四肢一択の問題では、建築工事の施工の管理を適確に行うために必要な法令に関する概略の知識を有すること。との説明がされています。

3. 「2級建築施工管理技術検定試験」前期試験（6月試験）の内容検証について

No.1～No.7の建築学等の問題は比較的基本的な出題が多かった様に感じます。

No.8～No.10の出題も基本的な理解がされていれば対応可能だと思われます。

No.11～No.14の建築材料に関する問題は、セラミックタイル、シーリング材、内装材料に関して出題されていますので、より専門的な学習が必要だと思われます。

No.15～No.17の共通問暖では、アスファルト舗装、電気設備、給排水設備が全問解答で出題されています。

電気設備、給排水設備は基本的な出題でしたが、アスファルト舗装の内容はプライムコートに関して出題されており建設用語の内容と施工方法を理解しておく事が必要になると思われます。

No.18～No.28までの各種工事では、No.22に木造解体工事に関する実務的な出題も課されています。

各種工事は出題範囲が広いと細部にわたり指導する事は困難を要すると思われます。

No.29～No.38の施工計画に関する出題も比較的、基本的な内容だと思われます。

No.39～No.42の応用能力問題は四肢二択問題で4問必修問題として出題されています。

No.39：型枠の締め付け金物等

No.40：レディーミクストコンクリート

No.41：仕上塗材仕上げ

No.42：床のフローリングボード張り

で、指導の仕方次第では高校生でも正答可能な範囲だと思われますが、高度な指導が必要になってくると思われます。

四肢二択問題は、確率的には1/6になるため、十分な学習内容の定着が必要だと思われます。

昨年度、国土交通省の施工管理試験担当者様と話しをさせていただいたときには、旧実地試験内容から出題されると聞いていたもので工程管理のネットワーク工程表等の出題を予想していましたが違っていました。

No.43～No.50の法規関係の出題は専門性の高い出題もあり、建築基準法では2級建築士の出題に近い内容がありました。

4. 「電気・土木」の「施工管理技術検定」新試験の出題内容について

電気は、64問の出題で40問の選択になっています。

一部の問題で五択問題が出題されています。（5問）

なぜか、建築で出題されてもよさそうなネットワーク工程表が出題されています。

土木は、61問の出題で40問の選択になっています。四肢二択問題や五択問題はありませんでした。施工管理法（基礎的な能力）を問う問題が課されています。

5. 今後の試験指導について

1次検定試験の合格が生涯有効となった事で、旧試験制度の時よりも保護者の理解は得やすくなったと思われます。

また、受検する生徒のモチベーションも向上すると思われます。

6. 各科目の合格率について

旧試験制度では、受検科目（土木・電気等）により合格率に大きな差が生じている事に対して疑問を感じております。

7. まとめ

建設業法、建築士法の改正で高校生の資格取得環境は大きく変わりました。

この法改正が、今後の更なる建設業界の発展に繋がってくれる事を願っております。

16. 山形県の報告

山形県立鶴岡工業高等学校

中村 裕

1. 山形県立山形工業高等学校 全日制

建築科

本校の創立は大正9年（1920年）であり、折しも、第一次世界大戦の終結後、新興国日本は、国威発揚のため工業力の発展が急務とされ、県民の間にも、工業力の充実発展の重要性が認識され始めた時代であった。このような時代の要請と地域の熱意に応える形で本校は創立された。以来、100年が経過し、本校は著しい進展を見せる工業の先端技術に対し主体的に対応していける有為な工業技術者を輩出し、地域産業界と地域社会の期待に応え続けるべく努めてきた。卒業生総数は二万五千有余名に達し、本県産業界はもとより、広く国の内外において目覚ましい活躍をしている。

一方、校舎の老朽化に伴い、平成24年2月、現有地における全面改築が決定し、平成26年10月、新校舎の着工となった。設計段階、施工段階において多くの本校卒業生が関わったことは特筆すべきことである。平成28年5月、新校舎が竣工、平成30年7月、新体育館、さらに令和元年8月には新グラウンドが完成し、すべての工事が終了した。

また、平成29年度入学生より、学科改編に伴い6学科（機械科、電子機械科、電気電子科、情報技術科、建築科、土木・化学科）となった。令和2年（2020年）10月には新校舎において「創立100周年並びに新校舎落成記念式典」を迎えられたことは生徒・職員・卒業生にとって大きな喜びとなった。

さて、今年度の建築科の重点的な取り組みとして、生徒の学習意欲の喚起を図るため、資格取得（建築施工管理技術検定等）など具体的な目標を持たせ学習指導の強化を図るとともに、建築士会主催等の外部各種コンクールに積極的に参加させ、作品内容の充実にも努めている。また、東北芸術工科大学・県立産業技術短期大学校とのワークショップ等の高大連携を通して「製図」や「課題研究」の内容の充実を図り、さらに、現場見学やインターンシップを通して職業観の育成と進路意識の向上に取り組んでいる。



2. 山形県立米沢工業高等学校 全日制

建設環境類 建築科

本校は、明治30年に「米沢市立工業学校」として創立され、翌年「山形県立工業学校」となり長い間「県工」の名で親しまれてきました。全国で6番目に創立された工業学校で、今年度で124年を迎えます。現在は、1学年5学級200名で、機械生産類（機械科・生産デザイン科）「機械加工コース・生産シス

テムコース・生産デザインコース」、電気情報類（電気情報科）「電気コース・情報技術コース」、建設環境類（建築科・環境工学科）「建築コース・土木コース・環境化学コース」の3類8コースに分かれる履修形態となっています。

近年の本校建築科の進路状況は、工学部建築系4年制大学への進学、地元建設関係企業を中心とした施工管理や大工職、公務員や県外企業にも就職しています。多くの企業で建築業界を担う技術者として高い期待を受けています。

ものづくりを通した資格取得の指導にも力を注いでおり、建築施工管理技術検定試験、技能検定2・3級（建築大工）、建築CAD検定等に多数合格しています。また、技能五輪全国大会建築大工部門に山形県代表として連続出場し、ものづくりコンテストでも、東北大会に連続出場、山形県建築設計デザインコンクールでは毎年入賞するなど、各種大会にも積極的に挑戦し、成果を収めています。

課題研究では地域課題をテーマに取り組み、行政・企業と連携したUAVを活用した「空き家対策」。高畠町の国登録有形文化財「旧高畠駅舎」を現地で実測、特徴である高畠石をリアルに再現した模型を町に寄贈するなど、地域社会に開かれた学校教育を展開しています。写真は、活動が掲載された新聞と、技能五輪に出場した生徒です。



3. 山形県立鶴岡工業高等学校 全日制

建築科

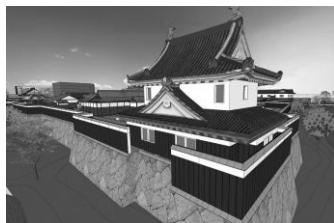
本校は、鶴岡の基幹産業として興されていた絹産業を支える技術者養成を目的に、明治28年に創設された鶴岡町立鶴岡染織学校が前身となります。大正9年に染織、電気機械、木材工芸の3科からなる山形県立鶴岡工業学校として開校し、昨年度に創立100周年（前身の染織学校からは125年目）を迎える歴史と伝統を誇る工業高校です。現在の学科編成は、機械科、電気電子科、情報通信科、建築科および環境化学科の5学科5学級となっています。

建築科では、「建設業に関する基礎的な知識と技術を習得させ、関連する諸分野の業務に従事するための能力を育成する」

ことを指導目標として掲げています。2級建築施工管理技士(学科)の全員合格を目指すとともに、希望者には2級土木施工管理技士(学科)や測量士補も併せて指導を行っています。さらに、令和2年度より卒業年に2級建築士の受験が可能となったことから、2級建築士受験を踏まえた指導も一部の授業の中に取り入れるなど、資格取得に向けた取り組みに努めています。

地域と関連した取組みとして、「インターンシップ」、「鶴工ものづくり展示会」、「課題研究」などが挙げられます。「インターンシップ」は、地元建設業の事業所のご協力のもと、2年次に3日間実施させて頂いています。生徒たちにとって建設業の職業観・勤労観を理解するよい機会となっています。「鶴工ものづくり展示会」は、毎年10月に近隣のショッピングモールを会場に開催され、本校のものづくりの取組みを地域に発信をしています。建築科では、昨年は「木製ペン立て」と「木の家(レーザー加工でパーツを製作し、それを組み立てて完成させるもの)」のものづくり体験を企画・運営しました。生徒たちは、子どもたちと一緒に作りながら、本校のPRを図りました。「課題研究」は、木製遊具やごみステーション等を設計・作製し、地域の施設に寄贈するといった取組み、鶴岡の町中に鶴ヶ丘城を3DCADで復元し、その動画をYoutubeで公開する取組み、鶴岡市内の老舗菓子屋の宣伝活動を目的にInstagramやfacebookを活用した取組みなど、地域に関わった様々な活動を進めています。

これからも地域の未来を考え、地域の建設業界の発展に貢献できる人材を育成しながら、教職員が一丸となって精励してまいります。



4. 山形県立新庄神室産業高等学校 全日制

環境デザイン科 建築系

本校は平成15年に開校され、令和4年度に創立20周年を迎えます。創立時は建築デザイン科が設置されましたが、平成21年に建築デザイン科を募集停止し、環境デザイン科が新設されました。現在は工業科2学級(機械電気科・環境デザイン科)4系(機械系・電気系・土木系・建築系)で編成されています。

教育目標は、「幅広い知識と技術を身に付け、地域社会と産業の発展に寄与する人間の育成」などを掲げております。

建築系では、資格取得・検定試験及びものづくりコンテストや各種コンクールへの積極的な参加を視野に入れ、生徒の技術力の向上や創造力の育成を図っています。また、建築系の生徒を中心とした部活動【工業技術部建設班】では、雨により腐朽した校舎内の窓周辺木部の研削・塗装や野球部の木製レーキの製作、図書館の返却BOXの製作などを行っています。そして現在は、県立博物館から依頼を受け、博物館の模型を製作しています。



「山の上のキャンプ場」 戸沢村角川地区キャンプ場センター棟の設計(令和2年度「県内高校建築設計デザインコンクール」設計部門 優勝)

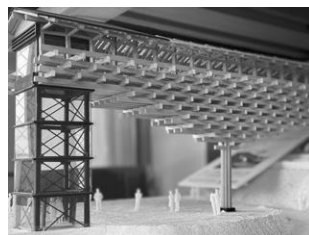
ここ数年の建築系に在籍する生徒の進路先は、4年制大学・専門学校の建築学科を中心とする進学や、地元企業の大工職、施工管理職等に就職しています。今後も学科の目標である「地域から信頼され、地域の産業に貢献できる技術者の育成」に努めていきます。

5. 学校法人 山形電波学園 創学館高等学校

やまがた創造工学科住環境デザインコース

本校は、昭和36年に開校され、今年で創立60年を迎えます。平成21年度に学科改編を行い、情報技術科・電子工学科・電気科・土木科・建築科の5学科から1学科「やまがた創造工学科」4コース制(電気エネルギーコース・電子機械システムコース・情報メディアコース・住環境デザインコース)のくくり募集となりました。平成30年度には山形電波工業高等学校から創学館高等学校に校名を改称し、新たな一步を踏み出しており、本校の特色である「ものづくり」「資格取得」「部活動」「地域貢献活動」「小中学生に対する出前授業」の各分野で『創』を大いに発揮し、一人ひとりが秘めた能力を発揮してもらいたいと考えております。また、地元産業界の担い手となる人材を目指して学習に取り組んでいます。

住環境デザインコースは、建築・土木の両分野を全員が履修し、幅広く学ぶことができます。建築分野では、建築物の室内外の設計から施工・管理までを学ぶとともに建築・インテリアに限らず、プロダクトデザイン分野も学習しています。課題研究では、県内高等学校設計デザインコンクールをはじめとする様々なコンテストに参加し、生徒の主体的な活動や技術力向上を図っています。実験・実習を交えての具体的な学習により即戦力として企業に求められる人材を育成します。



17. 栃木県の報告

栃木県立真岡工業高等学校 栃木県理事 黒崎 利之

1. 栃木県会員校（6校）

- ・宇都宮工業高校 建築デザイン科
- ・真岡工業高校 建設科（建築コース）
- ・今市工業高校 建設工学科（建築コース）
- ・小山北桜高校 建築システム科（建築技術コース）
- ・那須清峰高校 建設工学科（建築コース）
- ・足利大学附属高校 建築科

2. 令和2年度土木建築研究委員会

第1回 書面報告

報告

- ・令和2年度 年間行事予定

第2回 書面報告

報告

- ・令和2年度 各行事の反省
- ・令和3年度 ものづくりコンテスト木材加工について

3. 令和2年度 栃木県の各行事について

栃木県内の土木建築研究委員会の各行事は、コロナの影響により全ての行事が中止になった。

- ・高校生ものづくりコンテスト（木材加工）栃木県大会（中止）
- ・建築大工技術教員研修会（教員対象）（中止）
- ・木造住宅講習会（中止）

4. 会員校の特徴的な取組について

- ・栃木県立宇都宮工業高等学校 建築デザイン科
「デザイナーとの共創」による地域課題解決への取り組み
本校は令和元年度から令和3年度の3年間、文部科学省より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」プロフェッショナル型の指定を受けた。

建築デザイン科では、課題研究の授業を使い地域の課題解決として、栃木県那珂川町の過疎化問題に取り組んだ。

令和元年度は、地域の資源調査でフィールドワークを実施し、地域特産の八溝杉と小砂焼に着目した。



デザイナーとの共創にモデリング授業

令和2年度は、デザイナーとの共創によりデザイン思考を学び、イノベーションを考えたキャニスターの製品化に挑戦しました。

今年度は、栃木県産業技術センターの協力を得て、小砂陶土を活用した断熱壁や IoT 技術による土壁自動管理システムの研究を進めている。

- ・栃木県立真岡工業高等学校 建設科 建築コース

建設科建築コースでは、大工技術を学び、高校生ものづくりコンテスト木材加工部門への参加や技能検定への挑戦、技術向上や地域貢献に繋がるものづくり活動、建設に関する教養を深める外部研修の実施などを通して活発な活動を展開している。今年度は新型コロナウイルスの為、大会が中止になり高校生にとっての最後の大会が無くなってしまい目標を見失ってしまっていた。そんな時、ホームセンターやコンビニエンスストア・市役所などで飛沫防止のパーティションを目にした。パーティションが設置されていることで、対面で接する場面において感染症対策に効果があり、安心感を持つことができた。しかし、パーティションの構造が間に合わせて作っているところもあり、私たちが今まで学んだ技術を生かし、また技能検定の廃材や余った材料などを利用して、飛沫防止のパーティションができないか考えた。設置場所としては、学校内で検討したところ対面で活動が行われる所に設置しようと考えた。複数の生徒が授業で使うテーブルや、図書室の貸し出し窓口、教育相談室、保健室、保護者面談の時などに設置が有効であると考えた。また、地域貢献として、近隣の小中学校をはじめ、生徒が卒業した学校でも必要としているのではないかと考え、声を掛けることにした。小学校や中学校からは、相談室や保護者面談用に使いたいと要望があり、用途に応じて幅や高さを変えて製作し寄贈した。

コロナの影響で多くの活動が自粛や制限され、生徒たちが目標を失っていたが、これまでに学んできた技術を生かし、新たな目標を見出し、ものづくりに取り組む姿をみて生徒の成長を感じることができた。また、卒業した中学校にパーティションを寄贈することで、多くの先生方から感謝され、生徒たちの自己有用感が高まることにつながった。



中学校への寄贈の様子

- ・栃木県立真岡工業高等学校 建設科 建築コース

本校では、15年前から「真心工房」としての建設科を中心に、

機械科・生産機械科・電子科の生徒が互いに協力し合い、地域の一人暮らしの老人や公共的な施設に対して、快適な暮らしのお手伝いをするための地域ボランティア活動を行ってきた。生徒は、各科で身に付けた工業の知識や技術を活かし、棚や手すりの設置、網戸・障子の張り替え、和室と廊下の段差の解消、電球の交換などのボランティア活動を通して、地域の人とふれあい、また感謝され、生徒自身の技術向上とともに、心身の成長が見られた。

「真心工房」（地域ボランティア活動）に真岡市在住の一人暮らしの老婦から傷んだ網戸（4枚）の張り替え依頼があった。今年度は新型コロナの感染拡大の影響があるため、一人暮らしの老人宅を訪問しての作業は、リスクが伴うとして、ボランティア活動の中止の是非について検討した。しかし、このような状況下だからこそ、困っている老人を助けるべきと考え、新型コロナ感染予防の対策を十分に行った上で、依頼を受けることになった。まず、教員側で現場状況の確認と事前の打ち合わせを行ったところ。その中で、依頼者の嫁いだ娘の子供（孫）が、建設科1年に在学していることが分かった。そこで、孫の高校生に地域ボランティア活動に参加してもらい、祖母のために学んだ技術を披露することができたらすばらしいと感じた。孫の高校生も喜んで引き受け、実際の作業でも、熱心な取り組みを見せていた。現地での網戸取り付けの作業においては、孫の生徒は身内ということで、依頼者宅を訪問し祖母と一緒に作業を行った。祖母のために真剣に取り組む生徒とそれをサポートする祖母との共同作業の様子が、微笑ましく実に心地よかった。そして作業が終了し祖母に感謝される生徒の笑顔が、強く印象に残った。

今回の活動を通して、生徒の技術の向上や感謝されることでの自己有用感など生徒自身の成長に繋がり、地域ボランティア活動の重要性を痛感しました。今後も依頼があれば、活動を継続していきたい。



網戸の張り替え作業

・栃木県立今市工業高等学校 建設工学科 建築コース
電動工具を用いた木材加工

本校の木材加工実習は、手工具による基本的な木材加工・組立を行ってきた。建設業界でも手工具による木材加工は欠かせないが、電動工具を活用した作業が一般的となっていることから、工作機械や電動工具を取り入れた指導内容や方法を考え取り組んでいる。

多くの生徒に製作意欲の向上が見られ、作品を持ち帰り自宅で使用する生徒もいた。今回の取り組みにより生徒達は、木材加工への苦手意識を減らし、安全に対する意識が高まり作業するようになった。



自動カンナ盤による削り

・栃木県立那須清峰高等学校 建設工学科 建築コース

本校建設工学科では、ドローンを敷地内で飛ばし、外観で見取れる本校舎の老朽化の程度を調べている。人が視認できない箇所をドローンで撮影し、RCの躯体に現在どの程度ひび割れ等の損傷があるか調査をしている状況である。今後は、BIMソフトを本校で導入することを視野に入れており、BIMソフトで作成した本校舎の3次元モデルを作成し、そのモデルに損傷箇所を示し、それを基に、損傷箇所の分布や、それが構造耐力上主要な部分に影響しているか等の研究を行っていきたいと考えている。



ドローンによる調査の様子

・県内工業高校
専門工事業の体験実習

建設技能労働者の人材不足や将来の担い手確保に向けた取り組みが課題となっている。そこで、民間企業等から専門分野に精通し、優れた知識や技能をもつ人材を講師として招へいし、足場工事、左官工事、型枠工事、鉄筋工事（鉄筋工）、鉄筋工事（圧接）、内装工事の6つのブースを順番に回って専門工事業の体験をした。生徒たちは、学校の授業では体験する事の出来ない職人の技を間近で見ることができ、各職種の仕事内容の理解を深めることができた。また、生徒達にとって卒業後の進路選択の幅を広げる良い機会となる内容であった。



鉄筋組立ての様子

18. 石川県の報告

石川県立羽咋工業高等学校

久保 芳男

19-01 石川県立小松工業高等学校 建設科

本校建設科は平成20年度より、建築科と土木科が合併して建築土木科となり、平成25年度に現在の建設科となった。建設業の担い手について、土木の人材については、男女とも地域から大きな期待を受けている。

現在本科では、職業能力開発協会よりマイスターを4名派遣して頂き、実習を展開している。2年生の実習では型枠施工、鉄筋施工を行っている。そして、ものづくりコンテストに向け建築大工の指導者にも来て頂いている。教員以外の専門職の方々から直接指導を受けられることもあり、生徒からの評判も上々である。



型枠施工の様子



鉄筋施工の様子



木材加工の様子

19-02 石川県立羽咋工業高等学校 建設・デザイン科 建築コース

建設・デザイン科はコース制を採用しているため、1年生で工業技術基礎などの共通教科を学習し、1年生の終わりに各自の進路や興味に合わせてコース選択(建築・土木・デザイン)をしています。卒業後の進路は就職が8割と多く、就職先は地元の建設関係の企業や製造業となっています。建設・デザイン科では、これから起こりうる様々な課題を解決する能力やコミュニケーション能力を伸ばせるように努力をしています。資格取得では、2級建築施工管理技術検定、技能検定(建築大工2級・3級)や建築CAD検定に取り組んでいます。



1年生工業技術基礎



2年生木工実習



3年生CAD実習

19-03 金沢市立工業高等学校 建築科

石川県内唯一の単科での学科です。建築実務に必要な知識・技術を修得するため、金沢職人大学校の講師(大工棟梁)等、外部より技術者を招いての実践指導や最新機器によるCAD実習、およびプレゼンテーション能力を育むための指導を行っています。

産学協同事業として、平成25年度より(一社)金沢市建設業協会の協力の下、『デザインアワード』という名称で、3年生を対象とした建築設計コンペを開催しています。第1回の最優秀作品は、金沢市内の公園に建築されました。また、先輩のお話をうかがい、建築現場の実際を知る機会として意見交換会を開催しています。



金沢職人大学校の講師
(大工棟梁)による技術指導



第1回デザインアワード入賞作を
基に建設された公共トイレ



建築に携わる諸先輩方との
意見交換会

19. 静岡県の紹介

静岡県立浜松工業高等学校

青木 誠

1. 静岡県の特徴と県内加盟校

東西 155 km・南北 118 km に広がる静岡県は、東西の文化が交じり合う中で独自の発展をとげています。建築教育は盛んで、県内 6 校 7 課程（全日制 6 校・定時制 1 校）が本研究会に加盟しています。建築系教員数も 40 名を超え、加盟校以外にも建築科目を設定している学校が複数存在します。

近年は学科の改編により、類型または系列として建築科目を展開する学校も増加してきました。県下の工業科研究会は、建築・デザイン・設備系をまとめて 1 つの分科会とし活動しています。資格取得指導法や実習内容・企業の求める人材等様々なテーマで研究を行っています。さらに、研修・見学の機会を設け、各教員の研鑽の場としています。また、東海地区においても、愛知・岐阜・三重・静岡の 4 県で、研究や研修の活動を行っています。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染防止のため、ほとんどの行事が開催できませんでしたが、収束状況を見て、活動を再開する予定です。

2. 各校の取り組み

実習科目において、実務に繋がる実践的な内容も取り扱っています。進路先で求められる技術や技能の基礎を身に付けるために、内容や展開を工夫しています。

設計コンペに力を入れる学校も多く、建築甲子園の県予選では、各校のプライドをかけた熱い戦いが繰り広げられています。

生徒の資格取得にも意欲的に取り組んでいます。2 級建築施工管理技術検定をはじめ、カラーコーディネーター・福祉住環境コーディネーターやインテリアコーディネーター等、幅広く指導を行う学校が多くあります。技能検定では、近年は大工技能 2 級を取得する生徒も増えています。二級建築士の受験要件の変更により、早期に受験を希望する者も増えています。サポート体制の確立も課題となっています。

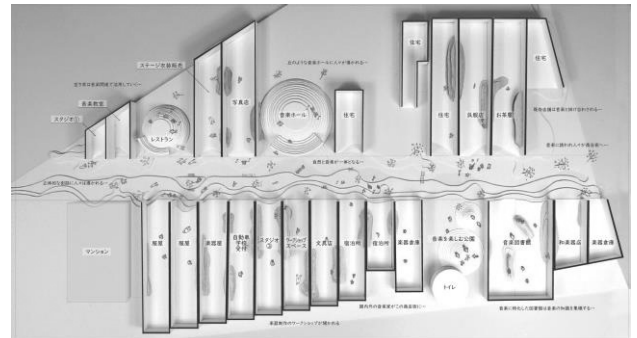
インターンシップを実施する学校も多く、職場での体験により、進路意識も高まっています。

各校の文化祭において、作品展示や学習成果の発表を活発に行っています。地域に学校の特徴を示す機会となっています。

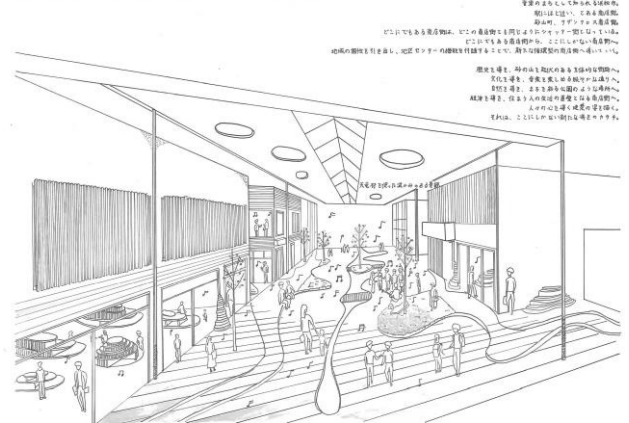
(実習風景)



(コンペ作品)



新たな導きのカタチ



(文化祭風景)



3. 今後の県内建築教育について

専門高校への関心を高めるとともに、多くの中学生に建築の魅力伝えていきたいと考えています。生徒の多様化が進む中、専門教育の在り方や建築教育の工夫や進路開拓も大きな課題です。

令和 10 年度には、本県において静岡大会（総会・研究協議会大会）の実施を予定しています。会員の皆様をお迎えできる日を無事迎えられるよう、準備を進めお待ちしております。

20. 事務局報告

東京都立田無工業高等学校
小林 勝広

1. 大会開催都道府県について

現在開催順序は以下の通り計画をしております。

2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	2026 年	2027 年	2028 年
臨時総会	秋田	栃木	青森	山梨	群馬	岐阜	静岡
決定	決定	決定	決定	決定	決定	決定	決定

2. 東日本建築教育研究会HPをご利用ください。

HPには、各種要項・案内、申し込みフォームなどが掲載されております。

<http://www.hnkkk.org/>

連 絡

1. 東日本建築教育研究会刊行物のご利用をお願いいたします。

2. 個人会員

田村 信義 千葉県立安房拓心高等学校
榎本 吉晃 安田学園高等学校
林田 千鶴 東京都立橋高等学校
谷 康博 福井県立奥越明成高等学校

3. 入会

な し

4. 退会

青森県 八戸学院光星高等学校

会員校数 127校 (令和3年7月 現在)

5. その他

資格取得検討委員会の初代委員長 (1993-1996 年) として研究会活動にご尽力いただいた岡田義治先生が、2020 年 12 月 4 日に逝去されました。

6. 本部事務局

東京都立総合工科高等学校から、東京都立田無工業高等学校へ変わりました。

・事務局 東京都立田無工業高等学校 建築科内
事務局長 小林 勝広
会 計 富田 眞理子
・所在地 〒188-0013 東京都西東京市向台町1丁目9-1
東京都立田無工業高等学校 建築科内
TEL 042-464-2225 FAX 042-467-5532
本部事務局 E-mail <jimu@hnkkk.org>

2 1 . 東日本建築教育研究会 会則

- 第 1 条 本会は東日本建築教育研究会と称し、北海道・東北・関東・北信越・東海の 5 ブロックで構成する
- 第 2 条 本会は工業教育、特に建築教育に関する研究を行い、その向上改善を図ると共に、会員相互の連絡並びに全国高等学校建築教育連絡協議会との連携を密にすることを目的とする。
- 第 3 条 本会は、下の会員を以て組織する。
1. 正会員・・・東日本地域工業高等学校在職中の建築課程関係教職員及び建築科出身の学校長など。
 2. 賛助会員・・・本会の趣旨に賛同する会社、事業所など。
 3. 個人会員・・・東日本地域において、本会加入校以外の高等学校に在職している、かつての本会会員の中で、引き続き本会加入を希望し常任理事会で推薦された者及び正会員を除く建築課程及び関連学科に所属する教員個人
- 第 4 条 本会の事務局は原則として会長所属の学校におく。
- 第 5 条 本会は第 2 条の目的を達成するために下の事業を行う。
1. 建築課程に関する学習指導方法の研究
 2. 建築界の動静に関する研究。並びに各種資料の収集調査
 3. 研究発表会、講演会、見学会などの開催
 4. その他、本会の目的達成上必要な事業
- 第 6 条の 1 本会に次の役員・理事会をおき、会の運営に当たる。
- 会長(1 名)、副会長(若干名)、事務局長(1 名)、会計(1 名)
- 都道府県理事(都道府県理事会を構成する)
- 常任理事(常任理事会を構成する)
- 必要に応じて顧問、参与をおくことができる。
- 第 6 条の 2 本会の目的を達成するために次の分科会、委員会をおく。
- 分科会(製図、計画、法規、構造、施工)
- 委員会(編集、製図コンクール運営、資格取得推進、広報)
- (各分科会、委員会は主査、委員長を互選する)
- 第 6 条の 3 役員、委員の任期は 1 年とし、重任を妨げない。ただし途中異動の場合、後任者の任期は前任者の残余期間とする。
- 第 7 条 会長は常任理事会において選出し、総会・都道府県理事会において承認を受ける。
- 副会長・事務局長・会計・会計監査は会長が推薦し、総会・都道府県理事会・常任理事会において承認を受ける。
- 常任理事は役員、各主査、各委員長、東京近辺の都道府県理事等から選出する。別に建築科出身の学校長・教頭等に参加を求めることができる。
- 都道府県理事は各都道府県会員校の中から都道府県を代表して 1 名互選する。(北海道、東京は 2 名)
- 分科会・委員会の委員は必要に応じ会員の中から選び総会・都道府県理事会・常任理事会の承認を得て会長が委嘱する。
- 顧問・参与は常任理事会が推薦し、会長が委嘱する。
- 第 8 条 会長は本会を代表し、副会長は会長事故等あるときこれを代行する。
- 都道府県理事会・常任理事会は、事業報告・計画、会計決算・予算などの重要事項について審議する。
- 事務局長、会計は会務を処理し、本会の運営を司る。
- 主査会は副会長・主査・委員長・事務局長・会計で構成し会の運営の原案を作成する。
- 会計監査は本会の会計を監査し、監査報告をする。
- 分科会・委員会は会の目的を遂行するために基礎的事項を審議する。
- 顧問及び参与は本会の運営について助言し、会の発展を支援する。
- 第 9 条 理事会・常任理事会・分科会・委員会は随時会長が召集する。
- 第 10 条 総会・都道府県理事会は年 1 回定期に開く。開催地は持ち回りとする。
- 特に必要があるときは常任理事会の決定により臨時総会等を開くことができる。
- 第 11 条 総会は、原則、出席者の過半数の同意として議決する。
- 総会の議長は会長があたる。

- 第 12 条 総会において行うべき事項は次の通りとする。
1. 事業報告及び決算
 2. 役員改選
 3. 事業計画及び予算
 4. 会務及びその他重要と認める事項
- 第 13 条 本会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。
- 第 14 条の 1 本会の経費は会費及び賛助金、補助金その他を充てる。
- 全日制・定時制それぞれ 1 校とし、年 6,500 円徴収する。
- ただし、この中に全国高等学校建築教育連絡協議会年会費を含む。また、臨時会費を徴収することがある。
- 賛助会費は年額 1 口 10,000 円で 1 口以上とする。
- 個人会費は年額 1 人 1,000 円とする。
- 第 14 条の 2 本会の会計(決算・予算)は会計監査(2 名)の監査を受け、総会で監査報告を行う。会計監査(2 名)は会員の中から選出するものとする。
- 第 15 条 本会則を変更する場合は総会の議決を経るものとする。
- 第 16 条 第 1 条に掲げるブロックの構成は、次の通りとする。
- (1) 北海道ブロック (北海道全域)
 - (2) 東北ブロック (青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
 - (3) 関東ブロック (東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・群馬・茨城・山梨)
 - (4) 北信越ブロック (新潟・長野・富山・石川・福井)
 - (5) 東海ブロック (静岡・愛知・岐阜)
- ブロックはその地域すべての会員を以て組織する。
- ブロックに関する規定は別に之を定めることができる。

附 則

本会会則運営上必要な規定は別に定める。	制定	昭和 26 年 11 月 5 日
本会則は昭和 31 年 5 月 20 日から実施する。	改定	昭和 30 年 5 月 20 日
本会則は昭和 37 年 6 月 1 日から実施する。	改定	昭和 37 年 6 月 1 日
本会則は昭和 42 年 6 月 2 日から実施する。	改定	昭和 42 年 6 月 2 日
本会則は昭和 46 年 7 月 28 日から実施する。	改定	昭和 46 年 7 月 28 日
本会則は昭和 50 年 6 月 6 日から実施する。	改定	昭和 50 年 6 月 6 日
本会則は昭和 54 年 6 月 8 日から実施する。	改定	昭和 54 年 6 月 8 日
本会則は平成 7 年 6 月 8 日から実施する。	改定	平成 7 年 6 月 8 日
本会則は平成 11 年 6 月 17 日から実施する。	改定	平成 11 年 6 月 17 日
本会則は平成 13 年 4 月 1 日から実施する。	改定	平成 12 年 7 月 26 日
本会則は平成 14 年 7 月 25 日から実施する。	改定	平成 14 年 7 月 25 日
本会則は平成 16 年 7 月 26 日から実施する。	改定	平成 16 年 7 月 26 日
本会則は平成 18 年 8 月 1 日から実施する。	改定	平成 18 年 8 月 1 日
本会則は平成 19 年 7 月 26 日から実施する。	改定	平成 19 年 7 月 26 日
本会則は平成 22 年 7 月 29 日から実施する。	改定	平成 22 年 7 月 29 日
本会則は平成 23 年 7 月 28 日から実施する。	改定	平成 23 年 7 月 28 日
本会則は令和 2 年 7 月 31 日から実施する。	改定	令和 2 年 7 月 31 日

22. 役員名簿

1 会長	岡谷 典幸	東京都立田無工業高等学校長			
2 副会長	黒澤 光弘 菅野 光広 米原 良慈 根岸 俊行	秋田県立秋田工業高等学校長 栃木県立宇都宮工業高等学校長 東京都立蔵前工業高等学校 群馬県立館林商工高等学校			
3 事務局長	小林 勝広	東京都立田無工業高等学校			
4 会計	富田 真理子	東京都立田無工業高等学校			
5 常任理事	※【会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計は兼任】 ※【主ブロックは毎年輪番制：東海→北信越→関東→東北→北海道】 高島 浩 (北海道ブロック・旭川工) 松原昌忠 (東京・葛西工) 菊田 武則 (東北ブロック・十和田工) 吉澤茂雄 (東京・総合工科) 峯 孝一 (関東ブロック・市川工定) 前田潔 (東京・総合工科定) 奈良岡健一 (北信越ブロック・新潟工) 山口 直志 (東京・蔵前工) 中田 亮 (東海ブロック・伊豆総合) 鈴木 隆 (東京・蔵前工定) 菅谷 太郎 (埼玉・川越工) 柳澤 力也 (東京・墨田工) 五十嵐 忠彦 (栃木・宇都宮工) 高橋 康代 (東京・墨田工定) 石井 直樹 (群馬・高崎工) 渡邊 雄三 (東京・日工大駒場) 中田 秀樹 (山梨・甲府工) 増田 泰良 (東京・東工大付科技) 逸見 淳子 (茨城・つくば工) 峯 孝一 (千葉・市川工) 佐藤 剛 (神奈川・向の岡工) 菅原 伸一 (大会事務局・秋田工) 五十嵐 忠彦 (次回大会事務局・宇都宮工)				
6 都道県理事	北海道 青森 宮城 山形 栃木 埼玉 東京 神奈川 新潟 富山 福井 愛知 岐阜	高島 浩 (旭川工) 菊田 武則 (十和田工) 鈴木 真暢 (古川工) 佐々木 崇 (米沢工) 黒崎 利之 (真岡工) 加藤 正則 (大宮工) 山口 直志 (蔵前工) 佐藤 剛 (向の岡工) 奈良岡健一 (新潟工) 井村 笑子 (高岡工芸) 廣田 喜文 (武生工) 夏目 真季 (豊橋工科) 伊田 賢二 (岐阜工)	北海道 岩手 秋田 福島 群馬 茨城 東京 千葉 山梨 長野 石川 静岡	二瓶 真市 (帯広工) 堺田 誠之 (盛岡工) 川崎 知之 (大曲工) 鈴木 武 (勿来工) 永田 浩 (桐生工) 逸見 淳子 (つくば工科) 松原昌忠 (葛西工) 峯 孝一 (市川工定) 菅沼 雄介 (甲府工定) 藤原 栄治 (長野工) 久保 芳男 (羽咋工) 中田 亮 (伊豆総合)	
7 会計監査	米川 誠次 高橋 亮	東京都立総合工科高等学校 千葉県立市川工業高等学校			
8 分科会(5分科会)	【凡例】 ●・・・副主査または副委員長を示す				
1) 製図分科会:主査	吉城 守 (大宮工) ● 中曽根 康 (前橋工定) 谷内 昭彦 (金沢市立工) 菊池 貞介 (市川工)	笹崎 ひろみ (墨田工) 杉山 大亮 (春日部工)	村井 和幸 (新潟県央工) 阿久津 真依 (墨田工)		
2) 計画分科会:主査	江原 聖直 (田無工) ● 田中 和夫 (館林商工) 荒木 宏道 (橘) 林田 千鶴	(春日部工) 岩上 成輝 (川崎総合科学) 門馬 紀介 (葛西工)	田村 雄志 (川崎総合科学) 畠山 弘幸 (石巻工)		
3) 法規分科会:主査	大木 英生 (藤沢工科) ● 岩瀬 政利 (東総工) 萱沼 俊一 (白石工) 田村 信義 (安房拓心) 森嶋 真一 (甲府工)	根岸 俊行 (館林商工) 廣田 喜文 (武生工) 石井 嘉隆 (市川工) 大森 慎一 (盛岡工)	米原 良慈 (蔵前工定) 笹原 玲香 (科学技術) 後藤 隆宏 (甲府工) 谷 康博 (奥越明成)		
4) 構造分科会:主査	小澤 誠志 (川越工) ● 菅谷 太郎 (墨田工定) 高橋 康代 (総合工科) 出川 匠 (甲府工定) 星野 志保 (羽咋工) 袖野 貴義	(総合工科) 榎本 吉晃 (安田学園) 松原 昌忠 (葛西工) 益野 英昌 (仙台工) 佐々木 英治 (向の岡工) 岩崎 あす佳 (葛西工)	沢野 茂 (蔵前工) 鈴木 隆 (蔵前工定) 松村 徹 (高崎工) 菅沼 雄介 (甲府工定)		

- 5) 施工分科会:主査 林 祐介 (市川工)
 ● 渡邊 恵一 (宇都宮工) 吉村 公利 (大宮工)
 高旨 清仁 (京葉工) 首代 昌紀 (京葉工) 内藤 好洋 (大宮工定)
 浜辺 恵一 (磯子工) 永田 浩 (桐生工)

9 委員会(4委員会)

- 1) 編集委員会:委員長 根岸 俊行 (館林商工)
 ● 原 裕喜 (館林商工) 田村 信義 (安房拓心) 米原 良慈 (蔵前工定)

- 2) 製図コンクール運営委員会:委員長 森嶋 真一 (甲府工)
 ● 佐藤 康雄 (神奈川工定) 高野 史晃 (真岡工)

(製図分科会)	中曾根 康	(前橋工定)	村井 和幸	(新潟県央工)	笹崎 ひろみ	(墨田工)
(計画分科会)	荒木 宏道	(館林商工)	畠山 弘幸	(石巻工)	門馬 紀介	(葛西工)
(法規分科会)	萱沼 俊一	(白石工)	後藤 隆宏	(甲府工)		
(構造分科会)	菅谷 太郎	(川越工)	松原 昌忠	(葛西工)		
(施工分科会)	渡邊 恵一	(宇都宮工)	首代 昌紀	(京葉工)		

- 3) 資格取得推進委員会:委員長 石井 直樹 (高崎工)
 ● 泉 隆一 (大宮工) 五十嵐 忠彦 (宇都宮工) 遠藤 啓史 (市川工)
 小林 克哉 (蔵前工)

- 4) 広報委員会:委員長 米原 良慈 (蔵前工定)
 ● 菅谷 太郎 (川越工) 佐々木 英治 (向の岡工)
 原 裕喜 (館林商工) 榎本 吉晃 (安田学園)

10 顧問及び参与

- 1) 顧問
 北島 敬己 (第16代会長) 原田 昭 (第18代会長) 佐藤 清親 (第20代会長)
 能智 功 (第21代会長) 佐藤 則夫 (第22代会長) 村田 敬一 (元前橋工校長)
 平林 博 (第23代会長) 豊田 善敬 (第24代会長) 小林 晶代 (第25代会長)
 三神 幸男 (第26代会長) 平田 誠一 (第27代会長) 早川 忠憲 (第28代会長)

- 2) 参与
 土田 裕康 (元副会長) 大間 俊彦 (元編集委員長) 大久保 健 (元副会長)
 小沢 宏 (元副会長) 鈴木 隆 (元事務局長) 菊池 貞介 (元副会長)

11 全国高等学校建築教育連絡協議会 (略称:全高建協)

会 長	岡谷 典幸	東京都立田無工業高等学校長	(東日本建築教育研究会 会長)
副会長	黒澤 光弘	秋田県立秋田工業高等学校長	(第72回 秋田大会)
副会長	菅野 光広	栃木県立宇都宮工業高等学校長	(第73回 栃木大会)
事務局長	廣瀬 公一郎	東京都立田無工業高等学校	(東日本建築教育研究会 本部事務局長)
会 計	小林 勝広	東京都立田無工業高等学校	(東日本建築教育研究会 副会長)
理 事	米原 良慈	東京都立蔵前工業高等学校	

23. 関係諸官庁

諸 官 庁 名	〒	住 所	電話番号
文部科学省	109-8959	千代田区霞が関3-2-2	03-5253-4111
北海道教育委員会	060-8544	札幌市中央区北3条西7丁目	011-231-4111
札幌市教育委員会	060-0002	札幌市中央区北2条西2丁目15	011-211-3825
青森県教育委員会	030-8540	青森市長島一丁目1-1	017-722-1111
岩手県教育委員会	020-8570	盛岡市内丸10-1	019-629-6106
宮城県教育委員会	980-8423	仙台市青葉区本町3-8-1	022-211-3614
仙台市教育委員会	980-0011	仙台市青葉区上杉1-5-12上杉分庁舎	022-214-8856
秋田県教育委員会	010-8580	秋田市山王3-1-1	018-860-5111
山形県教育委員会	990-8570	山形市松波二丁目8-1	023-630-2211
福島県教育委員会	960-8688	福島市杉妻町2-16	024-521-1111
茨城県教育委員会	310-8588	水戸市笠原町978-6	029-301-5143
栃木県教育委員会	320-8501	宇都宮市塙田1-1-20	028-623-3354
群馬県教育委員会	371-8570	前橋市大手町1-1-1	027-226-4521
埼玉県教育委員会	330-9301	さいたま市浦和区高砂3-15-1第2庁舎	048-830-6991
千葉県教育委員会	260-8662	千葉市中央区市場町1-1中庁舎	043-223-4015
千葉市教育委員会	260-8730	千葉市中央区問屋町1-35	043-245-5908
東京都教育委員会	163-8001	新宿区西新宿2-8-1	03-5320-6710
神奈川県教育委員会	231-8509	横浜市中区日本大通33	045-210-8020
横浜市教育委員会	231-0017	浜市中区港町1-1	045-671-3243
山梨県教育委員会	400-8504	甲府市丸の内1-6-1	055-223-1741
長野県教育委員会	380-8570	長野市大字南長野字幅下692-2	026-235-7421
新潟県教育委員会	950-8570	新潟市新光町4-1	025-280-5587
静岡県教育委員会	420-8601	静岡市葵区追手町9-6	054-221-3675
富山県教育委員会	930-8501	富山市新総曲輪1-7	076-444-3430
石川県教育委員会	920-8575	金沢市鞍月1-1	076-225-1811
福井県教育委員会	910-8580	福井市大手3-17-1	0776-21-1111
愛知県教育委員会	460-8534	名古屋市中区三の丸3-1-2	052-954-6757
名古屋市教育委員会	460-8508	名古屋市中区三の丸3-1-1	052-972-3272
岐阜県教育委員会	500-8570	岐阜市藪田南2-1-1	058-272-8727
全国工業高等学校長協会	102-0072	千代田区飯田橋2-8-1	03-3261-1500
全国高等学校建築教育連絡協議会	188-0013	東京都西東京市向台町1-9-1 東京都立田無工業高等学校	042-464-2225
西日本工高建築連盟	545-0004	大阪府大阪市阿倍野区文の里1丁目7-2 大阪市立工芸高校	06-6623-0485
中国地区高等学校工業教育研究会建築系部会	734-0001	広島県広島市南区出汐2-4-75 広島県立広島工業高校	082-254-1421

2 4. 会員校一覧

1. 北海道						
01-01	北海道旭川工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒078-8804	北海道旭川市緑が丘東4条2丁目1番1号	0166-65-4115
01-02	北海道旭川工業高等学校	〔定時制〕	建築・土木科	〒078-8804	北海道旭川市緑が丘東4条1丁目1番1号	0166-65-4115
01-03	北海道小樽未来創造高等学校	〔全日制〕	建設システム科	〒047-8540	北海道小樽市最上1丁目29番1号	0134-23-6105
01-04	北海道小樽未来創造高等学校	〔定時制〕	電気・建築科 建築コース	〒047-8540	北海道小樽市最上1丁目29番1号	0134-23-6105
01-05	北海道札幌工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒060-0820	北海道札幌市北区北20条西13丁目	011-727-3341
01-06	北海道札幌工業高等学校	〔定時制〕	建築科	〒060-0820	北海道札幌市北区北20条西13丁目	011-727-3341
01-07	北海道苫小牧工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒053-0035	北海道苫小牧市字高丘6-22	0144-36-3161
01-08	北海道苫小牧工業高等学校	〔定時制〕	建築科	〒053-0035	北海道苫小牧市字高丘6番地22	0144-36-3162
01-09	北海道函館工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒041-0844	北海道函館市川原町5番13号	0138-51-2271
01-10	北海道帯広工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒080-0872	北海道帯広市清流西2丁目8番地1	0155-48-5650
01-11	北海道釧路工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒085-0821	北海道釧路市鶴ヶ岱3丁目5番1号	0154-41-1285
01-12	北海道名寄産業高等学校	〔全日制〕	機械・建築システム科	〒096-0035	北海道名寄市西五条北5丁目1番地	01654-2-3066
01-13	北海道室蘭工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒050-0073	北海道室蘭市宮の森町3-1-1	0143-44-5712
01-14	北海道留萌高等学校	〔全日制〕	電気・建築科 建築コース	〒077-0024	北海道留萌市千島町4丁目91番地	0164-42-2474
01-15	北海道北見工業高等学校	〔全日制〕	建設科 建築コース	〒099-0878	北海道北見市東相内町602	0157-36-5524
2. 青森県						
02-01	青森県立青森工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒039-3507	青森県青森市大字馬矢尻字清水流204-1	017-737-3600
02-02	青森県立弘前工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒036-8585	青森県弘前市馬屋町6-2	0172-32-6241
02-03	青森県立十和田工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒034-0001	青森県十和田市大字三本木字下平215-1	0176-23-6178
02-04	青森県立八戸工業高等学校	〔全日制〕	土木建築科 建築コース	〒031-0801	青森県八戸市江陽1丁目2番27号	0178-22-7348
02-05	学校法人八戸工業大学第一高等学校	〔全日制〕	工業科 建築コース	〒031-0822	青森県八戸市白銀町字右岩淵通7-10	0178-33-5121
3. 岩手県						
03-01	岩手県立盛岡工業高等学校	〔全日制〕	建築・デザイン科	〒020-0841	岩手県盛岡市羽場18-11-1	019-638-3141
03-02	岩手県立久慈工業高等学校	〔全日制〕	建設環境科 建築コース	〒028-8201	岩手県九戸郡野田村大字野田26-62-17	0194-78-2123
4. 宮城県						
04-01	宮城県白石工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒989-0203	宮城県白石市郡山字鹿野43	0224-25-3240
04-02	宮城県古川工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒989-6171	宮城県大崎市古川北町四丁目7番1号	0229-22-3166
04-03	宮城県石巻工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒986-0851	宮城県石巻市貞山五丁目1番1号	0225-22-6338
04-04	仙台市立仙台工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒983-8543	宮城県仙台市宮城野区東宮城野3番1号	022-237-5341
04-05	仙台市立仙台工業高等学校	〔定時制〕	建築土木科 建築コース	〒983-0042	宮城県仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5342
5. 秋田県						
05-01	秋田県立秋田工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒010-0902	秋田県秋田市保戸野金砂町3-1	018-823-7326
05-02	秋田県立大曲工業高等学校	〔全日制〕	土木・建築科 建築コース	〒014-0045	秋田県大仙市大曲若葉町3番17号	0187-63-4060
05-03	秋田県立能代科学技術高等学校	〔全日制〕	建設科 建築コース	〒016-0896	秋田県能代市盤巻町3-1	0185-74-5701
05-04	秋田県立由利工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒015-8530	秋田県由利本荘市石脇字田尻30	0184-22-5520
05-05	秋田県立横手清陵学院高等学校	〔全日制〕	総合技術科 環境工学類	〒013-0043	秋田県横手市大沢字前田147-1	0182-35-4033
05-06	秋田県立大館桂桜高等学校	〔全日制〕	土木・建築科 建築コース	〒017-0872	秋田県大館市片山町三丁目10番43号	0186-59-6299
6. 山形県						
06-01	山形県立山形工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒990-0041	山形県山形市緑町一丁目5番12号	023-622-4934
06-02	山形県立米沢工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒992-0117	山形県米沢市大字川井300番地	0238-28-7050
06-03	山形県立鶴岡工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒997-0036	山形県鶴岡市家中新町8-1	0235-22-5505
06-04	山形県立新庄神室産業高等学校	〔全日制〕	環境デザイン科 建築系	〒996-0051	山形県新庄市大字松本370	0233-28-8777
06-05	私立創学館高等学校	〔全日制〕	やまがた創造工学科 住環境デザインコース	〒994-0069	山形県天童市清池東二丁目10-1	023-655-2328
7. 福島県						
07-01	福島県立福島工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒974-8261	福島県福島市森合字小松原1番地	024-557-1395
07-02	福島県立福島工業高等学校	〔定時制〕	工業科 建築コース	〒960-8003	福島県福島市森合字小松原1番地	024-557-1395
07-03	福島県立会津工業高等学校	〔全日制〕	建築インテリア科	〒965-0802	福島県会津若松市徒之町1番37号	0242-27-7456
07-04	福島県立郡山北工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒963-8052	福島県郡山市八山田二丁目224番地	024-932-1199
07-05	福島県立勿来工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒974-8261	福島県いわき市植田町堂の作10	0246-63-5135
8. 栃木県						
08-01	栃木県立宇都宮工業高等学校	〔全日制〕	建築デザイン科	〒321-0198	栃木県宇都宮市雀宮町52番地	028-678-6500
08-02	栃木県立真岡工業高等学校	〔全日制〕	建設科 建築コース	〒321-4368	栃木県真岡市寺久保1丁目2番地9	0285-82-3303
08-03	栃木県立今市工業高等学校	〔全日制〕	建設工学科 建築コース	〒321-2336	栃木県日光市荻沢615番地	0288-21-1127
08-04	栃木県立小山北桜高等学校	〔全日制〕	建築システム科 建築技術コース	〒323-0802	栃木県小山市東山田448-29	0285-49-2932
08-05	栃木県立那須清峰高等学校	〔全日制〕	建設工学科 建築コース	〒329-2712	栃木県那須塩原市下永田6丁目4番地	0287-36-1155
08-06	私立足利大学附属高等学校	〔全日制〕	建築科	〒326-0397	栃木県足利市福富町2142	0284-71-1285
9. 群馬県						
09-01	群馬県立前橋工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒371-0006	群馬県前橋市石関町137番地1	027-264-7100
09-02	群馬県立前橋工業高等学校	〔定時制〕	建築科	〒371-0006	群馬県前橋市石関町137-1	027-264-7100
09-03	群馬県立高崎工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒370-0046	群馬県高崎市江木町700番地	027-323-5450
09-04	群馬県立桐生工業高等学校	〔全日制〕	建設科	〒376-0054	群馬県桐生市西久方町 1-1-41	0277-22-7141
09-05	群馬県立館林商工高等学校	〔全日制〕	建築科	〒370-0701	群馬県邑楽郡明和町南大島660番地	0276-84-4731
1 0. 埼玉県						
10-01	埼玉県立大宮工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒331-0802	埼玉県さいたま市北区本郷町1970	048-651-0445
10-02	埼玉県立大宮工業高等学校	〔定時制〕	工業技術科	〒331-0802	埼玉県さいたま市北区本郷町1970	048-651-0445
10-03	埼玉県立川越工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒350-0035	埼玉県川越市西小仙波町2-28-1	049-222-0206
10-04	埼玉県立春日部工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒344-0053	埼玉県春日部市梅田本町1-1-1	048-761-5235
10-05	埼玉県立熊谷工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒360-0832	埼玉県熊谷市小島820番地	048-523-3354
1 1. 茨城県						
11-01	茨城県立水戸工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒310-0836	茨城県水戸市元吉田町1101	029-247-5711
11-02	茨城県立土浦工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒300-0051	茨城県土浦市真鍋6丁目11番20号	029-821-1953
11-03	茨城県立つくば工科高等学校	〔全日制〕	建築技術科	〒305-0861	茨城県つくば市谷田部1818	029-836-1441
11-04	茨城県立下館工業高等学校	〔全日制〕	建設工学科 建築コース	〒308-0847	茨城県筑西市玉戸1336-111	0296-22-3632

1 2. 千葉県						
12-01	千葉県立市川工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒272-0031	千葉県市川市平田3丁目10番10号	047-378-4186
12-02	千葉県立市川工業高等学校	〔定時制〕	建築科	〒272-0031	千葉県市川市平田3-10-10	047-378-4186
12-03	千葉県立東総工業高等学校	〔全日制〕	建設科 建築コース	〒289-2505	千葉県旭市鎌数字川西5146	0479-62-2522
12-04	千葉県立京葉工業高等学校	〔全日制〕	建設科 建築コース	〒263-0024	千葉県千葉市稲毛区穴川4丁目11番32号	043-251-4197
1 3. 東京都						
13-01	東京都立蔵前工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒111-0051	東京都台東区蔵前1-3-57	03-3862-4488
13-02	東京都立蔵前工業高等学校	〔定時制〕	建築工学科	〒111-0051	東京都台東区蔵前1-3-57	03-3862-4488
13-03	東京都立墨田工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒135-0004	東京都江東区森下5-1-7	03-3631-4928
13-04	東京都立墨田工業高等学校	〔定時制〕	総合技術科 建築・大工コース	〒135-0004	東京都江東区森下5丁目1番地の7号	03-3631-4928
13-05	東京都立葛西工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒132-0024	東京都江戸川区一之江7-68-1	03-3653-4111
13-06	東京都立田無工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒188-0013	東京都西東京市向台町1丁目9番地1	042-464-2225
13-07	東京都立総合工科高等学校	〔全日制〕	建築・都市工学科	〒157-0066	東京都世田谷区成城9-25-1	03-3483-0204
13-08	東京都立総合工科高等学校	〔定時制〕	総合技術科	〒157-0066	東京都世田谷区成城9-25-1	03-3483-0204
13-09	私立日本工業大学駒場高等学校	〔全日制〕	創造工学科 建築コース	〒153-8508	東京都目黒区駒場1丁目35番32号	03-3467-2130
13-10	東京工業大学附属科学技術高等学校	〔全日制〕	科学・技術科 建築デザイン分野	〒108-0023	東京都港区芝浦3丁目3番6号	03-3453-2251
1 4. 神奈川県						
14-01	神奈川県立神奈川工業高等学校	〔全日制〕	建設科	〒221-0812	神奈川県横浜市神奈川区平川町19-1	045-491-9461
14-02	神奈川県立神奈川工業高等学校	〔定時制〕	建設科	〒221-0812	神奈川県横浜市神奈川区平川町19-1	045-491-9641
14-03	神奈川県立向の岡工業高等学校	〔全日制〕	建設科 建築コース	〒214-0022	神奈川県川崎市多摩区塚1丁目28番地1号	044(833)9548
14-04	神奈川県立藤沢工科高等学校	〔全日制〕	総合技術科 建築系	〒252-0803	神奈川県藤沢市今田744	0466-43-4265
14-05	神奈川県立小田原城北工業高等学校	〔全日制〕	建設科	〒250-0852	神奈川県小田原市栢山200	0465-36-0111
14-06	神奈川県立磯子工業高等学校	〔全日制〕	建設科	〒235-0023	神奈川県横浜市磯子区森5-24-1	045-761-0251
14-07	川崎市立川崎総合科学高等学校	〔全日制〕	建設工学科 建築デザインコース	〒212-0002	神奈川県川崎市幸区小向仲野町5-1	044-511-7336
1 5. 山梨県						
15-01	山梨県立甲府工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒400-0026	山梨県甲府市塩部二丁目7-1	055-252-4896
15-02	山梨県立甲府工業高等学校	〔定時制〕	建築科	〒400-0026	山梨県甲府市塩部2-7-1	055-252-4992
15-03	山梨県立富士北陵高等学校	〔全日制〕	総合学科 建築デザイン系列	〒403-0017	山梨県富士吉田市新西原一丁目23番1号	0555-22-4161
1 6. 新潟県						
16-01	新潟県立新潟工業高等学校	〔全日制〕	建築科 建築コース	〒950-2024	新潟県新潟市西区小新西1丁目5番1号	025-266-1101
16-02	新潟県立上越総合技術高等学校	〔全日制〕	建築環境科 建築システムコース 建築インテリアコース	〒943-0832	新潟県上越市本城町3番1号	025-525-1160
16-03	新潟県立新発田南高等学校	〔全日制〕	建築工学科	〒957-8567	新潟県新発田市大栄町3-6-6	0254-22-2178
16-04	新潟県立新潟県央工業高等学校	〔全日制〕	建設工学科 建築コース	〒955-0823	新潟県三条市東本成寺13番1号	0256-32-5251
16-05	新潟県立新津工業高等学校	〔全日制〕	日本建築科	〒956-0816	新潟県新潟市秋葉区新津東町1丁目12番9号	0250-22-3441
1 7. 長野県						
17-01	長野県長野工業高等学校	〔全日制〕	建築学科	〒380-0948	長野県長野市差出南3丁目9番1号	026-227-8555
17-02	長野県長野工業高等学校	〔定時制〕	建築科	〒380-0948	長野県長野市差出南3-9-1	026-227-8557
17-03	長野県池田工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒399-8601	長野県北安曇郡池田町大字池田2524	0261-62-3124
17-04	長野県飯田OIDE長姫高等学校	〔全日制〕	建築学科	〒395-0804	長野県飯田市鼎名古熊2535-2	0265-22-7117
17-05	長野県上田千曲高等学校	〔全日制〕	建築科	〒386-8585	長野県上田市中之条626	0268-22-7070
1 8. 富山県						
18-01	富山県立高岡工芸高等学校	〔全日制〕	建築科	〒933-8518	富山県高岡市中川1-1-20	0766-21-1630
18-02	富山県立富山工業高等学校	〔全日制〕	建築工学科	〒930-0887	富山県富山市五福2238番地	076-441-1971
1 9. 石川県						
19-01	石川県立小松工業高等学校	〔全日制〕	建設科 建築コース	〒923-8567	石川県小松市打越町丙67	0761-22-5481
19-02	石川県立羽咋工業高等学校	〔全日制〕	建設・デザイン科 建築コース	〒925-8521	石川県羽咋市西釜屋町ケ21	0767-22-1193
19-03	金沢市立工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒920-0344	石川県金沢市畝田東1丁目1番1	076-267-3101
2 0. 福井県						
20-01	福井県立武生工業高等学校	〔全日制〕	都市・建築科 建築コース	〒915-0841	福井県越前市文京1-14-16	0778-22-2730
20-02	福井県立敦賀工業高等学校	〔全日制〕	建築システム科	〒914-0035	福井県敦賀市山泉13号1番地	0770-25-1533
2 1. 静岡県						
21-01	静岡県立科学技術高等学校	〔全日制〕	建築デザイン科	〒420-0813	静岡県静岡市葵区長沼500番地の1	054-267-1100
21-02	静岡県立沼津工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒410-0822	静岡県沼津市下香貫八重129番地の1	055-931-0343
21-03	静岡県立沼津工業高等学校	〔定時制〕	工業技術科 建築類型	〒410-0822	静岡県沼津市下香貫八重129-1	055-928-7101
21-04	静岡県立浜松工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒433-8567	静岡県浜松市北区初生町1150番地	053-436-1101
21-05	静岡県立島田工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒427-8541	静岡県島田市阿知ヶ谷201番地	0547-37-4194
21-06	静岡県立伊豆総合高等学校	〔全日制〕	工業科 建築デザイン類型	〒410-2401	静岡県伊豆市牧之郷892	0558-72-3322
21-07	静岡県立天竜高等学校	〔全日制〕	総合学科 建築・デザイン系列	〒431-3314	静岡県浜松市天竜区二俣町二俣601番地	053-925-3139
2 2. 愛知県						
22-01	愛知県立城北つばさ高等学校	〔定時制〕	ものづくり科	〒462-0052	愛知県名古屋市中区福徳町広瀬島350-4	052-911-4421
22-02	愛知県立一宮工科高等学校	〔全日制〕	建築デザイン科	〒491-0804	愛知県一宮市千秋町佐野字辻田2112	0586-76-2255
22-03	愛知県立豊橋工科高等学校	〔全日制〕	建築デザイン科	〒441-8141	愛知県豊橋市草間町官有地	0532-45-5635
22-04	愛知県立半田工科高等学校	〔全日制〕	建築デザイン科	〒475-0916	愛知県半田市柵町3丁目1番地	0569-21-2164
22-05	愛知県立碧南工科高等学校	〔全日制〕	建築デザイン科	〒447-0066	愛知県碧南市丸山町3丁目10番地	0566-42-2500
22-06	愛知県立愛西工科高等学校	〔全日制〕	建築デザイン科	〒496-8018	愛知県愛西市測高町藤島1番地	0567-37-1288
22-07	愛知県立愛知総合工科高等学校	〔全日制〕	建設科	〒464-0808	愛知県名古屋市中千種区星が丘山手107	052-788-2020
22-08	名古屋市立工芸高等学校	〔全日制〕	建築システム科	〒461-0027	愛知県名古屋市中区芳野2丁目7番51号	052-931-7541
22-09	学校法人名古屋園名古屋工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒466-0054	愛知県名古屋市中区円内上町22-38	052-871-2681
2 3. 岐阜県						
23-01	岐阜県立大垣工業高等学校	〔全日制〕	建設工学科群 建築工学科	〒503-8521	岐阜県大垣市南若森町 301-1	0584-81-1280
23-02	岐阜県立岐南工業高等学校	〔全日制〕	建築科	〒500-8389	岐阜県岐阜市本荘3456-19	058-271-3151
23-03	岐阜県立高山工業高等学校	〔全日制〕	建築インテリア科	〒506-0032	岐阜県高山市千島町291番地	0577-32-0418
23-04	岐阜県立中津川工業高等学校	〔全日制〕	建設工学科	〒509-9193	岐阜県中津川市千旦林1521番地3	0573-68-2115
23-05	岐阜県立可児工業高等学校	〔全日制〕	建設工学科 建築類型	〒509-0202	岐阜県可児市中恵土2358-1	0574-62-1185
23-06	岐阜県立岐阜工業高等学校	〔全日制〕	建設工学科 建築類型	〒501-6083	岐阜県羽島郡笠松町常盤町1700番地	058-387-4141
23-07	関市立関商工高等学校	〔全日制〕	建設工学科 建築類型	〒501-3938	岐阜県関市桐ヶ丘1-1	0575-22-4221

個人会員

榎本 吉晃						
安田学園高等学校	〔全日制〕	普通科	〒130-0015	東京都墨田区横網2丁目2-25		03-3624-2666
林田 千鶴						
東京都立橋高等学校	〔全日制〕	産業科	〒131-0043	東京都墨田区立花4丁目29-7		03-3617-8311
田村 信義						
千葉県立安房拓心高等学校	〔全日制〕	総合学科 土木工学系列	〒299-2712	千葉県南房総市和田町海発1604		0470-47-2551
谷 康博						
福井県立奥越明成高等学校	〔全日制〕		〒912-0016	福井県大野市友江9-10		0779-66-4610

2021年度			
東日本建築教育研究会 会員校数			
ブロック		都道府県	会員校数
北海道	1	北海道	15
	2	青森県	5
	3	岩手県	2
	4	宮城県	5
	5	秋田県	6
	6	山形県	5
	7	福島県	5
関東	8	栃木県	6
	9	群馬県	5
	10	埼玉県	5
	11	茨城県	4
	12	千葉県	4
	13	東京都	10
	14	神奈川県	7
	15	山梨県	3
北信越	16	新潟県	5
	17	長野県	5
	18	富山県	2
	19	石川県	3
	20	福井県	2
東海	21	静岡県	7
	22	愛知県	9
	23	岐阜県	7
合計			127

25. 歴代理事長・会長

代	役職	任 期			氏 名
初	理事長	昭和 26 年11 月	～	36 年 5 月	伏見 三郎
2	理事長	36 年 5 月	～	41 年 6 月	中江 齊
3	理事長	41 年 6 月	～	46 年 7 月	富塚 信司
4	会長	46 年 7 月	～	48 年 6 月	長谷川 光次
5	会長	48 年 6 月	～	51 年 5 月	池田 寿男
6	会長	51 年 5 月	～	52 年 1 月	遊佐 五郎
7	会長	52 年 6 月	～	53 年 6 月	高橋 豊次
8	会長	53 年 6 月	～	56 年 6 月	堀 重雄
9	会長	56 年 6 月	～	59 年 6 月	国兼 光由
10	会長	59 年 6 月	～	61 年 6 月	楠見 善男
11	会長	61 年 6 月	～	62 年 6 月	加地 正義
12	会長	62 年 6 月	～	平成 1 年 6 月	松村 篤躬
13	会長	平成 1 年 6 月	～	2 年 7 月	加曾利 政男
14	会長	2 年 7 月	～	5 年 6 月	清水 守男
15	会長	5 年 6 月	～	8 年 6 月	吉村 義弘
16	会長	8 年 6 月	～	11 年 6 月	北島 敬己
17	会長	11 年 6 月	～	12 年 6 月	稲見 辰夫
18	会長	12 年 6 月	～	14 年 7 月	原田 昭
19	会長	14 年 7 月	～	15 年 7 月	堀川 忠義
20	会長	15 年 7 月	～	17 年 7 月	佐藤 清親
21	会長	17 年 7 月	～	20 年 7 月	能智 功
22	会長	20 年 8 月	～	21 年 7 月	佐藤 則夫
23	会長	21 年 8 月	～	23 年 7 月	平林 博
24	会長	23 年 8 月	～	26 年 7 月	豊田 善敬
25	会長	26 年 8 月	～	28 年 7 月	小林 晶代
26	会長	28 年 8 月	～	29 年 7 月	三神 幸男
27	会長	29 年 8 月	～	令和 2 年 8 月	平田 誠一
28	会長	令和 2 年 8 月	～	3 年 7 月	早川 忠憲
29	会長	3 年 7 月	～		岡谷 典幸

26. 加盟校以外の建築系設置校

西日本工高建築連盟加盟(33校)

府県	学 校 名	課程・科・コース・専攻	住 所	電 話	F A X
三重	三重県立伊勢工業高等学校	全日制 建築科	〒516-0017 三重県伊勢市神久2-7-18	0596-23-2234	0596-23-2236
	三重県立津工業高等学校	全日制 建設工学科	〒514-0823 三重県津市半田534	059-226-1285	059-224-8781
	三重県立四日市工業高等学校	全日制 建築科	〒510-0886 三重県四日市市日永東3-4-63	059-346-2331	059-345-2717
	三重県立四日市工業高等学校	定時制 住生活工学科	〒510-0886 三重県四日市市日永東3-4-63	059-346-3725	059-345-2717
滋賀	滋賀県立彦根工業高等学校	全日制 建築科	〒522-0222 滋賀県彦根市南川瀬町1310	0749-28-2201	0749-28-2936
	京都府立宮津高等学校	全日制 建築科	〒626-0034 京都府宮津市字滝馬23	0772-22-2116	0772-22-2117
	京都市立京都工芸専門学校	全日制 プロジェクト工学科	〒612-0884 京都府京都市伏見区深草西出山町23	075-646-1515	075-646-1516
京都	京都市立伏見工業高等学校	定時制 工業技術科	〒612-0011 京都府京都市伏見区深草鈴塚町13	075-641-5121	075-641-5950
	大阪府立今宮工科高等学校	全日制 建築系	〒557-0024 大阪府大阪市西成区出城1-1-6	06-6631-0055	06-6645-7618
	大阪府立今宮工科高等学校	定時制 建築系	〒557-0024 大阪府大阪市西成区出城1-1-6	06-6631-0055	06-6645-7618
大阪	大阪府立西野田工科高等学校	全日制 建設都市工学科	〒553-0007 大阪府大阪市福島区大開2-17-62	06-6461-0023	06-6461-3483
	大阪府立西野田工科高等学校	定時制 生活デザイン系	〒553-0007 大阪府大阪市福島区大開2-17-62	06-6461-0023	06-6461-3483
	大阪府立布施工科高等学校	全日制 建設設備系	〒577-0805 大阪府東大阪市宝持3-7-5	06-6722-0221	06-6722-0226
	大阪府立工芸高等学校	全日制 建築デザイン科	〒545-0004 大阪府大阪市阿倍野区文の里1-7-2	06-6623-0485	06-6623-8419
	大阪市立都島工業高等学校	全日制 建築科	〒534-0015 大阪府大阪市都島区善源寺町1-5-64	06-6921-0231	06-6925-3970
	大阪市立都島第二工業高等学校	定時制 建築科	〒534-0015 大阪府大阪市都島区善源寺町1-5-64	06-6921-4236	06-6925-3969
	堺市立堺高等学校	全日制 建築デザイン創造科	〒590-0025 大阪府堺市堺区向陵東町1-10-1	072-240-0840	072-252-6601
	堺市立堺高等学校	定時制 建築創造科	〒590-0025 大阪府堺市堺区向陵東町1-10-1	072-240-0841	072-252-6404
	兵庫県立尼崎工業高等学校	全日制 建築科	〒660-0802 兵庫県尼崎市長洲中通1-13-1	06-6481-4841	06-6481-4843
	兵庫県立兵庫工業高等学校	全日制 建築科	〒652-0863 兵庫県神戸市兵庫区和田宮通2-1-63	078-671-1431	078-671-1435
	兵庫県立兵庫工業高等学校	定時制 建築科	〒652-0863 兵庫県神戸市兵庫区和田宮通2-1-63	078-651-2811	078-651-2812
	兵庫県立東播工業高等学校	全日制 建築科	〒675-0057 兵庫県加古川市東神吉町神吉1748-1	079-432-6861	079-432-6862
	神戸市立科学技術高等学校	全日制 都市工学科	〒651-0072 兵庫県神戸市中央区脇浜町1-4-70	078-272-9900	078-272-9919
奈良	奈良県立奈良朱雀高等学校	全日制 建築工学科	〒630-8031 奈良県奈良市柏木248	0742-33-0293	0742-33-9647
	奈良県立吉野高等学校	全日制 建築工学科	〒639-3113 奈良県吉野郡吉野町飯貝680	0746-32-5151	0746-32-5025
和歌山	和歌山県立和歌山工業高等学校	全日制 建築科	〒641-0036 和歌山県和歌山市西浜3-6-1	073-444-0158	073-444-2510
	和歌山県立和歌山工業高等学校	定時制 建築科	〒641-0036 和歌山県和歌山市西浜3-6-1	073-444-2472	073-444-2487
岡山	岡山県立岡山工業高等学校	全日制 建築科	〒700-0013 岡山県岡山市北区伊福町4-3-92	086-252-5231	086-252-7130
	岡山県立津山工業高等学校	全日制 建築科	〒708-0004 岡山県津山市山北411-1	0868-22-4174	0868-22-4177
	岡山県立水島工業高等学校	全日制 建築科	〒710-0807 岡山県倉敷市西阿知町1230	086-465-2504	086-465-4598
	岡山県立東岡山工業高等学校	全日制 設備システム科	〒703-8217 岡山県岡山市中区土田290-1	086-279-0565	086-279-0567
	岡山市立後楽館高等学校	全日制 総合学科	〒708-0807 岡山県岡山市北区南方1-3-15	086-226-7100	086-226-7109
沖縄	沖縄県立沖縄工業高等学校	全日制 建築科	〒902-0062 沖縄県那覇市松川3-20-1	098-832-3831	098-855-5029

西日本工高建築連盟加盟 外(1校)

県	学 校 名	課程・科・コース・専攻	住 所	電 話	FAX
兵庫	兵庫県立龍野北高等学校	全日制 環境建設工学科	〒679-4316 兵庫県たつの市新宮町芝田125-2	0791-75-2900	0791-75-2296

中国地区高等学校工業教育研究会建築系部会加盟(17校) ※岡山県の4校は西日本工高建築連盟に含む。

県	学 校 名	課程・科・コース・専攻	住 所	電 話	FAX
鳥取	鳥取県立米子工業高等学校	全日制 建設科	〒683-0052 鳥取県米子市博労町4-220	0859-22-9211	0859-22-9212
	鳥取県立鳥取工業高等学校	全日制 建築環境科	〒689-1103 鳥取県鳥取市生山111	0857-51-8011	0857-51-8499
島根	島根県立出雲工業高等学校	全日制 建築科	〒693-0022 島根県出雲市上塩冶町420	0853-21-3131	0853-21-7543
	島根県立江津工業高等学校	全日制 建築・電気科	〒695-0011 島根県江津市江津町1477	0855-52-2120	0855-52-2264
	島根県立松江工業高等学校	全日制 建築都市工学科	〒690-8528 島根県松江市古志原4-1-10	0852-67-2121	0852-67-2122
	島根県立松江工業高等学校	定時制 建築科	〒690-8528 島根県松江市古志原4-1-10	0852-67-2118	0852-67-2128
広島	広島県立広島工業高等学校	全日制 建築科	〒734-0001 広島県広島市南区出汐2-4-75	082-254-1421	082-253-3407
	広島県立福山工業高等学校	全日制 建築科	〒720-0815 広島県福山市野上町3-9-2	084-922-0261	084-922-3474
	広島県立宮島工業高等学校	全日制 建築科	〒739-0425 広島県廿日市市物見西二丁目6-1	0829-55-0143	0829-55-0609
	広島市立広島工業高等学校	全日制 建築科	〒734-0025 広島県広島市南区東本浦町1-18	082-282-2216	082-288-4169
	広島市立広島工業高等学校	定時制 工業技術科	〒734-0025 広島県広島市南区東本浦町1-18	082-282-2216	082-288-4169
	広島県立府中東高等学校	全日制 インテリア科	〒726-0021 広島県府中市土生町399-1	0847-41-3300	0847-41-6848
	広島県立総合技術高等学校	全日制 環境設備科	〒729-0417 広島県三原市本郷南5丁目25番1号	0848-86-4314	0848-86-3157
山口	山口県立下関工科高等学校	全日制 建設工学科	〒759-6613 山口県下関市富任町4-1-1	083-258-0065	083-258-0685
	山口県立萩商工高等学校	全日制 電気・建築科	〒758-0074 山口県萩市平安古町544番地	0838-22-0034	0838-22-2429
	山口県立柳井商工高等学校	全日制 建築・電子科	〒742-1352 山口県柳井市伊保庄2658	0820-22-5533	0820-22-5534

その他

県	学 校 名	課程・科・コース・専攻	住 所	電 話	FAX
徳 島	徳島県立つるぎ高等学校	全日制 建設科	〒779-4101 徳島県美馬郡つるぎ町貞光字馬出63-2	0883-62-3135	0883-62-4238
	徳島県立徳島科学技術高等学校	全日制 建設技術類	〒770-0006 徳島県徳島市北矢三町2-1-1	088-631-4185	088-631-1110
	徳島県立徳島科学技術高等学校	定時制 工業技術類	〒770-0006 徳島県徳島市北矢三町2-1-1	088-631-4188	088-631-4181
香 川	香川県立坂出工業高等学校	全日制 建築科	〒762-0051 香川県坂出市御供所町1-1-2	0877-46-5191	0877-46-5054
	香川県立高松工芸高等学校	全日制 建築科	〒760-0017 香川県高松市番町2-9-30	087-851-4144	087-851-4146
	香川県立高松工芸高等学校	定時制 建築科	〒760-0017 香川県高松市番町2-9-30	087-851-4144	087-851-4146
	香川県立多度津高等学校	全日制 建築科	〒764-0011 香川県仲多度郡多度津町栄町1-1-82	0877-33-2131	0877-33-2132
愛 媛	愛媛県立東予高等学校	全日制 建設工学科	〒799-1371 愛媛県西条市周布650	0898-64-2119	0898-64-4112
	愛媛県立松山工業高等学校	全日制 建築科	〒790-0021 愛媛県松山市真砂町1	089-931-8195	089-931-8860
	愛媛県立松山工業高等学校	定時制 建築科	〒790-0021 愛媛県松山市真砂町1	089-931-8198	089-931-8860
	学校法人 松山聖陵学園 松山聖陵高等学校	全日制 建築科	〒791-8016 愛媛県松山市久万/台1112	089-924-8783	089-926-2383
高 知	高知県立安芸桜ヶ丘高等学校	全日制 環境建設科	〒784-0026 高知県安芸市桜ヶ丘町784	0887-35-2020	0887-35-4370
	高知県立高知工業高等学校	全日制 建築科	〒780-8010 高知県高知市棧橋通2-11-6	088-831-9171	088-833-7666
	高知県立高知工業高等学校	定時制 建築科	〒780-8010 高知県高知市棧橋通2-11-6	088-831-9171	088-833-7666
	高知県立宿毛工業高等学校	全日制 建設科	〒788-0783 高知県宿毛市平田町戸内2272-2	0880-66-0346	0880-66-1016
福 岡	福岡県立浮羽工業高等学校	全日制 建築科	〒839-1233 福岡県久留米市田主丸町田主丸395-2	0943-72-3111	0943-72-4343
	福岡県立田川科学技術高等学校	全日制 システム科学技術科	〒825-0005 福岡県田川市糺1900	0947-44-1041	0947-42-1213
	福岡県立戸畑工業高等学校	全日制 建築科	〒804-0052 福岡県北九州市戸畑区丸町3-10-1	093-881-3868	093-881-5108
	福岡県立福岡工業高等学校	全日制 建築科	〒814-8520 福岡県福岡市早良区荒江2-19-1	092-821-5831	092-822-5837
	福岡市立博多工業高等学校	全日制 建築科	〒814-0155 福岡県福岡市城南区東油山4-20-1	092-862-6575	092-862-8346
	福岡県立大川樟風高等学校	全日制 住環境システム科	〒831-0005 福岡県大川市向島1382	0944-87-2247	0944-86-6016
	学校法人大牟田学園 大牟田高等学校	全日制 建築科	〒837-0917 福岡県大牟田市大字草木852	0944-53-5011	0944-53-8251
	学校法人真颯館 真颯館高等学校	全日制 建築科	〒803-0837 福岡県北九州市小倉北区中井口5-1	093-561-1231	093-591-9595
	学校法人筑紫台学園 筑紫台高等学校	全日制 建築科	〒818-0119 福岡県太宰府市連歌屋1-1-1	092-923-0010	092-923-0073
佐 賀	佐賀県立佐賀工業高等学校	全日制 建築科	〒840-0841 佐賀県佐賀市緑小路1-1	0952-24-4356	0952-25-7043
	佐賀県立塩田工業高等学校	全日制 建築科	〒849-1411 佐賀県嬉野市塩田町大字馬場下甲1418	0954-66-2044	0954-66-9000
	佐賀県立鳥栖工業高等学校	全日制 建築科	〒841-0051 佐賀県鳥栖市元町1918	0942-83-4134	0942-81-1019
	佐賀県立唐津工業高等学校	全日制 建築科	〒847-0832 佐賀県唐津市石志字中ノ尾3072番1	0955-78-1155	0955-70-3021
	学校法人江楠学園 北陵高等学校	全日制 建築科	〒849-0921 佐賀県佐賀市高木瀬西3-7-1	0952-30-8676	0952-33-5524
	長崎県立大村工業高等学校	全日制 建築科	〒856-0815 長崎県大村市森園町1079-3	0957-52-3772	0957-52-3720
長 崎	長崎県立佐世保工業高等学校	全日制 建築科	〒857-0134 長崎県佐世保市瀬戸越3-3-30	0956-49-5684	0956-49-8072
	長崎県立佐世保工業高等学校	定時制 建築科	〒857-0134 長崎県佐世保市瀬戸越3-3-30	0956-49-5684	0956-49-8072
	長崎県立島原工業高等学校	全日制 建築技術科	〒855-0073 長崎県島原市本光寺町4353	0957-62-2768	0957-63-2215
	長崎県立長崎工業高等学校	全日制 建築科	〒852-8052 長崎県長崎市岩屋町41-22	095-856-0115	095-856-0117
	長崎県立長崎工業高等学校	定時制 建築科	〒852-8052 長崎県長崎市岩屋町41-22	095-856-0115	095-856-0117
	熊本県立小川工業高等学校	全日制 建築科	〒869-0631 熊本県宇城市小川町北新田770	0964-43-1151	0964-43-4970
熊 本	熊本県立球磨工業高等学校	全日制 建築科	〒868-8515 熊本県人吉市城本町800	0966-22-4189	0966-22-5049
	熊本県立熊本工業高等学校	全日制 建築科	〒862-0953 熊本市中央区上京塚町5番1号	096-383-2105	096-385-4482
	熊本県立熊本工業高等学校	定時制 建築科	〒862-0953 熊本市中央区上京塚町5番1号	096-383-2105	096-385-4482
	熊本県立水俣工業高等学校	全日制 電気建築システム科	〒867-0063 熊本県水俣市洗切町11-1	0966-63-1285	0966-63-1205
	学校法人開新学園 開新高等学校	全日制 土木建築科	〒862-8677 熊本県熊本市中央区大江6丁目1番33号	096-366-1201	096-372-6052
	大分県立大分工業高等学校	全日制 建築科	〒870-0948 大分県大分市芳河原台12-1	097-568-7322	097-568-7319
大 分	大分県立鶴崎工業高等学校	全日制 建築科	〒870-0133 大分県大分市大字葛木509	097-527-5261	097-527-5263
	大分県立日田林工高等学校	全日制 建築土木科	〒877-0083 大分県日田市吹上町30	0973-22-5171	0973-22-5173
	宮崎県立日向工業高等学校	全日制 建築科	〒883-0022 宮崎県日向市大字平岩8750	0982-57-1411	0982-57-2146
宮 崎	宮崎県立都城工業高等学校	全日制 建設システム科	〒885-0084 宮崎県都城市五十町2400	0986-22-4349	0986-22-5877
	宮崎県立宮崎工業高等学校	全日制 建築科	〒880-8567 宮崎県宮崎市天満町9-1	0985-51-7231	0985-51-7287
	宮崎県立宮崎工業高等学校	定時制 建築科	〒880-8567 宮崎県宮崎市天満町9-1	0985-51-1054	0985-51-1054
	鹿児島県立出水工業高等学校	全日制 建築科	〒899-0214 鹿児島県出水市五万石町358	0996-62-0010	0996-62-0096
鹿 児 島	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	全日制 建築系	〒890-0014 鹿児島県鹿児島市草牟田2-57-1	099-222-9205	099-222-9206
	鹿児島県立加治木工業高等学校	全日制 建築科	〒899-5211 鹿児島県姶良市加治木町新富町131	0995-62-3166	0995-62-3168
	鹿児島県立鹿屋工業高等学校	全日制 建築科	〒893-0032 鹿児島県鹿屋市川西町4490	0994-42-2165	0994-42-4524
	鹿児島県立薩南工業高等学校	全日制 建築科	〒897-0302 鹿児島県南九州市知覧町郡5232	0993-83-2214	0993-83-2215
	学校法人川島学園 れいめい高等学校	全日制 工学科	〒895-0041 鹿児島県薩摩川内市隈之城町2205	0996-23-3178	0996-27-0920
	沖縄県立名護商工高等学校	全日制 電建システム科	〒905-0019 沖縄県名護市大北4-1-23	0980-52-3278	0980-54-1489
沖 縄	沖縄県立美里工業高等学校	全日制 建築科	〒904-2172 沖縄県沖縄市泡瀬5-42-2	098-937-5848	098-937-0842

27. 賛助会員一覧

事業者	代表	〒 住所	TEL FAX
一般財団法人 建設業振興基金	理事長 佐々木 基	105-0001 東京都港区虎ノ門4丁目2番12号 虎ノ門4丁目MTビル2号館	03-5473-4570 03-5473-1594
株式会社 建築資料研究社／日建学院	代表取締役社長 馬場 栄一	171-0014 東京都豊島区池袋2-38-1 日建学院ビル5F	03-6872-1158 03-6692-9178
株式会社 建築ビボット	代表取締役社長 千葉 貴史	112-0014 東京都文京区関口2-3-3 目白坂STビル6F	03-6821-1691 03-5978-6215
株式会社 鈴木組	代表取締役 鈴木 央	113-0022 東京都文京区千駄木3-43-3 ATK千駄木ビル2F	03-3822-1785 03-3822-1787
一般社団法人 全国建築CAD連盟	代表理事 加藤 正彦	461-0008 愛知県名古屋市中区武平町5-1 名古屋栄ビルディング7F	052-962-5544 052-962-5570
株式会社 総合資格／総合資格学院	代表取締役社長 岸 隆司	163-0557 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22F	03-3340-2812 03-3340-8177
戸田建設 全国利友会	会長 向井 敏雄	104-0032 東京都中央区八丁堀2-8-5 戸田建設(株)内	03-3535-1354
学校法人中央工学校 中央工学	校長 松田 正之	114-8543 東京都北区王子本町1-26-17	03-3906-1211 03-3966-1250
学校法人片柳学園 日本工学院専門学校	理事長・校長 千葉 茂	144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22	03-3732-1111 03-3732-1112
学校法人片柳学園 日本工学院八王子専門学校	理事長・校長 千葉 茂	192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1	042-637-3111 042-637-3112
福井コンピュータアーキテクト株式会社	代表取締役社長 佐藤 浩一	104-0045 東京都中央区築地5-6-4 浜離宮三井ビルディング6F	0570-039-291 03-6274-6860
メガソフト 株式会社	代表取締役社長 井町 良明	530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル11F	06-6131-5028 06-6131-5081
学校法人 ものづくり大学	学長 赤松 明	361-0038 埼玉県行田市前谷333	048-564-3849 048-564-3509
学校法人日建千葉学園 千葉日建工科専門学校	学校長 坂井 久光	260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉2-20-1	043-241-1300 043-241-1302
学校法人環境造形学園 インテリアセンタースクール 専門学校 ICSカレッジオブアーツ	学長 フランク・ラ・リヴィエ	152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-5-6	03-5701-2211 03-5701-2212
浅野工学園 浅野工学専門学校	学校長 中村 正明	221-0012 神奈川県横浜市神奈川区子安台1-3-1	045-421-0403 045-431-9724
鹿島事業協同組合連合会	理事長 徳間 昭昭	107-8348 東京都港区赤坂6-5-11 鹿島建設(株)内	03-3587-9547 03-5544-1715
一般財団法人 建設物価調査会	理事長 北橋 建治	103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町11-8	03-3663-4707 03-3663-4708
学校法人国際理工学園 国際理工情報デザイン専門学校	学校長 竹井 透	263-0024 千葉県千葉市稲毛区穴川3-8-11	043-252-1920 043-287-6714
佐藤興業株式会社	代表取締役社長 佐藤 周平	101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-10	03-3294-1981 03-3295-9393
実教出版株式会社	代表取締役社長 小田 良次	102-8377 東京都千代田区五番町5	03-3238-7854 03-3238-7758
清水建設株式会社	代表取締役社長 井上 和幸	104-8370 東京都中央区京橋2丁目16-1	03-3561-1153 03-3561-8694
住友林業ホームエンジニアリング株式会社	代表取締役社長 徳永 完平	160-0023 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル12F	03-6911-3341 03-6730-3641
星槎道都大学	学長 飯浜 浩幸	061-1196 北海道北広島市中の沢149	011-372-3111 011-372-2580
職業能力開発短期大学校 東京建築カレッジ	学校長 小林 謙二	170-0014 東京都豊島区池袋一丁目8-6	03-5950-1771 03-5950-1774
学校法人小山学園 専門学校 東京テクニカルカレッジ	学校長 白井 雅哲	164-8787 東京都中野区東中野4-2-3	03-3360-8881 03-3360-8820
ドラバス株式会社	代表取締役 佐藤 恒宣	114-0023 東京都北区滝野川7-26-7	03-3916-3201 03-3916-5532
公益社団法人 日本建築士会連合会	会長 近角 真一	108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館5F	03-3456-2061 03-3456-2067
学校法人富嶽学園 日本建築専門学校	校長 吉江 勝郎	418-0103 静岡県富士宮市上井出2730番地の5	0544-54-1541 0544-54-1405
日本工業大学	学長 成田 健一	345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1	0480-33-7507 0480-33-7527
一般社団法人 日本パーステック協会	理事長 宮後 浩	542-0081 大阪府中央区南船場1-5-11	06-6267-5331 06-6267-5332
職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会 富士教育訓練センター	会長 山梨 敏幸	418-0101 静岡県富士宮市根原492-8	0544-52-0968 0544-52-1336
武藤工業株式会社	代表取締役社長 磯邊 泰彦	154-8560 東京都世田谷区池尻3-1-3	03-6758-7130 03-6758-7139
LIXILビル建材技術専門校	理事長 加藤 武	136-8535 東京都江東区大島2-1-1 LIXIL WINGビル	03-6706-7325

目指せ、ビル外装のプロフェッショナル！



LIXILビル建材技術専門校

ビルサッシ、カーテンウォール施工の技術を学べます。

ホームページ <http://www.lbtc.jp/> お問い合わせ lbtc@lixil.com

高精度・高操作性の平行定規<A2対応>

Liner Board UM-06N8

MUTOH製平行定規。小さくてもほとんどの図面に対応できるA2サイズ。衝撃に強い2WAYショルダータイプの専用キャリングケース付きで、一級・二級建築士の試験会場への持ち込み可能です。

一級・二級建築士 受験用平行定規



熱溶解積層方式3Dプリンタ

Value 3D MagiX

日本品質MUTOH製3Dプリンタ。FDM方式の3Dプリンタは低価格なランニングコストが魅力。授業でも手軽にお使いいただけます。最小積層ピッチは0.05mm。造形サイズ300×300×300mmの大型造形が可能です。



武藤工業株式会社

HOME PAGE <http://www.mutoh.co.jp>

東京都世田谷区池尻 3-1-3 〒154-8560 TEL(03)6758-7000(代)

職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会

富士教育訓練センター

富士教育訓練センターでは、多くの実業高校生や専門学校生が建設業で仕事ができる技能を身に付けるため実習に取り組んでいます。

富士山西麓の恵まれた環境のもとで、手に職を目指す若者に実務教育のための充実した実習の場が用意されています。

新施設での充実した研修を



お気軽にお問合せください

〒418-0101 静岡県富士宮市根原 492-8
TEL 0544-52-0968 FAX 0544-52-1336

URL <http://www.fuji-kkc.ac.jp>

描くチカラは、伝えるチカラ。



ものづくりに携わる者が身につけておきたいスキル、それが「描くチカラ」。

「伝える」を「確実に伝える」に変える、有効なコミュニケーションツールなのです。



一般社団法人

日本パーステック協会

Japan Pers-tech Association

手描きパースの普及・教育・指導 / パース検定主催

立体を表現する力

パース検定

1級、2級、3級

2021年12月5日(日)開催

<http://www.pers-tech.org>

詳しくはHPをご覧ください

〒542-0081 大阪市中央区南船場1-5-11

TEL: 06-6267-5331 FAX: 06-6267-5332

E-mail: info@pers-tech.org

建築学科 建築コース

技術とデザインの融合による
100年後を見据えた建築に
ついて学ぶ



建築学科 生活環境デザインコース

人の心の「豊かさ」を育む
室内空間や住環境について学ぶ



個性を大切に、創造性を育み、誰もが快適に暮らせる魅力的な環境や空間を創造する
建築家、インテリアデザイナー、建築技術者を養成します。



日本工業大学

☎ 0480-33-7676

✉ nyu-shi@nit.ac.jp

<https://www.nit.ac.jp>



▲大学HP

基幹工学部 機械工学科 / 電気電子通信工学科 / 応用化学科

先進工学部 ロボティクス学科 / 情報メディア工学科 / データサイエンス学科

建築学部 建築学科 [建築コース / 生活環境デザインコース]

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1

唯一！本格的に木造建築の技術と心が学べる

日本建築専門学校

一級建築士受験資格認定校（4大と同等）

〒418-0103

静岡県富士宮市上井出2730-5

TEL 0544-54-1541



建築士会とは、多種多様な建築分野で活躍する建築士が集まる、建築士法第22条の4で定められている社団法人で、全国47すべての都道府県に設立されている世界有数、日本最大のスペシャリスト集団です。

一級建築士中央指定登録機関 <http://www.kenchikushikai.or.jp>

公益社団法人日本建築士会連合会

〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館5階 TEL 03-3456-2061

建築士受験用平行定規のベストセラー製品です！

DRAPAS BOARD DXM-601

- ◆マグネットボード仕様・携帯バッグ(防水)付属 ◆重量:3.0kg(本体)
- ◆外形寸法:505×685mm 製図範囲:426×600mm
- ◆マグネットプレート 500mm×2枚・300mm×2枚 付属



※ポートフォリオバッグ
付も選べます。

◆好評のドラパスボードの姉妹品 DXM900 (A1)



用途に応じ、製図台付
セットも用意できます。

お問い合わせは下記まで

設計製図・画材・デザイン材料の総合発売元

DRAPAS ドラパス株式会社

本社:東京都北区滝野川7-26-7 〒114-0023
TEL:03(3916)3201 FAX:03(3916)5532
<http://www.drapas.co.jp>

わかるだけでなく、
「できる」ようになる 11 の学科。



- 建築監督科
- 建築科(昼・夜)
- インテリア科
- データサイエンス+AI科
- IoT+AI科
- 情報処理科
- ゲームプログラミング科
- Web動画クリエイター科
- 環境テクノロジー科
- バイオテクノロジー科

T+C

専門学校
東京テクニカルカレッジ

入学相談室 〒164-8787東京都中野区東中野4-2-3
☎ 0120-1969-04 Web <https://tec.ttc.ac.jp/>



建築業界で働きながら学ぶ お互いを高め合える仲間と出会える

東京建築カレッジの2つの特徴

- ①日本における建築の基本は木造にある、という考え方で、伝統的な大工技術を通して建築の基礎を学びます。
- ②働きながら学ぶスタイル。入学生は全員が建築従事者です。職業訓練なので、低学費負担で学べます。



伝統構法も取り入れた実習棟実習



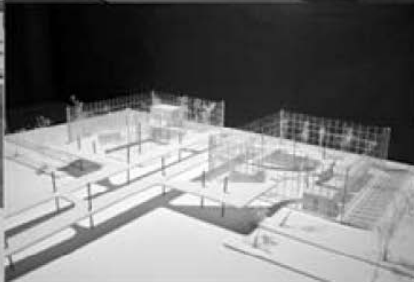
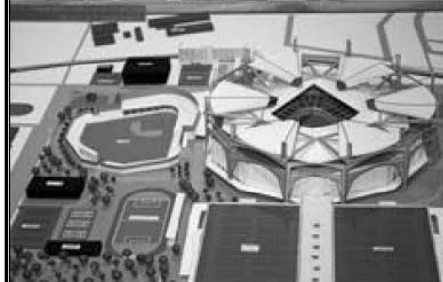
2022年4月入学生募集中

就職相談も受付中！相談はお気軽に
くわしくは 学校webサイトを
ご覧ください。

厚生労働省所管、東京都認定 職業能力開発短期大学校

東京建築カレッジ

〒170-0014 東京都豊島区池袋1-8-6
TEL 03-5950-1771 info@doken-college.ac.jp



星槎道都大学

美術学部 建築学科

- 建築プロフェッショナル専攻
- 建築デザイン専攻



〒061-1196 北海道北広島市中の沢149番地 TEL 011-372-3111

0120-870205

木造注文住宅 「住友林業の家」の施工専門会社

住友林業100%出資のグループ会社で、私たちは高品質の「住友林業の家」を技術で支えています！

確かな技能を育む訓練体制

大工職、左官職など職人募集中

入社後は、住友林業建築技術専門校にて1年間『大工』『左官』の基礎を学んだのち、配属されます



毎年、国内の若手技能者がその技を競う「技能五輪全国大会」の
建築大工職種で常に上位入賞を果たしています

(19年連続全国大会入賞)

「技能五輪国際大会(world skills)」にも出場実績があります

1999年ダ・モンテリオール大会：敢闘賞

2007年日本・静岡大会：銀賞

2011年イギリス・ロンドン大会：銀賞

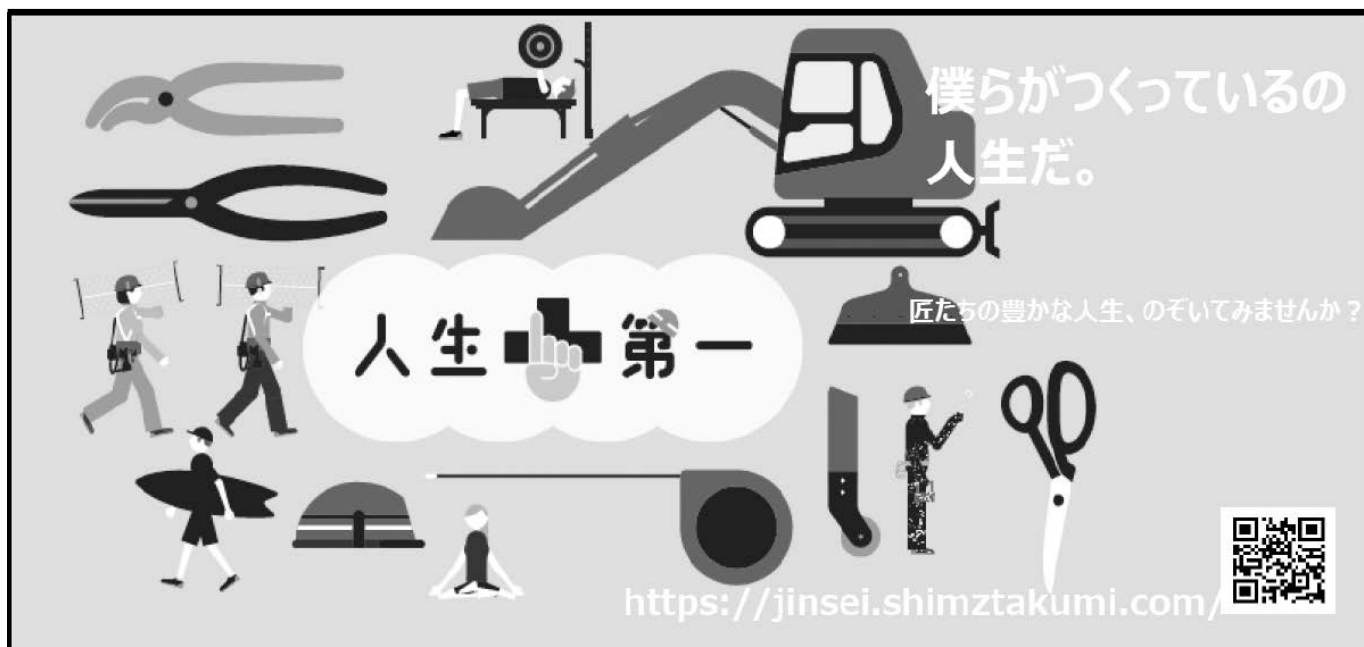
2019年ロシア・カザン大会：9位

※毎年全国で60名の大工や左官職を採用しています



住友林業ホームエンジニアリング株式会社

本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-24-1 TEL: 03-6911-3341 <https://www.sumirin-he.co.jp/>



僕らがつくっているの
人生だ。

匠たちの豊かな人生、のぞいてみませんか？

人生第一

<https://jinsei.shimztakumi.com/>



じっきょうの教材 新課程用

工業 705「建築設計製図」準拠 **建築設計製図ワークノート ☆**
 工業 714「建築構造」準拠 **建築構造演習ノート**
 工業 705, 714 指導資料 **建築デジタルデータ集 ☆**

☆の教材は、一部の掲載課題で、AR（拡張現実）の技術を使用した 3D 画像をご利用いただけます。

実教出版株式会社 <https://www.jikkyo.co.jp>

本社 〒102-8377 東京都千代田区五番町 5 TEL: 03-3238-7773~7778 FAX: 03-3238-7755
 大阪支社 〒532-0003 大阪市淀川区宮原 5-1-3 NLC 新大阪アースビル TEL: 06-6397-2400 FAX: 06-6397-2402
 九州支社 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 3-2-1 日本生命博多駅前ビル TEL: 092-473-1841 FAX: 092-471-7529

※お求めの際は、各学校に出入りの書店様に直接ご注文ください。



LOVE YOUR NEIGHBOR, WORK, COUNTRY.

私たちは 塗装技術を通じ 豊かな暮らしを提供します。

佐藤興業株式会社
 SATO KOGYO CO., LTD.

2017年度 第25回 全国建築塗装技能競技大会「内閣総理大臣賞」受賞
 2017年度 東京都中小企業技能人材育成大賞 優秀賞受賞
 2019年度 第26回 全国建築塗装技能競技大会「国土交通大臣賞」受賞

東京都千代田区神田駿河台 2-10 <http://www.p-sato.co.jp>



アットホーム教育と就職に強い！

◆建築設計科（2年制）

◆ビジュアルデザイン科（2年制）

◆ゲームクリエイター科（3年制）

◆建築士専攻科（1年制）※

（※2級建築士受験資格取得者対象）

◆ITスペシャリスト科（4年制）

◆情報システム科（2年制）

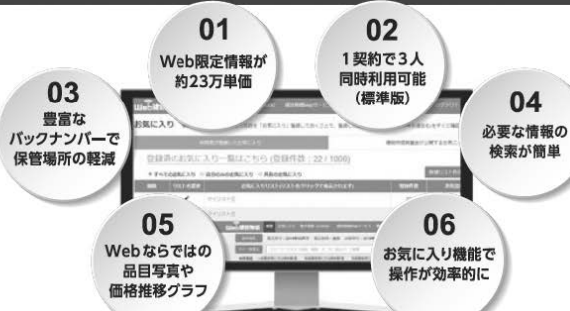


情報・ゲーム・デザイン・建築の総合学園
学校法人 **国際理工情報デザイン** 専門学校

〒263-0024 千葉市稲毛区穴川 3-8-11 お問合せ 0120-498-593

Webだからできる「建設物価」の新しいカタチ
豊富な情報量、電子版ならではの使いやすさにより、国、県、市町村、民間に幅広く使われています。

Web建設物価



こんな教材が欲しかった！

まんがめざせ！現場監督

まんがシリーズ
第3弾!!

【平成27年5月発行】 | AB判 | 定価 2,200円（本体2,000円+税10%）

**現場のやりがいを
知ることができる一冊**



これから建設業界を
目指そうという学生
の皆様におすすめします！



一般財団法人 建設物価調査会

☎ 電話でのお問い合わせ ☎ **0120-978-599** (9:00~17:00 土・日・祝日除く)

💻 パソコンからのお申込み <https://book.kensetu-navi.com/>

建設物価 Book Store

検索



鹿島事業協同組合連合会

〒107-8348 東京都港区赤坂6-5-11 TEL 03-3587-9547

<http://kajima-kyoren.com>



建築系



横浜で本物を学ぶ「浅野の建築」
浅野工学専門学校

学校法人 浅野工学園

ASANO INSTITUTE OF TECHNOLOGY
本校の学科は「職業実践専門課程」として文部科学大臣から認定されています。

建築工学科 建築デザイン科

ご予約・
お問い合わせはこちらへ

<https://ssl.asano.ac.jp/event-mail/>

☎0120-19-2903 Mail: info@asano.ac.jp

学校説明会もやってます！
詳しくはこちらへ

<https://ssl.asano.ac.jp> または **浅野工学** **検索**

学校説明会
やってます！
気軽に参加
OK!

〒221-0012 横浜市神奈川区子安台1-3-1 ● 設定日以外の学校見学も受け付けています。随時お問い合わせください。

ICSカレッジオブアーツ

日本で最初のインテリア専門校で
建築・インテリア・家具の
デザイン・ものづくりを学ぶ



152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-5-6

東急東横線「都立大学」駅下車 徒歩5分

Tel: 0120-006-911 <http://www.ics.ac.jp>



学校法人 日建千葉学園

千葉日建工科専門学校

全日制2年コース

建築CAD技術科 (定員80名)

デザイン設計科 (定員29名)

環境創造科 (定員25名)

設置学科

全日制1年コース

建築経営研究科 (定員29名)

《お問い合わせ》

0120-36-4149

受付時間 / 9:00 - 17:00

〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉 2-20-1

FAX 043-241-1302 URL <http://cnp.ac.jp>

日本の技術を世界へ

私たちが応援します。

2022年4月 総合機械学科から 情報メカトロニクス学科に 生まれ変わります



小型の3Dプリンタ
1人1台の環境を実現



授業の約6割が実習・演習
各界一流の技術者から学ぶ



NHK学生ロボコン2019
本選出場



技能五輪全国大会
左官職種金賞受賞他4名入賞

ものづくり大学

技能工芸学部 情報メカトロニクス学科 (AI・情報システム、ロボットシステム
機械デザイン、生産システム)

建設学科 (木造建築、都市・建築、仕上・インテリア
建築デザイン)

〒361-0038 埼玉県行田市前谷333番地 Tel 048-564-3816 URL <http://www.iot.ac.jp/>

MEGASOFT.

学校向け住宅デザインソフトセット

3Dマイホームデザイナー

PRO9EX
スクールパック

3DCGで学習する 建築・インテリア・プレゼンテーション

「間取りプラン」「3Dパース」「プレゼンボード」などを、多彩な表現方法で素早く作成できる建築プレゼンテーションソフト「3Dマイホームデザイナー PRO9EX」と、構造やインテリア計画・プレゼンテーションを学べる教材がセットになった教育機関向け製品です。

1 平面と立体の関係性の 把握が容易

作成した平面プランを3D化することで、平面では理解しにくい建築構造の隅々まで確認でき、理解を深められます。



付属「構造学習教材」

2次元では分かりにくい構造を3DCGで立体的に解説。住宅の構造や部位の名称をさまざまな角度から確認でき、理解が深まります。



2 住宅・空間デザインの 授業に広く活用可能

充実した素材で、コンセプトにあった住宅・空間デザインを繰り返し検討でき、デザイン、イメージ力を養えます。



3 プレゼンテーション 能力育成に

プレゼンボード作成機能で、プランニングした建築・インテリアの資料を作成して、学習発表にも活用できます。



学校向け住宅デザインソフト

3DマイホームデザイナーPRO9EXなら

こだわりの住宅仕様を細部まで作成、プランニングできます。

床段差	スロープ	小上がり	掘りごたつ	飾り縁	コーポ照明付折上天井
勾配天井窓	コーニス照明	壁面上下部の化粧縁	装飾用開口	ニッチ	付け棚

■標準価格 105,050円(税込) [メディアキット1枚 38,500円+ボリュームライセンス1L 66,550円]から

◇通常版

学校向け住宅デザインソフトセット

3DマイホームデザイナーPRO9EXスクールパック

■標準価格 43,450円(税込) [メディアキット1枚 5,500円+ボリュームライセンス1L 37,950円]から



QRから
製品
サイトへ

関連他製品

VR
メガソフトVRソリューション
MEGASOFT VR SOLUTION

導入効果

建築VRの教育部門への活用
をいち早く研究・実用化できる

住・インテリアの空間把握を
より体感的に学べる

VRをきっかけに
住・インテリア分野の
ポテンシャルを周知できる

QRから
導入事例へ
アクセス!



授業で計画した建物を3Dマイホームデザイナーで作成し、更にその空間の中にVRを使って入り体感することができ、空間把握に役立ちます。ゼミや研究、オープンスクールなどで建物や空間を体感する授業にご活用いただけます。

◇教材

3Dマイホームデザイナー専用素材集付き

3DCGで学ぶ
福祉住環境スクールパック

3DCGを多数活用した解説資料で、イメージしづらい空間生活行為別の福祉住環境の関連性を学習できる教材です。

■標準価格 63,250円(税込)
[基本5ライセンス]から

QRからアクセス!



◇最上位版

3D Archi Designer®
3Dアーキテクトデザイナー10 Professional
アカデミックライセンス

CAD作図から、戸建て住宅、高層マンションや大規模な商業施設プランまで、コンペ、卒業設計、課題研究に!

■標準価格 198,000円(税込)
[1ライセンス]

※新規ご購入の場合、最低販売数量はライセンス以上となります。

QRからアクセス!



メガソフト株式会社

〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル11階 TEL.06-6147-2780 FAX.06-6131-5081 www.megasoft.co.jp
お問い合わせはこちらまで ⇒ インフォメーションセンター TEL.06-6147-2780 受付時間: 13:00~17:00(土、日、祝祭日除く)



「第33回中小企業優秀新技術・新製品賞」ソフトウェア部門でメガソフト製品が「優秀賞」を受賞

受賞製品

「交通事故見取り図メーカー」 www.megasoft.co.jp/3dta



業界の動き、ユーザーニーズに応え、常に進化し続ける。 全国4万社の導入実績が安心と信頼の証です。

住宅事業者様、建設会社様をはじめ、全国の公共・教育機関でCAD実習の教材としても幅広く導入いただいております。専用CADの高度な専門性と使いやすさは学ぶ方の学習意欲向上、社会の即戦力となるスキルを身につける抜群のツールとなっています。



改正建築物省エネ法対応

戸建住宅
設計支援



ARCHITREND
ZERO

3D建築CADシステム

間取りや屋根などの基本データから瞬時に3Dモデルを作成し、各種図面や書類、CGパースなどを一気通貫で作成。流れるような高速オペレーションを実現する3D建築CADシステムです。



施工支援システム新発売！

BIM設計
施工支援

GLOBE Architect
Construction

Japanese Building Information Modeling CAD System

BIM建築設計・施工支援システム

日本の設計手法や建築基準法に対応したBIM建築設計・施工支援システム。新たに施工支援システムを追加し、設計・施工・BIM-FMのシームレスなデータ連携でBIM建築のトータルマネジメントを実現します。

福井コンピュータアーキテクト株式会社

本社／〒910-0297 福井県坂井市丸岡町磯部福庄5-6

札幌・盛岡・仙台・水戸・宇都宮・高崎・新潟・長野・さいたま・千葉・東京・川崎・静岡・名古屋・岐阜・福井・京都・大阪・神戸・岡山・高松・松山・広島・福岡・熊本・別府・宮崎・鹿児島・那覇

体験版・資料請求・オンラインデモ・お見積り等お問合せはWEBで▼

[福井コンピュータグループ総合案内]



0570-039-291

福井コンピュータアーキテクト

検索

<https://archi.fukuicomp.co.jp>

中央工学校

112年を超える伝統と実績で就職を勝ち取る

建築・木造・設備・インテリア・舞台美術・土木・測量・造園・機械・CAD



《建築関連学科》 — 令和2年一級建築士試験 専門学校トップの合格者数 —
令和2年一級建築士試験「設計製図の試験」学校別合格者一覧が発表され、専門学校では連続トップの成績をおさめました。（令和2年12月25日、（公財）建築技術教育普及センター発表）

《設置学科》

- | | |
|-------------|---------------|
| ■ 建築学科（4年） | ■ 建築設備設計科（2年） |
| ■ 建築工学科（3年） | ■ 建築室内設計科（2年） |
| ■ 建築設計科（2年） | ■ 夜間 建築科（2年） |
| ■ 木造建築科（2年） | |

新校舎2棟

2号館

3号館

2019
完成

中央工学校では、今後の学校永続と環境の整備に重点を置き「王子キャンパス整備計画」を策定しました。想像力を育む開放的で洗練された学習空間の創出により、キャンパス全体が一体化した活動拠点となるよう整備し、完成しました。

2号館

さまざまな実習授業に対応したスタジオ棟
スタジオには各分野に特化した専用の設備を完備



◀ Facility Studio 建築設備実習室

● 住宅やオフィスビルの建築設備を再現。
実際に「見て」「触れて」「感じて」「理解する」実習室



◀ Design Studio 体験型学習室

● インテリア・照明などを学ぶ実習室。
「議論」「実習」「発表」など活発なコミュニケーションを生む学習空間



- 〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目26-17
- TEL : 03-3905-1511
- Mail : info@chuoko.ac.jp
- PC : <https://chuoko.ac.jp>

中央工学校のオフィシャルHPにアクセスできます。資料請求や体験入学など、お申し込みはコチラ➡

一般社団法人
専門学校コンソーシアム Tokyo 加盟校
THE CONSORTIUM OF COLLEGES IN TOKYO

【ホームページ】



【施設紹介ムービー】



【コンソーシアムHP】



『専門力』 + 『人間力』 確実な就職・デビューへ!

クリエイターズカレッジ

プロデューサー、カメラマン、声優、俳優、舞台スタッフ、マンガ家、アニメーターをめざす。

- ◎ 放送芸術科 *
- ◎ 声優・演劇科 *
- ◎ 演劇スタッフ科 *
- ◎ マンガ・アニメーション科4年制※◆*
- ◎ マンガ・アニメーション科 *

ITカレッジ

システムエンジニア、プログラマー、ネットワークエンジニア、セキュリティエンジニア、秘書、ホテルスタッフをめざす。

- ◎ ITスペシャリスト科(4年制)※◆*
- AI・システム☆/ネットワーク・クラウド☆/
セキュリティ専攻
- ◎ AIシステム科
- ◎ 情報処理科 *
- ◎ ネットワークセキュリティ科 *
- ◎ 情報ビジネス科 *
- 秘書・事務/eビジネス☆/
ホテル●コース

☆2022年4月新設 *職業実践専門課程認定学科
※高度専門士付与学科 ◆編入制度あり
●日本工学院専門学校設置
◎日本工学院八王子専門学校設置

デザインカレッジ

ゲームプログラマー、CGデザイナー、グラフィックデザイナー、イラストレーター、インテリアデザイナー、プロダクトデザイナーをめざす。

- ◎ ゲームクリエイター科4年制※◆
- ◎ ゲームクリエイター科 *
- ◎ CG映像科(3年制) *
- ◎ デザイン科(3年制) *
- グラフィックデザイン/イラストレーション/
インテリアデザイン/プロダクトデザイン専攻

テクノロジーカレッジ

ロボット技術者、電子・電気技術者、バイオ技術者、自動車整備士、建築士、土木技術者、CAD技術者をめざす。

- ◎ ロボット科 *
- ◎ 電子・電気科 *
- ◎ 一級自動車整備科(4年制)※◆*
- ◎ 自動車整備科 *
- ◎ 応用生物学科 *
- ◎ 建築学科(4年制)※◆*
- ◎ 建築設計科 *
- ◎ 土木・造園科 *
- ◎ 機械設計科 *

ミュージックカレッジ

ミュージシャン、コンサートスタッフ、レコーディングエンジニア、ダンサーをめざす。

- ◎ ミュージックアーティスト科 *
- プレイヤー/ヴォーカリスト/
サウンドクリエイターコース
- ◎ コンサート・イベント科 *
- ◎ 音響芸術科 *
- ◎ ダンスパフォーマンス科 *

スポーツ・医療カレッジ

トレーナー、インストラクター、スポーツメーカー・ショップスタッフ、サッカー・テニスプレイヤー、鍼灸師、柔道整復師、医療事務スタッフをめざす。

- ◎ スポーツトレーナー科3年制 *
- ◎ スポーツトレーナー科 *
- ◎ スポーツ健康学科3年制 *
- スポーツインストラクター/スポーツビジネス/
サッカー/テニスコース
- ◎ スポーツ健康学科 *
- スポーツインストラクター/スポーツビジネス/
サッカー/テニスコース
- ◎ 鍼灸科(3年制) *
- ◎ 柔道整復科(3年制) *
- ◎ 医療事務科 *

若きつくりびと奨学金設置

オープンキャンパス+体験入学 開催中!



日本工学院 検索



総合選抜型
(AO入学)
エントリー
受付中!

日本工学院

www.neec.ac.jp

日本工学院専門学校

☎0120-123-351 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22

日本工学院八王子専門学校

☎0120-444-700 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1

@nihonkougakuin @neec_official @nihonkogakuin

姉妹校 日本工学院北海道専門学校 併設校 東京工科大学 日本工学院を卒業後、併設校の東京工科大学へ有利に編入できる制度があります。

最先端技術BIMと資格を手に入れ、業界最前線へ

一級建築士をめざす!

建築学科 (高度専門士 4年制)※

BIM専攻/建築・インテリア設計専攻/
建築構造・設備専攻/建築施工専攻
放送大学とのダブルスクールで「学士」も取得可能!
卒業後に大学院進学をめざすこともできます。

二級建築士をめざす!

建築設計科 (2年制)※

BIM専攻/建築・インテリア設計専攻/
建築構造・設備専攻/建築施工専攻
4年制への編入で在学中に二級建築士を取得可能!
他大学への編入実績も豊富。

土木・造園科※☆ ロボット科※☆ 一級自動車整備科 (高度専門士)※☆ 自動車整備科※☆
電子・電気科※ 機械設計科※ 応用生物学科※☆

※職業実践専門課程認定学科
☆八王子校のみ設置



建築学科/建築設計科 News & Topics

◆建築士合格実績 [2017年~2021年]

二級建築士・木造建築士

147名(在学中に合格)

◆主な就職先・大学編入学実績 [2017年~2021年]

東証一部上場企業 公務員 大学編入学

168名 6名 29名

◆建設の最先端設計技法“BIM”を学び、 業界最大手に日建設計など、 BIM関連企業へ多数就職!

※BIM=ビルディング・インフォメーション・モデリング

◆日本ペイント 国際学生コンペティション 「アジア・ヤング・デザイナー・アワード2020」 優秀賞受賞!

◆建築学科[4年制]から大学院に進学

大学院進学8名(2018年~2021年)

東京都立大学大学院、法政大学大学院、芝浦工業
大学大学院、東海大学大学院、工学院大学大学院、
武蔵野大学大学院

◆「産学連携プロジェクト」多数の企業と連携 東急(株)、(株)三栄建築設計、(株)丹青TDC、 (株)ヤマダホームズ 他多数

◆放送大学とのダブルスクールで学士取得も可能 学士取得者 累計255名(2017年~2021年)

◆卒業生2名が「一級建築士試験」に最短合格 建築士法の改正により、本校卒業後直ぐに受験可能

高校生いす デザインコンテスト 高校生 けんちくコンテスト 高校生 ものづくり川柳コンテスト

日本工学院では、高校生が持つクリエイティブな才能や能力を発掘し、夢をつかんでもらうための大きなチャンスとなる、各種「高校生コンテスト」を実施しています。

日本工学院 テクノロジーカレッジ

日本工学院専門学校

日本工学院八王子専門学校

☎ 0120-123-351 ☎ 144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22

☎ 0120-444-700 ☎ 192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1

■URL <https://www.neec.ac.jp/> ■Eメール info@stf.neec.ac.jp @nihonkougakuin @neec_official @nihonkogakuin

総合選抜型
(AO入学)
エントリー
受付中!



戸田建設全国利友会



**戸田建設全国利友会は、戸田建設のパートナー企業として
さまざまな建設プロジェクトを実現する1,500社の専門工事会社集団です。**

【支部組織】

札幌利友会	〒060-8535	北海道札幌市中央区北3条東2-2	TEL.011-231-9211
東北利友会	〒980-0811	宮城県仙台市青葉区一番町3-3-6 星和仙台ビル	TEL.022-222-1257
関東利友会	〒330-0063	埼玉県さいたま市浦和区高砂2-6-5 浦和大栄ビル	TEL.048-827-1418
千葉利友会	〒260-0031	千葉県千葉市中央区新千葉1-4-3 フコク生命ビル	TEL.043-242-4466
東京利友会	〒108-0023	東京都港区芝浦3-9-1 芝浦ルネサイトタワー	TEL.03-3535-1501
首都圏土木利友会	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町2-7-1	TEL.03-3535-1580
横浜利友会	〒220-0012	神奈川県横浜市西区みなとみらい4-4-2 横浜ブルーアベニュー	TEL.045-228-8207
名古屋利友会	〒461-0001	愛知県名古屋市中区京1-22-22	TEL.052-051-8541
大阪利友会	〒550-0005	大阪府大阪市西区西本町1-13-47 新信濃橋ビル	TEL.06-6531-3886
広島利友会	〒730-0044	広島県広島市中区宝町1-20	TEL.082-545-7500
四国利友会	〒760-0062	香川県高松市塩上町2-8-19	TEL.087-835-1153
九州利友会	〒810-8502	福岡県福岡市中央区天神2-13-7 福岡平和ビル	TEL.092-753-4111
全国利友会合同事務局	〒104-0031	東京都中央区京橋2-8-4-301	TEL.03-3561-5332
戸田建設株式会社本社	〒104-0032	東京都中央区八丁堀2-8-5	TEL.03-3535-1354

「現場見学」、「出前講座」、「インターンシップ」などご協力致します。詳細はHPをご覧ください。
採用等に関しては各支部宛にお問い合わせください。



一般財団法人 戸田みらい基金

戸田みらい基金では、建設に関する教育振興活動に係る費用の全額または一部を補助することにより、教育関連団体・高校・工業高校等による創意あふれる取り組みを奨励しています。

第1回	2019年5月	助成A:3団体	助成B:18校
第2回	2020年5月	助成A:2団体(コロナのため辞退)	助成B:27校
第3回	2021年5月	助成A:2団体	助成B:22校

助成A:教育関連団体等の取り組み／助成B:高校・工業高校等の取り組み
過去の助成実績などの詳細は財団ホームページをご覧ください。

〈お問い合わせ〉
一般財団法人 戸田みらい基金 事務局
〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-8-5
TEL. 03-3564-2711
E-mail. info@toda-mirai.or.jp



大坂城コンクリートカヌー競技大会(2019年8月)

全国工業高等学校長協会・対象
ジュニアマイスター顕彰制度 資格

ジュニアマイスター顕彰制度の得点

准1級	2級	3級	4級
20点	12点	4点	2点

※「令和2年度後期区分表」より

活躍の場は
無限大。

CADの技能は、決して設計に携わる人だけに求められるものではありません。

様々な業務が複合化した現代の建築・建設関連業界では、幅広い知識と技能を持ち組織内での横断的な活躍・役割をこなせる有能な人材が求められています。

なかでもCAD技術を有する人材は、企業の設計部門にとどまらず建設現場・営業・商品開発・企画広報・事務・人材育成部門など多岐にわたる分野での活躍が期待され、近年大きな注目を浴びています。

さあ、あなたもCAD検定に挑戦し活躍のフィールドを拓いてみませんか。

建築CAD検定試験 実施概要

受験方法

団体受験

一般受験

試験日

1・4・7・10月(年4回)

※准1級は10月のみ

4・10月(年2回)

受験会場

全国の教育機関にて実施

全国主要都市の認定会場にて実施

※各回毎に異なりますので願書にてご確認ください。

建築CAD検定試験は、CADの操作技能レベルを客観的に判断し社会に証明するもので、全国の教育機関で採用される日本最大級のCADの実技検定試験です。

また、ジュニアマイスター顕彰制度の対象になっており、昨年度は3,527名の高校生が当資格の取得に向け果敢に挑戦されました。

試験はすべて実技試験で、一定の建築知識をもとに与えられた条件のもと建築一般図を完成させる、あるいは課題図面を正確にトレースするなど、CAD操作のスペシャリストとして認定しています。

◆試験の詳細についてはホームページをご覧ください  <http://www.aacl.gr.jp>



主催

一般社団法人

全国建築CAD連盟 試験センター

(本部) 〒461-0008 名古屋市中区武平町5-1 名古屋栄ビルディング7階 TEL. 052-962-5544 / FAX. 052-962-5570 E-mail info@aacl.gr.jp



総合資格学院は、
「今」最も合格者を輩出している
スクールです！

令和2年度 1級建築士 学科・設計製図試験

全国
ストレート
合格者占有率 **60.8%**
他講習
利用者
+ 独学者
当学院
当年度
受講生

全国ストレート合格者1,809名中/
当学院当年度受講生1,099名 (令和2年12月25日現在)

令和2年度 1級建築士 設計製図試験

全国
合格者
占有率 **53.8%**
他講習
利用者
+ 独学者
当学院
当年度
受講生

全国合格者3,796名中/
当学院当年度受講生2,041名 (令和2年12月25日現在)

令和2年度 1級建築士 学科試験

学習方法の選択で
合格に大きな影響が！

当学院基準達成
当年度受講生
合格率 **51.0%**

全国合格率20.7%に対して

8割出席・8割宿題提出達成
当年度受講生3,973名中/
合格者2,028名 (令和2年12月25日現在)

その他

3倍

独学、他スクール
利用者
合格率 **17.2%**
(令和2年12月25日現在)

令和2年度 2級建築士 学科試験

当学院基準達成当年度受講生合格率

8割出席・8割宿題提出・総合模擬試験正答率9割達成
当年度受講生855名中/合格者633名

当学院当年度受講生合格者数 **1,974名**

93.1%
その差**54.3%**
当学院基準達成者
以外の合格率 **38.8%**
(令和2年12月25日現在)

令和2年度 2級建築士 設計製図試験

当学院基準達成当年度受講生合格率

8割出席・8割宿題提出・模試2ラウンド達成
当年度受講生841名中/合格者695名

当学院当年度受講生合格者数 **1,974名**

82.6%
その差**31.9%**
当学院基準達成者
以外の合格率 **50.7%**
(令和2年12月10日現在)

※当年度のNo.1に関する表示は、全日本建築士会「No.1」表示に関する16の実績発表書に基づき掲載しております。※全国合格率・全国ストレート合格率は、(2級)建築技術者試験センター発表に基づきます。※総合資格学院の合格試験には、模擬試験のみを受験し、教材購入者、講師の授業受講者、過去受講生は含まれておりません。※学科・設計製図試験とは、令和2年度1級建築士学科試験に合格し、令和2年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

開催費用
無料

建設業界研究 セミナー 全学年対象

授業1コマまたは2コマ、貴校教室をお借りして実施！

建設業界の仕事内容・職種

業界の動向

企業紹介

地元企業の採用情報

役立つ資格

など

他、ビジネスマナー講習や保護者向け
セミナーなど先生方のご要望に応じ、
最適な内容をご提案します！



工業高校生向けの試験対策講座・ 資格取得啓発冊子をご用意しています!!

2級建築施工管理

一次検定 実戦問題演習コース

インプットとアウトプットのバランスの良いカリキュラムで
2級建築施工管理技術検定の第一次検定試験をめざす!!

2級建築士

実戦問題演習学科合格必勝コース

実習テストの報告と解説講義の視聴で勉強力UP!
各科目で重要事項をまとめた「お役所目録」で基礎力UP!

工業高校生であるメリットを活かした資格取得啓発冊子

工業高校生だから描ける 未来設計図



各種お申し込み・ご相談は、当学院 学校法人課まで

お気軽にお問合せください!!

☎ 03-3340-2810 学校法人課

✉ kenchiku@shikaku.co.jp



総合資格学院

スクリーンショット www.shikaku.co.jp 総合資格 校章



全国約100拠点

Twitter → @shikaku_sogo

LINE → 「総合資格学院」

Facebook → 「総合資格 校」で検索!

東京都知事認定

株式会社 鈴木組 ・ 鈴木職業訓練校



「とびを架設工に変える！！」

当社は建設業専門業種 鷹の職人の会社です。平成 6 年 東京都知事認定職業訓練校「建築施工系とび科」を開校し、現在 27 期生の新卒者（高校・大学・専門学校）が入社して 1 年間 訓練校にて、座学・実技の授業（訓練）を受け 2 年目から現場で活躍出来る様、取得可能な玉掛技能講習・クレーン運転 5 t 未満特別教育・研削といし特別教育の資格取得をしています。

訓練校での授業内容

計 1606 時間

学科	普通学科	48 時間	実技	系基礎実技	188 時間
	系基礎学科	344 時間		専攻実技	824 時間
	選考学科	202 時間			

【最近の主たる当社施工実績】

- ・新タワー(東京スカイツリー) 2013.4 竣工
- ・新宿駅新南口ビル及びバスタ新宿 2014.3 竣工
- ・東京農業大学世田谷キャンパス新研究棟整備 2019.11 竣工
- ・神田錦町二丁目計画 2020.2 竣工
- ・オリンピックアクアティクスセンター 2020.3 竣工
- ・高輪ゲートウェイ駅 2020.3 竣工
- ・東京女子医科大学東医療センター 2021.7 竣工
- ・パレスホテル 2012.4 竣工
- ・丸の内 1-3 計画 2020.8 竣工
- ・中央新幹線品川駅新設 2020.8 施工中他



富士教育訓練センターでの鉄骨建方実習

株式会社鈴木組（本社）

〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-43-3

電話：03-3822-1785 FAX：03-3822-1787

鈴木職業訓練校

〒121-0012 東京都足立区青井 4-44-20

電話：03-5681-1833 FAX：03-5681-1833



インターンシップ、学校見学も随時受付中



鈴木職業訓練校ってどんなところ

建築設計プラットフォーム

i-ARM Ver.3

建築プロジェクトのスタートアップツール

建築のデザイン検討や法適合確認、環境解析、設計図書作成が可能な3次元の建築設計ソフト。

※教育版価格は別途お問い合わせください。

立地条件を整理し初期検討をサポート

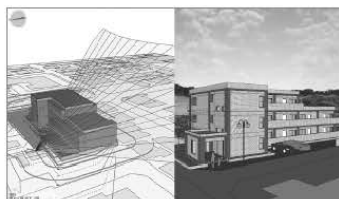
地理院地図や国土数値情報などのGISデータを利用して、立地条件を手早く整理することができます。建築可能空間・斜線制限・天空率・日影規制など、初期検討段階での法適合確認に役立ちます。

申請図書の作成をアシスト

設計検討から申請図作成までスピーディーに行えます。3Dモデルを使った平面、立面、断面などの一般図の作成はもちろん、法適合確認の根拠となる日影図や天空図などの各種申請図書の作成も可能です。

建築の法適合確認をカバー

建築基準法の集団規定だけでなく、単体規定に関わる法適合の確認機能も搭載されています。居室の採光・換気・排煙や防火防煙区画、避難経路の確認や検討も行えます。



建築設計・製図CAD

DRA-CAD19

スマートにつながる新しい設計環境

DRA-CADは、直感的な操作性と高いカスタマイズ性で設計者に応える国産の建築設計CADです。

PDFからCADデータへの変換、i-ARMをはじめとするBIMソフト、AutoCAD、Jw_cad、SXFなど、さまざまな形式のデータを有効利用でき互換性に優れています。意匠、構造、設備に関する専門コマンドや法規対応機能も標準装備し、画像や文字の表現手法も多彩です。

クラウドストレージにも対応し、モバイルアプリ「DRA Viewer」を使って、いつでもどこでも図面を確認できます。



データ提供：北海道建築設計監理 様

株式会社 **建築ピボット**
(構造システム・グループ)
<https://www.pivot.co.jp/>

本社営業 〒112-0014 東京都文京区関口2-3-3 TEL 03-6821-1691 FAX 03-5978-6215

大阪支社 06-6232-0760 札幌営業所 011-218-6628 仙台営業所 022-267-2811 名古屋営業所 052-583-0350 福岡営業所 092-716-9311

高度な解析性能と優れた操作性の調和

任意形状立体フレームの弾塑性解析

SNAP Ver.8

SNAPは、任意形状の構造物に対し部材レベルの弾塑性の動的応答解析、応力解析、増分解析を行います。優れた操作性と高度な解析機能を兼ね備え、データ入力から解析結果の表示・出力まで、スピーディーに行えます。解析モデルの節点数等に制限はなく、マルチスレッドによる並列処理により高速に解析できます。また、豊富な自動計算機能により解析モデル作成を支援します。解析結果は、表により詳細から全容までが簡潔にまとめられ、図やグラフにより視覚的に把握できます。部材や装置単体から超高層建物や大空間構造まで規模によらず、さらに免震制振構造や伝統的木造建築物にも対応できます。

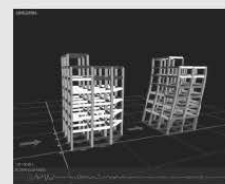
※教育版価格は別途お問い合わせください。

解析結果のアニメーション表示ツール

関連製品

SNAP-GP Ver.2.5

SNAPの動的応答解析および増分解析の履歴をワイヤーフレームや3Dソリッドモデルで再現し、変形性状・部材の損傷状態を容易に把握することができます。

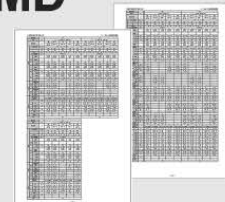


RC/SRC/S造および木造の断面計算

アドイン製品

SNAP-MD

RC/SRC/S造ならびに木造の断面計算を行います。断面計算に関する諸条件と荷重ケースを設定することで、SNAP上で断面計算を行います。



株式会社 **構造システム**
URL <https://www.kozo.co.jp/>

本社営業 〒112-0014 東京都文京区関口2-3-3 TEL 03-6821-1311 FAX 03-5978-6215
大阪支社営業 〒541-0041 大阪市中央区北浜1-1-10 TEL 06-6203-2430 FAX 06-6203-4117
札幌営業所 TEL 011-218-6628 仙台営業所 TEL 022-257-2811 名古屋営業所 TEL 052-583-0350 福岡営業所 TEL 092-716-9311

教職員の皆様！

全国の工業高校で多数使われている、資格合格への必勝テキストをご案内します。
全国全ての都道府県で採用頂いております。

1

施工管理テキスト・問題集の販売

建築業界を担う人材の第一歩、二級建築施工管理技術検定を受験される
学生様応援として、高い実績のある
日建学院オリジナルテキスト・問題集をご用意しています。

二級建築施工管理技士
テキスト・問題集

二級土木施工管理技士
テキスト・問題集

全面カラー
目で見て覚える受験
テキスト



試験に合格の
エッセンスを
凝縮



2

ニーズに沿った 資格ガイダンス

資格習得への動機づけを促す
ガイダンスから各種国家試験
の合格率情報、具体的な本試
験の概要など、高い分析力を
誇る日建学院ならではのガイ
ダンスをご用意しています。

3

受験対策講義会の 実施 (建築・土木)

日建学院のテキスト・問題集を
教材とした、より本格的な資格
習得への学習レポートとしての
受験対策講習会をご用意してい
ます。

佐世保工業高校が上記テキストで**全員合格**の快挙！

新聞でも掲載されました。詳しくはこちら



建築科39名、土木科38名、
計77名（3年生）の生徒さん
全員が各々の資格に合格されました



メールでのお問い合わせは
こちらからどうぞ。



お問い合わせは、お近くの日建学院か、
下記、法人部学校担当までお気軽にどうぞ。
(株)建築資料研究社（日建学院）/営業本部 法人部学校担当

TEL 03-6872-1158

合格実績 No.1 日建学院

※平成30年間の1級建築士の合格実績（1級建築士の合格者数計15830人中、日建学院00284人）

建設産業人材確保・育成推進協議会

いのちを守り
未来をつくる建設産業

Twitter

#建設産業人材協

人材協の取組や
建設産業の魅力を発信！



公式サイト

#建設現場へGO！

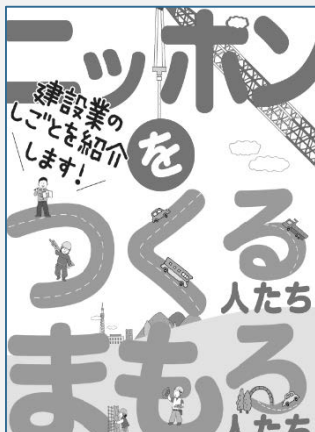
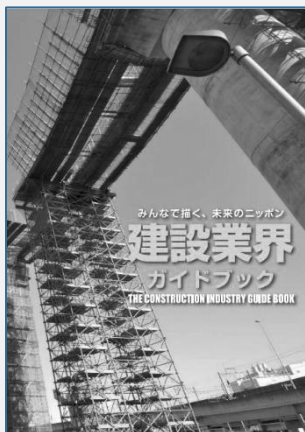
建設産業の
jobポータルサイト



YouTube

#人材協チャンネル

担い手確保・育成に関する
様々な動画を発信！



冊子のダウンロード

建設産業のしごとを
わかりやすく紹介！

#建設業界ガイドブック

#ニッポンをつくる人たち
まもる人たち



お問い合わせ

建設産業人材確保・育成推進協議会

事務局：国土交通省 不動産・建設経済局 建設市場整備課 TEL : 03-5473-4572

(一財) 建設業振興基金

FAX : 03-5473-4594

経営基盤整備支援センター人材育成支援課

MAIL : jinzai@kensetsu-kikin.or.jp

28. 編集後記

群馬県立館林商工高等学校
根岸 俊行

東日本建築教育研究会関係者の皆様のご指導とご協力により、本年度も「建築教育ニュース2021」を完成することができました。
原稿の執筆いただいた方々に感謝申し上げます。

建築教育ニュース2021

発行日	2021年 9月
編集	編集委員会 根岸 俊行
発行	東日本建築教育研究会
事務局	東京都立田無工業高等学校 建築科内 東日本建築教育研究会 事務局 小林 勝広 〒188-0013 東京都西東京市向台町1-9-1 TEL 042-464-2225 FAX 042-467-5532
編集事務局	群馬県立館林商工高等学校 建築科内 東日本建築教育研究会 編集委員会 根岸 俊行 〒370-0701 群馬県邑楽郡明和町南大島660 TEL 0276-84-4731 FAX 0276-84-5258
印刷	株式会社 エスプリ 〒135-0033 東京都江東区深川1-6-7 TEL 03-3641-1891 (代) FAX 03-3641-1923